



Title	母子生活支援施設の評価とソーシャルワークに関する研究
Author(s)	岩田, 美香
Citation	教育福祉研究, 10(2), 41-129
Issue Date	2004-02
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/28378
Type	bulletin (article)
File Information	10(2)_P41-129.pdf



[Instructions for use](#)

母子生活支援施設の評価とソーシャルワークに関する研究

岩田 美香

1 はじめに

(1) 調査の目的

本研究は、母子生活支援施設利用者、施設職員、地域に暮らす母子世帯という三つの側面からの意見をすりあわせることにより、今後の母子生活支援施設のあり方と施設におけるソーシャルワークを考察するものである。具体的には、「施設利用者への調査」、その調査結果を受けて実施した「母子生活支援施設の施設長と職員への調査」、また「施設を退所した母子世帯」・「地域に暮らす母子世帯」への調査を通して、施設内での要望や苦情に対する施設側の対応・意見・意識、さらに母子生活支援施設への評価と期待を明らかにしていく。

本研究のデータの一部は、「生別母子家族がもつ資源の構造と自立支援に関する研究—北海道における母子生活支援施設と地域との比較から—」(平成13～15年度科学研究費補助金「萌芽的研究」課題番号13871027)の交付を受けて実施されている研究に位置している。

(2) 4種類の調査についての概要

本研究では、以下にあげる4つの調査データを用いている。それぞれについて、調査概要を記していく。

1) 利用者への調査

母子生活支援施設利用者への調査結果については、すでに報告書(北海道母子生活支援施設連合会『母子生活支援施設を利用している方の生活と意識に関する調査報告書』2002年)にまとめている。詳細はその報告書を参照のこと。

①手続きと期間

北海道内に存在する全ての母子生活支援施設(札幌6ヶ所、江別1ヶ所、函館2ヶ所、小樽1ヶ所、旭川2ヶ所、計12施設)の協力を得て、入所している母親を対象に質問紙調査を実施した。調査票は、施設を通して配布回収したが、回収では個別の封筒に封をして留め置きする回収の形式をとり、回答者のプライバシーに配慮をした。また、調査票の最後で、面接調査に応じてくれる方に名前と連絡先を記してもらい、後日、面接調査を実施した。

質問紙調査期間は、2001年7月であり、面接調査期間は、2001年9～12月である。

②調査の対象

【質問紙調査】

北海道内にある12の母子生活支援施設に入所している全母親を対象に180票を配布し、163票を回収した。回収率は90.6%である。

【面接調査】

質問紙調査で応諾してくれた母親の中から、本報告では、下記の「3)施設退所の母子世帯への調査」データと比較するため、A市分でのデータ(6名分)を用いて分析する。

③調査内容

調査票は、次のような項目で構成されている。質問紙調査について、本報告書では母子生活支援に関する調査結果の部分を用いる。

【質問書調査】

- ・母親自身と家族の様子(家族構成、健康状態、母親の学歴、仕事の状態、世帯年収)
- ・子どもと子育て(子どもの様子、子育ての様子、子育てのネットワーク、子育ての悩みと相談相手、子どもへの期待)
- ・母子生活支援施設に入所するまでの生活(母

子世帯となった理由と経過年数、母親の成育過程での家族の様子)

- ・母子生活支援施設での生活（施設での経過年数、施設内でのネットワーク、施設への感想や要望、母親自身の生活の悩みと相談相手）
- ・今後の生活に向けて（退所への希望の有無、社会的偏見、退所後の施設への要望）

【面接調査】

- ・フェイスシート
- ・現在の生活とこれまでの生活
- ・今後の生活
- ・母子生活支援施設について

2) 施設長・施設職員への調査

①手続きと期間

北海道内に存在する全ての母子生活支援施設計12施設の協力を得て、施設長並びに、施設職員（主任レベル1名・新人レベル1名）への面接調査を実施した。原則的には、施設長・各職員、それぞれについて個別で面接を行ったが、一部で施設長や他の職員が同席のもとに実施した施設もある。

調査期間は、2003年3～5月である。

②調査の対象

北海道内母子生活支援施設の施設長12名、および施設職員23名。施設職員は、主任レベル1名・新人レベル1名を予定していたが、産休等の理由により、その条件が揃わなかった施設もある。また人数についても、施設長のみが行った施設・3名の職員を調査した施設があり、結果、職員の被調査者は23名となった。

③調査内容

調査票は、次のような項目で構成されているが、面接は半構造化面接としたため、調査項目にない内容についても、被調査者が話の流れの中で語ってくれた回答が報告書に反映されているものもある。

【施設長調査】（資料1参照のこと）

- ・施設の概要
- ・利用者への調査を受けての感想・改善点、変化のない場合の理由

- ・施設の今後へ向けて

【職員調査】（資料2参照のこと）

- ・フェイスシート
- ・母子生活支援施設の職員となったときの感想、大変だったとき・うれしかったとき、
- ・職員として大切なこと、これまでに参加した研修
- ・母子世帯への援助の実際、「自立」援助の成功例・失敗例、指導や支援にとって必要なこと
- ・母子世帯に対する意識（生活保護受給者への意識、「自立」概念、援助困難な課題）
- ・母子生活支援施設の今後（報告書の感想、施設の今後へ向けて）

3) 施設退所の母子世帯への調査

①手続きと期間

A市の母子生活支援施設を通して、地域に暮らす母子世帯を紹介してもらい、それぞれについて個別に面接調査を実施した。

調査期間は、2002年10月である。

②調査の対象

A市において、かつて母子生活支援施設を利用し、現在は地域に暮らしている母子世帯の母親7名。

③調査内容

調査票は、次のような項目で構成されているが、本報告書では母子生活支援の評価に関する調査結果の部分のみを用いる。

- ・フェイスシート
- ・現在の生活とこれまでの生活
- ・今後の生活
- ・母子生活支援施設について

4) 保育園・幼稚園における母子世帯への調査

この調査は、当初予定されていなかったが、上記「3）施設退所の母子世帯への調査」を補うべく実施した。すなわち、「3）の調査」をもって、地域に暮らす母子世帯の生活と母子生活支援施設への意見を調べる予定であったが、被調査者の紹介ルートからしても、施設の認知について「既に施設を知っている」というバイアスがかかってし

まったため、特に施設の認知に関わって、この調査を設定した。

①手続きと期間

札幌市内の1保育園・1幼稚園（いずれも、近隣には母子生活支援施設が存在していない）の協力を得て、両園を利用している母子世帯を対象に自由回答で答える形の質問紙調査を実施した。

調査票は、施設を通して配布回収したが、回収では個別の封筒に封をして留め置きす回収の形式をとり、回答者のプライバシーに配慮をした。

調査期間は、2003年6月である。

②調査の対象

上記1保育園・1幼稚園を利用している母子世帯の母親を対象に37票を配布し、15票を回収した。回収率は40.5%である。

③調査内容

調査票は、次のような項目で構成されている（資料3参照のこと）。

- ・家族構成と両親・親族との居住の近さ
- ・母子生活支援施設の認知と要望
- ・地域で暮らすことの困難さ
- ・母子世帯の「自立」

（3）構成と用いるデータ

本稿では、前述の目的に添うように、全部で6節構成となっている。第2節では、前述「1）利用者への質問紙調査」結果を用い、第3節では「2）施設長への調査」結果を用いる。続く第4節では「2）施設職員への調査」結果を、また第5節1では「4）保育園・幼稚園における母子世帯への調査」結果を、第5節2では「1）利用者への面接調査」結果と「3）施設退所の母子世帯への調査」結果を用いた。

第3節～5節については、どのデータにおいても質的内容を問うデータとなっており、記載に際しては個人のプライバシーに十分に配慮した。すなわち、回答を掲載する順番についても、施設ごととはせずにランダムに配置した。従って、例え

ば、ある質問項目の第一番目に記載されている回答の被調査者が、他の質問項目においても第一番目に位置しているわけではない。また、個人が特定されやすい内容については、個人が特定化されやすい部分は削除する等の工夫をした。中でも、施設職員に対する調査では、日頃の実践の話を聞き出しやすくするために、個別の事例をあげてもらいながら面接を進めていったが、具体的な事例内容については、事例となる本人の承諾も得ていないため、報告書内では紹介していない。

2 母子生活支援施設利用者への調査

（『母子生活支援施設を利用している方の生活と意識に関する調査報告書』まとめより）

北海道における母子生活支援施設利用者の特徴について、彼女たちの生活基盤、子育ての状況、社会的ネットワーク、母子生活支援施設への要望、将来の生活への見通しを中心にまとめる。なお、詳細については上記報告書を参照されたい。

（1）母子世帯の生活基盤

母子生活支援施設を利用している母親たちは、年齢で見ると30歳代が多く、母子となった理由では、離婚や未婚・非婚が高い。施設への入所も、母子世帯となったばかりの頃に入所するケースが多く、地域性をみても、母子となった地域にある母子生活支援施設を利用している。

学歴では高卒・中卒が多く、なかでも無職層の低学歴が目立っている（表1）。全体の8割の母親は勤めに出ているが、半数以上がパート就労であり、常勤は3割に留まっている（表2）。収入構成は、勤労収入・生活保護費・児童扶養手当が主であり、別れた夫からの養育費は1割程度である。世帯年収でみても200万円未満が6割を越え、300万円未満でみると9割を超えている状態であり、生活基盤そのものが弱い（表3）。そのためか、通院時間や費用のために病院行きを控えることが「ある」と回答している母親が6割も存在している（表4）。

表1 現在の仕事と本人学歴のクロス表

		本人学歴				合計
		中学卒業	高校卒業	短大・専学卒	大学卒業以上	
現在の仕事	勤めに出ている	20 16.3%	78 63.4%	24 19.5%	1 0.8%	123 100.0%
	無職	13 40.6%	14 43.8%	4 12.5%	1 3.1%	32 100.0%
	その他	2 40.0%	3 60.0%			5 100.0%
	N A		2 100.0%			2 100.0%
合計		35 21.6%	97 59.9%	28 17.3%	2 1.2%	162 100.0%

表2 利用年数と雇用形態のクロス表

		雇用形態					合計
		常勤	嘱託	臨時	パート	その他	
利用年数	～1年	6 22.2%		3 11.1%	17 63.0%	1 3.7%	27 100.0%
	1～3年	15 44.1%			17 50.0%	2 5.9%	34 100.0%
	3～5年	4 21.1%		1 5.3%	12 63.2%	2 10.5%	19 100.0%
	5年～	15 32.6%	4 8.7%	2 4.3%	25 54.3%		46 100.0%
合計		40 31.7%	4 3.2%	6 4.8%	71 56.3%	5 4.0%	126 100.0%

*雇用形態の「その他」の記載内容

- ・派遣契約社員（3名）
- ・アルバイト
- ・店長と友人で、人が辞めた時だけ手伝いに行く。

表3 現在の仕事と世帯収入のクロス表

		世帯収入				合計
		200万未満	200～300万未満	300～500万未満	500～700万未満	
現在の仕事	勤めに出ている	68 57.1%	41 34.5%	10 8.4%		119 100.0%
	無職	22 75.9%	6 20.7%		1 3.4%	29 100.0%
	その他	4 100.0%				4 100.0%
	N A	1 50.0%	1 50.0%			2 100.0%
合計		95 61.7%	48 31.2%	10 6.5%	1 0.6%	154 100.0%

また、本来であれば頼るであろう彼女たちの親や親族のネットワークについても、父親の5割、母親の7割は道内にいるが、一方で無職層について見れば、その半分は父親が死亡している（表5・6）。さらに親がいても、その親に十分な援助を

頼れない、すなわち彼女たちの親の生活基盤もまた弱いという場合も少なくない。それを裏付けるように、彼女たちの成育過程での家族構成を見てみると、「父」・「母」の存在が中学生で8割代に、20歳で6割に落ち込んでいる（表7）。それは、

表4 現在の仕事と通院控えるのクロス表

		通院控える		合 計
		あ る	な い	
現 在 の 仕 事	勤めに出ている	77 63.1%	45 36.9%	122 100.0%
	無 職	16 51.6%	15 48.4%	31 100.0%
	その他	2 40.0%	3 60.0%	5 100.0%
	N A	1 100.0%		1 100.0%
合 計		96 60.4%	63 39.6%	159 100.0%

表5 現在の仕事と父親住居のクロス表

		父 親 住 居				合 計
		道 内	道 外	死 亡	そ の 他	
現 在 の 仕 事	勤めに出ている	69 56.1%	7 5.7%	42 34.1%	5 4.1%	123 100.0%
	無 職	13 40.6%	2 6.3%	16 50.0%	1 3.1%	32 100.0%
	その他	3 60.0%	1 20.0%	1 20.0%		5 100.0%
	N A		1 50.0%	1 50.0%		2 100.0%
合 計		85 52.5%	11 6.8%	60 37.0%	6 3.7%	162 100.0%

*父親の住居の「その他」の記載内容

- ・ 離別 ・ 生死、行方共に不明。 ・ 老健に入所 ・ わからない

表6 現在の仕事と母親住居のクロス表

		母 親 住 居				合 計
		道 内	道 外	死 亡	そ の 他	
現 在 の 仕 事	勤めに出ている	84 68.9%	8 6.6%	26 21.3%	4 3.3%	122 100.0%
	無 職	21 65.6%	4 12.5%	6 18.8%	1 3.1%	32 100.0%
	その他	2 40.0%		3 60.0%		5 100.0%
	N A			2 100.0%		2 100.0%
合 計		107 66.5%	12 7.5%	37 23.0%	5 3.1%	161 100.0%

*母親の住居の「その他」の記載内容

- ・ 蒸発 ・ わかりません ・ 離婚 ・ 病院入院中

母親自身が早期に結婚して新しい家族を形成しているためでもあるが、全体の27%が両親の離婚を経験し、家庭内でのけんかや暴力が絶えず、経済的困窮も存在していたという、複雑な家族構成・家族環境も関連しているのであろう(表8)。そ

うした彼女たちの複雑な家族環境の中で育ってきたことが、今、親として子育てをしていくことへのハンデに繋がっていると思われる。このことは、彼女たちの抱えている問題が、単に個人的な要因だけで特徴づけられるものではないことを示して

表7 家族構成(複数回答)

()は実数

	小学校入学時	中学校入学時	20歳時
父	91.9% (147)	85.7% (138)	59.5% (94)
母	92.5% (148)	88.8% (143)	67.1% (106)
兄弟姉妹	88.8% (142)	85.1% (137)	65.2% (103)
祖父	11.9% (19)	6.8% (11)	3.8% (6)
祖母	25.0% (40)	20.5% (33)	10.1% (16)
おじ、おば	7.5% (12)	6.2% (10)	5.1% (8)
いとこ	6.3% (10)	5.6% (9)	4.4% (7)
その他	3.8% (6)	6.2% (10)	24.7% (39)
合計	(524)	(491)	(379)

*小学校時の「その他」の記載内容

- 母はまだ元気ですが、三歳の時捨てられました。
- 祖母の姉、犬三匹 ・ 使用人 ・ 施設 ・ 入籍していない母代わり(他人)

*中学校時の「その他」の記載内容

- 義父 ・ 母の恋人 ・ 施設にいた(2名) ・ 義母 ・ 使用人 ・ 入籍していない母代わり(他人)

*20歳時の「その他」の記載内容

- 一人暮らしをしていた。(19名) ・ 夫(4名) ・ 夫と子供(7名) ・ 三ヶ所に分かれていた。
- 夫、義理の妹 ・ 地方から進学のために札幌に出てそのまま20歳で就職したので実家には両親のみ。
- 自身は寮生活 ・ 結婚していた ・ 自分の子供 ・ 姪
- 19歳で結婚。夫、おなかに赤ちゃんが居ました。
- 夫、長男、夫の両親

表8 20歳までに経験したこと(複数回答)

	パーセント	回答数
母死亡	7.2%	10
父死亡	13.7%	19
両親離婚	26.6%	37
母子寮	2.9%	4
施設	4.3%	6
円満家庭	25.2%	35
入、通院	18.7%	26
けんか絶えず	25.9%	36
暴力的	12.9%	18
家を空ける	10.1%	14
病気	6.5%	9
経済的困窮	31.7%	44
生保	4.3%	6
その他	17.3%	24
合計		288

*「その他」の記載項目

- 私が結婚した。
- 父が亡くなる一ヶ月位前～弟と二人暮らしをし、自炊した(中3の夏)
母が入院した時一ヶ月程、母の弟の家に預けられた(高2の夏)
弟が中学卒業後、学校(高専)の寮に入った(高2の春)
高2の秋に母の旧姓に改姓した。
- 母が昼も夜も働きに出ていた。
- 四歳から小学校二年生までの間、両親の離婚が決まるま

で父方の親戚の家に預けられ、弟は養子に行った。

- 両親がとても忙しく遊んでもらったり、どこかに行ったことがほとんど無い。
- 父がアルコール中毒だった。
- 私が19歳で結婚した。
- 母の過干渉により、私達姉妹との関係が悪化していた。
- 母親に虐待されていた。
- 父がお酒を飲むと母とけんかしていた。母がよく子供に助けを求めてきた。父は私達には手を挙げなかった。(飲まないとても良い父でした)
- 親戚の家に預けられる。精神的苦痛を受ける。
- 母が交通事故で三年間ほとんど病人状態だった。(小1～小3)
父が胃が悪く三度ほど入院をした。(小1～高2)
父の仕事の関係で、生まれてから中学3年まで、365日父と一緒に生活した事はない。高1よりずっと両親と一緒に過ごすようになりました。
- 父は会社を経営し、母は看護教員だった。母は仕事で忙しかった。晩年は穏やかだったが、父は短気な人だった。
- 破産宣告を両親がした。叔父が奥さんを殺していじめにあった。14歳の時にレイプされた。自分が四歳の頃に叔母に虐待されていた。
- 父親→出稼ぎで年に3～5回帰宅。
- 私と母がとても仲が悪かった。
- 両親が離婚し、子供達は父方に引き取られ直ぐに父が再婚し、義母が来ました。
- 仕事で主で家族愛が薄かった。気持ちはあっても本人に伝わらない愛情。
- 父がケンカの時、たまに暴力をつかった。
- 実兄から暴力を受けていました。(毎日)
- 祖父が亡くなった
- 祖母の死

いる。

(2) 子育ての状況

母親たちに、一日の生活の中で、楽しい時と辛い・おもしろくない時をたずねていくと、楽しい時では「子どもと一緒にいる時間」・「自分自身の時間」・「仕事をしている時」があげられ、辛い時では、「仕事」・「疲れている時」・「慌ただしい時」・「人間関係」・「子どものトラブルがある時」があげられる。母親たちにとって、楽しくもあり、辛くもある子育ての現状を見て行く。

まず、子どもたちの様子から見ると、保育園や学校へは8割が元気に登校しているが、無職層では、その割合が7割に落ち込んでいる(表9)。習い事については、経済的に習わせてない場合もある一方で、複数の習い事をさせている家庭もあり、1ヶ月に子ども一人あたりにかけている平均費用は7,030円である。この金額に対する母親たちの評価では、「できれば、もっとかけてあげたい。」が半数を越えており、少ない収入の中で、子どもたちへの教育にできる限りのことをしてあげたいという思いが読みとれる。子どもに対する期待では、「優しい子」、「健康」、「他人に迷惑をかけない」、「自分のやりたいことを」といった子育て一般に見られる子どもへの期待とともに「自立」をあげていることも特徴的である。その一方で、自分の子育てへの不安が存在しているのか、他の子どもと比較してしまうことが「たまにある」母親が4割であり、中でも無職層の母親は、比較することが「よくある」が25%、「たまにある」が38%と、より他児との比較をする傾向にある(表10)。

先に、母親たちの成育過程の家族環境の複雑さについて触れたが、彼女たちは誰から子育てを学んできたのだろうか。自分の子育てでためになった人をたずねると、第1位が「友人・知人」、第2位が「自分の母親」、第3位が「施設の職員」と回答しており、施設が単なる居住の場の提供だけではなく、母親の子育て援助を通して、子どものための施設としての機能を担っていることがわ

かる(表11)。

最後に子どもと過ごす時間では、子どもとの話し合いが「まあとれている」が半数を超えているものの、「十分にとれている」家庭は平日で17%、休日でも37%である。無職の母親であっても、平日で32%、休日で43%に留まっており、時間の有無だけではない親子間のコミュニケーションの難しさを示している(表12・13)。夕食では、9割近くが一緒に夕食をとっており(表14)、過去一年間の親子での旅行についても6割が行っている(表15)。この旅行に関する数値は、父母子世帯をも含めた道内の子どもの生活調査(北海道民生員児童委員連盟『子どもの未来を創る—基本調査報告書』2002年)での76%を下回るものの、道内の地域に住む母子世帯の調査(北海道民生員児童委員連盟『単親(母子・父子)家庭生活実態調査報告書』1994年)での38%に比べて高く、母親たちが、施設の援助も利用しながら、子どもと過ごす時間を優先すべく努力している様子がうかがえる。このことは一方で、母親が就労する際に雇用機会の多い休日や夜間の仕事を選択しない(できない)という形で子育ての時間を確保しており、結果として就職の機会が狭まれてしまっているのである。

(3) 母親の社会的ネットワークと問題解決

母親たちは、親族以外では、どのように社会的な結びつきをもち、問題解決をはかっているのだろうか。

親族以外の話し相手が「たくさんいる」母親は少ないものの、「数名いる」母親は半数近く存在している。また無職層では、「1~2名いる」の割合が高く、より小さなネットワークの中に存在している(表16)。さらに深いつきあいとして、「子どもの預けあい」ができるような関係で見えていくと、「いない」が5割近くになっている(表17)。ご近所づきあいでは、「なし」が4割、「あいさつ程度」が3割、「立ち話をする」が2割程度であり、お互いの家に行き来するようなネットワークが地域では展開されていないし、今後の要望とし

表9 現在の仕事と登校状態のクロス表

		登 校 状 態					合 計
		元気に登校登園している	ときどき休む	よく休む	保育園にかよわせていない	その他	
現在の仕事	勤めに出ている	105 86.1%	9 7.4%	3 2.5%		5 4.1%	122 100.0%
	無 職	22 71.0%	5 16.1%		1 3.2%	3 9.7%	31 100.0%
	その他	3 60.0%		1 20.0%		1 20.0%	5 100.0%
	N A	1 100.0%					1 100.0%
合 計		131 82.4%	14 8.8%	4 2.5%	1 0.6%	9 5.7%	159 100.0%

*「その他」の記載内容

- ・イヤイヤ登園(登校)している(2名) ・病院やリハビリなどで。
- ・保育園に空きが無いため、事務所で預かってもらっているが、毎朝泣いて私から離れない。
- ・保育園に連れて行くが、行きたがらない。 ・できれば休みたいと思いながら行ってる。
- ・下の子(3歳)が人見知り激しいため、まだ慣れなくて泣くわめく。

表10 現在の仕事と比較のクロス表

		比 較				合 計
		よくある	たまにある	あまりない	な い	
現在の仕事	勤めに出ている	6 4.9%	52 42.3%	47 38.2%	18 14.6%	123 100.0%
	無 職	8 25.0%	12 37.5%	5 15.6%	7 21.9%	32 100.0%
	その他		3 60.0%		2 40.0%	5 100.0%
	N A			2 100.0%		2 100.0%
合 計		14 8.6%	67 41.4%	54 33.3%	27 16.7%	162 100.0%

表11 子育てについてためになっているもの
(3つまでの複数回答)

	パーセント	回答数
母親	58.9%	93
兄弟姉妹	21.5%	34
親戚	11.4%	18
友人知人	60.1%	95
保健師	10.1%	16
看護師	10.8%	17
保育所の先生	15.8%	25
施設職員	28.5%	45
相談機関	7.0%	11
授業	3.8%	6
その他	16.5%	26
合 計		386

*「その他」の記載内容

- ・エホバの証人、聖書から子育ての原則を教えてもらいました。
- ・主人の母親 ・育児雑誌や本・テレビ(7名)
- ・自分の妹を育てていたこと。 ・いない(2名)
- ・どこかの小学校で相談員をなさっている方。
- ・前に寮の行事で番屋の湯に行った時、お話し下さった先生(男性)
- ・他のお母さんなど ・看護学校で学んだこと
- ・自分が子供の頃だったら? と考えて(自分の体験、経験)(2名)
- ・かかりつけの病院の先生(2名)
- ・私の母は家事がダメで、祖母がほとんどしてくれたので、誰ということはないです。

表12 現在の仕事と平日話し合いのクロス表

		平日話し合い			合 計
		十分取れ ている	まあ取れ ている	あまり取れ ていない	
現 在 の 仕 事	勤めに 出ている	15 12.3%	66 54.1%	41 33.6%	122 100.0%
	無 職	9 32.1%	18 64.3%	1 3.6%	28 100.0%
	その他	3 60.0%	1 20.0%	1 20.0%	5 100.0%
	N A		1 50.0%	1 50.0%	2 100.0%
合 計		27 17.2%	86 54.8%	44 28.0%	157 100.0%

表14 現在の仕事と食事のクロス表

		食 事			合 計
		ほとんど 毎日	週に半分 くらい	ほとん どない	
現 在 の 仕 事	勤めに 出ている	106 86.9%	14 11.5%	2 1.6%	122 100.0%
	無 職	30 93.8%	1 3.1%	1 3.1%	32 100.0%
	その他	4 80.0%	1 20.0%		5 100.0%
	N A	2 100.0%			2 100.0%
合 計		142 88.2%	16 9.9%	3 1.9%	161 100.0%

表13 現在の仕事と休日話し合いのクロス表

		休日話し合い			合 計
		十分取れ ている	まあ取れ ている	あまり取れ ていない	
現 在 の 仕 事	勤めに 出ている	43 35.2%	70 57.4%	9 7.4%	122 100.0%
	無 職	9 42.9%	11 52.4%	1 4.8%	21 100.0%
	その他	3 75.0%	1 25.0%		4 100.0%
	N A		2 100.0%		2 100.0%
合 計		55 36.9%	84 56.4%	10 6.7%	149 100.0%

表15 現在の仕事と旅行等のクロス表

		旅 行 等		合 計
		行った	行かなか った	
現 在 の 仕 事	勤めに 出ている	72 58.5%	51 41.5%	123 100.0%
	無 職	16 50.0%	16 50.0%	32 100.0%
	その他	4 80.0%	1 20.0%	5 100.0%
	N A	2 100.0%		2 100.0%
合 計		94 58.0%	68 42.0%	162 100.0%

表16 現在の仕事と話し相手のクロス表

		話 し 相 手				合 計
		たくさんいる	数名いる	1～2名いる	いない	
現 在 の 仕 事	勤めに 出ている	19 15.6%	59 48.4%	35 28.7%	9 7.4%	122 100.0%
	無 職	4 12.5%	14 43.8%	14 43.8%		32 100.0%
	その他		2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	5 100.0%
	N A		2 100.0%			2 100.0%
合 計		23 14.3%	77 47.8%	51 31.7%	10 6.2%	161 100.0%

てもあがっていない。むしろ無職層の方が、より地域での交流をもっており、今後の要望も抱いている（表18・19）。

こうした比較的小さなネットワークをもっている母親たちは、どこで自らの悩みや不安を相談し

ているのであろうか。子育ての悩みから見ていくと、悩みの内容としては「しつけ」、「施設での生活」、「学習・進路」、「保育園・学校」があがっており、その相談相手は「家族・親族」、「友人・知人」、「施設職員」の順になっている。一方で相談

表17 現在の仕事と預けるような付き合いのクロス表

		預けるような付き合い				合 計
		たくさんいる	数名いる	1～2名いる	いない	
現在の仕事	勤めに出ている	2 1.6%	25 20.5%	40 32.8%	55 45.1%	122 100.0%
	無 職		6 18.8%	10 31.3%	16 50.0%	32 100.0%
	その他				5 100.0%	5 100.0%
	N A			1 50.0%	1 50.0%	2 100.0%
合 計		2 1.2%	31 19.3%	51 31.7%	77 47.8%	161 100.0%

表18 現在の仕事と近所との交流のクロス表

		近 所 と の 交 流				合 計
		お互いの家に行き来する	会えば立ち話しをする	あいさつをする程度	ほとんど近所での付き合いはない	
現在の仕事	勤めに出ている	10 8.2%	22 18.0%	37 30.3%	53 43.4%	122 100.0%
	無 職	4 12.5%	9 28.1%	6 18.8%	13 40.6%	32 100.0%
	その他	2 40.0%		2 40.0%	1 20.0%	5 100.0%
	N A		1 50.0%	1 50.0%		2 100.0%
合 計		16 9.9%	32 19.9%	46 28.6%	67 41.6%	161 100.0%

表19 現在の仕事と近所と交流したいかのクロス表

		近所と交流したいか		合 計
		思 う	思わない	
現在の仕事	勤めに出ている	37 30.6%	84 69.4%	121 100.0%
	無 職	17 54.8%	14 45.2%	31 100.0%
	その他	2 40.0%	3 60.0%	5 100.0%
	N A		1 100.0%	1 100.0%
合 計		56 35.4%	102 64.6%	158 100.0%

相手が「特にいない」という母親も6%存在している(表20)。また、母親自身の悩みについてみれば、「仕事」や「経済的」なこと、そして「自分の将来」について悩んでおり、「家族・親族」、「職場の友人・知人」、「施設の友人」に相談して

おり、「施設職員」は、子どもに関する悩みの時より減少傾向にある(表21)。やはり施設の先生に対しては、子どものことは相談できても、自分自身の悩みは相談しづらいのであろうか。

では、より実体的な援助を必要とする場合ではどうであろうか。母親自身が病気の時に子どもの世話を誰に頼むかについては、「親戚」が高いものの「施設内友人」や、「施設の先生」も頼りにされているのがわかる(回答の選択肢に設けなかったため自由回答から読みとった)。その一方で「特にいない」が全体で22%、無職層の母親では37%も存在している(表22)。まとまったお金が必要になった時には、「預金をくずす」が45%、「親戚から借りる」が18%、「公的資金から借りる」が13%となっている。

このように、母親たちの社会的ネットワークは、さほど大きなものではないが、施設内や職場やプ

表 20 現在の仕事と子どもの困りごとの相談相手のクロス表

		子どもの困りごとの相談相手										合計
		家族・親族	職場の友人	施設内の友人	施設以外の近所の友人	それ以外の友人・知人	施設の職員	学校の先生	地域の相談員	その他	その他	
現在の仕事	勤めに出ている	42 34.7%	11 9.1%	16 13.2%	3 2.5%	22 18.2%	14 11.6%	1 0.8%	1 0.8%	4 3.3%	7 5.8%	121 100.0%
	無職	7 21.9%		4 12.5%	1 3.1%	5 15.6%	7 21.9%	2 6.3%	2	3 9.4%	1 3.1%	32 100.0%
	その他	2 40.0%				1 20.0%				1 20.0%	1 20.0%	5 100.0%
	N A						1 50.0%				1 50.0%	2 100.0%
合計		51 31.9%	11 6.9%	20 12.5%	4 2.5%	28 17.5%	22 13.8%	3 1.9%	3 1.9%	8 5.0%	10 6.3%	160 100.0%

*「その他」の記載内容

- ・保育園の先生
- ・病院の先生
- ・別れた夫
- ・今までに困った事がない。
- ・遠方にいる友人
- ・施設の職員
- ・相談しても親身になって考えてくれないので、ほとんど相談しないことにしている（特に施設では）。
- ・誰にも言わない。言ったところで分からない。自分で解決する。

表 21 現在の仕事と困りごとの相談相手のクロス表

		困りごとの相談相手								合計	
		家族・親族	職場の友人	施設内の友人	施設以外の近所の友人	それ以外の友人・知人	施設の職員	地域の相談員	その他		特にな
現在の仕事	勤めに出ている	39 32.0%	9 7.4%	13 10.7%	4 3.3%	39 32.0%	6 4.9%		5 4.1%	7 5.7%	122 100.0%
	無職	9 29.0%		3 9.7%	1 3.2%	7 22.6%	6 19.4%	2 6.5%	1 3.2%	2 6.5%	31 100.0%
	その他	3 60.0%					1 20.0%		1 20.0%		5 100.0%
	N A					1 100.0%					1 100.0%
合計		51 32.1%	9 5.7%	16 10.1%	5 3.1%	47 29.6%	13 8.2%	2 1.3%	7 4.4%	9 5.7%	159 100.0%

*「その他」の記載内容

- ・エホバの証人
- ・病院の先生
- ・前の主人
- ・信仰している教会の先生
- ・自分で処理する(2名)
- ・母

プライベートの友人を中心に存在している。反対に無職層では、地域でのネットワークを要望している。日常の問題解決では、親族を中心に、個人的ネットワークや公的ネットワークを利用しているが、中でも施設職員の位置づけは重要となっている。

(4) 利用者にとっての母子生活支援施設～その評価と要望

ところで、母子生活支援施設は、入所している母親自身にとっては、どのように評価されているのであろうか。

母子生活支援施設への要望・意見では、「満足」が27%、「一応満足だが不満あり」が64%、「不満足」が9%と大部分は、一定程度満足している。さらに不満の内容を自由回答から読みとっていくと、設備面では「トイレ」・「風呂」への不満が多く、女性が生活する場として「トイレや風呂を個

表 22 現在の仕事と病気の時等身の回りの世話のクロス表

		病気の時等身の回りの世話								合計	
		同居の家族	親 戚	施設内の友人	施設以外の近所の友人	職場の同僚や友人・知人	ホームヘルパー	その他の公的機関	その他		特にいない
現在の仕事	勤めに出ている	7 5.9%	38 32.2%	20 16.9%		1 0.8%		4 3.4%	26 22.0%	22 18.6%	118 100.0%
	無 職	1 3.3%	9 30.0%	3 10.0%	1 3.3%		1 3.3%		4 13.3%	11 36.7%	30 100.0%
	その他							2 40.0%	2 40.0%	1 20.0%	5 100.0%
	N A							1 100.0%			1 100.0%
合 計		8 5.2%	47 30.5%	23 14.9%	1 0.6%	1 0.6%	1 0.6%	7 4.5%	32 20.8%	34 22.1%	154 100.0%

*「その他」の記載内容

- ・上の子供に見てもらおう
- ・別居の家族
- ・親
- ・施設寮。同居できない娘に頼みます。
- ・別れた主人に四日、自分の子供を預けたことで四万円も取られました。
- ・施設の先生方(13名) 大きな病気をしたことがないので、わかりません。
- ・自分で何があっても見る。
- ・今まで病気で他人に頼んだ事が無い

室化してほしい」という要望は、決して贅沢なものではないであろう。さらに「居室の広さ」については、特に子どもが男児の場合に、思春期近くなっていく息子と、一緒に部屋で寝ることや着替えをすることへの戸惑いも感じている。

施設内の規則では、「門限」や「居室の見回り」、「掃除当番」などに対する見直しの意見が、「プライバシーの保護」や女性みの施設という性格から生じる「利用者間のトラブル」とも重なって不満としてあがっていた。また先に述べたように、彼女たちが子育てと就職とのジレンマに立たされていることの流れであろうか、就職斡旋のための情報や手だて、それとともに就職条件に見合った保育時間の延長といった、彼女たちの「自立」に向けた具体的な援助が求められている。

生活のあらゆる面で関わってくる施設職員の対応についての不満は、対人援助を行っていく上での食い違いから生じている場合もあるが、このことは、職員が何もしてくれないことへの不満と言うよりも、職員が、より深く関わっていく中で生じるぶつかり合いという性格をもっている。母親たちに施設の存在意義をたずねてみても、「助かっている」、「もっと増やしてほしい」、「母子の応援施設」、「生活基盤」、「自立への一時入所」、「自分

にカツを入れてくれるところ」という形で、施設の存在意義を積極的に評価しており、求められているのは母子生活支援施設での、より「質の高い」援助なのである。母親たちから見ると、施設に対して「助かる」と感じると同時に、親から言われる小言のような、一種の「口うるささ」をも感じ取っているであろう。

(5) 将来の生活へ向けて

最後に、母親たちは自分と子どもの将来の生活をどのように考えているのだろうか。施設の退所については、「早くしたいが見通しがたない」が35%、「子どもの節目に併せて具体的に考えた」が32%であり、退所の意志はあるが生活の基盤もできておらず、実際へと展開しないのが現状である。

では、今後の結婚観についてはどうであろうか。半数が「結婚はあまりしたくない」と答えている一方で、「結婚はしたくないがパートナーはほしい」が3割を超えている(表23)。「結婚」は、子どものことを考えての困難さを思い、また、もう縛られたくないという思いからの躊躇があるが、「パートナー」は、特に子どもが自立していった後の自分一人の生活を考えると、話し相手がほし

表 23 現在の仕事と結婚のクロス表

		結 婚				合 計
		ぜひ結婚したい	できれば結婚したい	結婚はしなくてもパートナーがほしい	結婚はあまりしたくない	
現在の仕事	勤めに出ている	4 3.4%	12 10.3%	41 35.0%	60 51.3%	117 100.0%
	無職	2 6.3%	4 12.5%	11 34.4%	15 46.9%	32 100.0%
	その他	1 20.0%		1 20.0%	3 60.0%	5 100.0%
	N A				1 100.0%	1 100.0%
合 計		7 4.5%	16 10.3%	53 34.2%	79 51.0%	155 100.0%

いと回答している。

将来、施設を退所した後も施設から提供してほしいサービスとしては、「子どものケア」・「子どもの行事への参加」といった子どもに関する要望と同時に、母親自身の「相談」や様々な「情報提供」をしてほしいという声も出ている。その背景には、離婚件数が増加し、テレビドラマでもシングルマザーが取り上げられるようになってきているにも関わらず、母子世帯であることに対して、母子生活支援施設に入所していることに対しても半数の母親が社会的な偏見を感じざるを得ないという現実が存在しているのであろう（表 24・25）。

だからこそ、母親たちも、施設の存在意義を積極的に評価し、退所後も継続して施設への援助を要望している。母子生活支援施設は、成育過程においても、そして現在においても生活基盤が弱い母子世帯にとっての、いわば「実家」のような機能を果たしている。なかでも、様々な項目において困難さを示していた無職層の母親たちにとっては、なおさらであろう。そうした機能を、個々の母親が生まれ育った家族のもつ資源の強さに頼るのではなく、「社会的」に提供していくことの重要性は、今後、さらに高まるであろう。その際、施設内での母子世帯への退所援助をどうするのかといった問題関心に留まらず、地域に暮らす母子世帯の生活問題をも視野に入れた、母子世帯への「自立」と「子育て」を具体的にどのように保障・

表 24 現在の仕事と母子への偏見のクロス表

		偏 見		合 計
		あ る	な い	
現在の仕事	勤めに出ている	61 50.4%	60 49.6%	121 100.0%
	無職	16 50.0%	16 50.0%	32 100.0%
	その他	3 60.0%	2 40.0%	5 100.0%
	N A		1 100.0%	1 100.0%
合 計		80 50.3%	79 49.7%	159 100.0%

* 欄外記入事項

・「あなたのところは、かたわだものね」と父の日に言われたことあり。

表 25 現在の仕事と入所への偏見のクロス表

		偏 見		合 計
		あ る	な い	
現在の仕事	勤めに出ている	54 45.0%	66 55.0%	120 100.0%
	無職	19 59.4%	13 40.6%	32 100.0%
	その他	3 60.0%	2 40.0%	5 100.0%
	N A		1 100.0%	1 100.0%
合 計		76 48.1%	82 51.9%	158 100.0%

* 欄外記入事項

・「親が精神異常などで強制的に入所させられているところ」等間違った認識はあるようです。
・偏見とは言えないかもしれないが、「あわれみ」に近いもの。「そんなに生活が大変なの？」という感じ。

援助していくのが重要となる。それこそが、専門機関・専門職としての母子生活支援施設と、そこでの職員に求められるものであろう。

(6) 自由回答

1) 現在の母子生活支援施設への不満

- 個室に住まわせてもらっているが、トイレ・お風呂が共同で嫌だ。求職中だが私だけが無職しているとやはり、周りの目が気になり部屋から出ることが苦痛になる。公衆電話だと電話もかけづらいし、仕事が決まらなると余計に孤立してしまいそうだ。挨拶をしない人もいるので、みんなの私の対する印象が悪いようで、とても住みづらい。
- 門限がある。風呂に入ろうと思ったら、開いてない時がある。廊下にいると部屋の声が聞こえる。
- 細かい規則があり、束縛されているような感じが少しあります。
- 住んでいる人で仲良くなりたような人はいない。
- トイレが共同
- うまく書けません。
- 引っ越さなければならぬため。留守の時に家に入られることがある。(うわさ)
- 『きたない』職員の対応が日によってまちまちである。
- お風呂が一つしかないので、日によって(順番制)何時間も待たなければいけなく、子供が入れない(寝てしまう)時がある。
- 不満を言っても何も変わらないので、いい所だけを見えています。感謝ができないことは不幸ですヨ。ただ部屋代、子供の面倒を見てくれます。いいです。
- 母子のみのため、考えがカタよっている人がいる。その人の言葉が時には気にかかることがある。
- 小学生以上の子には良いと思うが、子供が小さい上保育園にも入れていないと結局、仕事以外では一切預かってもらえず、面接や役所にも連れて行かされ、やっと事務所で預かってもらう事に慣れてきても、私の休みが続くとまた離れなくなってしまうため、休みの日でももう少し時と場合によって預かって欲しい。
- 人間関係(3名)
- 門限がある。
- どんなに頑張っても同じ施設内に非常識だったり、非難されている人がいれば「あの母子寮の人ね」と一緒にされる事。イメージが良くない。学校のお手伝いをしたり、役員をしたり、ご近所とお話したり、良いイメージを持ってもらえる様に努力はしているつもりだけど……。個人の力ではムリ
- 門限が10時なので、会社のつきあいなどで困る事がある。子供がいるので守らなければ仕方がないと思うのですが……。
- 来訪者などのチェックがあるので、呼びづらい。
- 部屋は満足。信頼できる先生が居ない。役所的というか事務的というか、決められている事とか時間でやっているみたいだけど、もう少し融通利かせて欲しいと思うことがある。
- 門限10時で玄関に鍵がかかること。自由に出入りできないのは、恥ずかしいと思う。防犯カメラも付いているし、各部屋に鍵も付いているのに。
- 訪問者に名前や訪問時間を書かせる事。何のためかわからない。在寮中は常に監視されている感じです。
- 親子の行事は無くていい。施設内に親しくしている人が居ないととても苦痛な時間です。せっかくの休日もゆっくりできない。参加しないといけないような目で見られる。
- 自治会、行事などが煩わしく感じる。10時という門限もわずらわしい。
- 気にしなければいいのですが、寮内の住民に対する不満。私自身、できる限りの努力をして頑張っているつもりなのですが、陰で悪く言われたり、寮の先生に悪く言っている話を耳にすると嫌になる。
- 門限など時間の拘束があるため例えば、たまに友人が遊びに来てても時間が来てしまうと、帰っ

てもらわなければならないこと。職員の人数の問題等があるって仕方ないとも思いますが、保育園と同じ7時に職員がいなくなること。

- 毎日ではないが、たまに外出しても門限があるためやむなく外泊しなくてはならない。年間行事に参加しないと何か言われるような気がしてゆううつ。
- なんとなく。
- 先生達もやはり仕事という感じがして、義務的な気がします。児童室の使用は母親と一緒になくても、子供だけの使用でも良いと思う。部屋の片づけなどやはり子供が居るとできない事がたくさんあります。長く住んでいる人達が主になってしまっているようです。
- 入所直後は子供が小さかった事もあり、仕事で不在の時も親と同居している感覚で安心していられた。成長するにつれ子供自身も、他の子との関わりの中で摩擦がうまれ、親の知らない所で他の親との摩擦もうまれ……。仕事で殆ど情報が聞こえてこない状態で結果として、悪い結果になっていた事があった。施設の中で起きたことも、親同士で……と結論を委ねられたこともあったが、自治会で解決すべき事ではないのかなと感じたこともあった。依存心を持ちすぎてしまうのだが、一定の基準が対象によってきつくなったり、緩くなったりする。
- 子供が成長すると生活スペースの狭さが不満。
- 職員の無神経な言動により、傷付くことがある。(それはお母さんの仕事でしょ? 等)
- 母の教育方針と異なる時、理解が得られず「みな、一緒」を求められる。
- ○○を「してあげている」という姿勢、発言に疑問を感じることもある。
- 事前告知なしに、必然性のない職員の自室立ち入りがある。(子供から聞いて知っている)寮であっても「一世帯の家」であるとの説明を繰り返すも理解得られず。
- やはり子供が高学年になってくると、先生達とあまりうまくいかなくなってくるし、今の先生方は小学生や中・高(校生)レベルの仕事がで

きていないと思います。幼児にはとても良いのですが……。

- いろいろな人が住んでいるから好き嫌いというのが出てくるのは解りますが、挨拶しても知らないふりをされた事が何度かあり、嫌な気分です。
- 最初の頃は感じなかったが、福祉法人だということここにいる職員の方の認識が少し甘い気がする。接遇の仕方についても「差別ではなく区別」という様な表現をされるが、精神的にストレスが起きそうになる事が若干ある。私自身も福祉法人で働いているが、常に相手の身になるという事を強く指導されているので、何かこの職員の方には疑問が残る。
- 施設の職員が私や子供を精神的に追いつめる。「世話してやってる」という高圧的態度である。『支援』というより好奇心で見られ、探られたり、秘密が他の世帯に漏れていたりする。(職員が一部の母親と癒着していてそこから秘密が漏れているようだ)
- 門限時間がある。勝手に家に入られる。職員が口うるさい。
- 一人一人の子供の成長はそれぞれ違うのに、みんなをひとまとめにするところ。
- 部屋にいつでも入ってくる。寮生の(一部)中の方と事務員とが仲が良く、寮生の秘密までが漏れている。何故かその方に聞くと、役所の方が言っていたとのこと。職員に何度も言われたこと(髪を切ること)に対して、子供が夜中に泣き出す。ハサミを持って事務員が追いかけて来ると……。半日だけ働いていると、一日働く新聞広告を渡される。仕事で急患が来て帰りが遅くなると、毎日毎日、子供が学校から帰るなり、「お母さんは、今日は休みか? 何時に帰ってくるか?」子供も分からず困っていると3人の事務員に囲まれて、「どうなの」と言っている時に帰ったことがある。私も夜、目覚める事が何度もある。事務員が入ってきたような感じがして……
- トイレとお風呂室内に無いこと。

- 部屋が狭すぎる。
- やはり共同生活の中で、シャワーや洗濯機、トイレの使い方等で、使いたい時に使えないとか冬期間のシャワー使用は寒いこと。
- 施設の不便さ（小さい子に不便な点も多い……お風呂やトイレ等）窓が開かない（網戸がついたまま）ちょっとした点で口うるさいことがある。決まりと言いつつ、平等ではなく、気づいた時だけ。
- シャワーやトイレが共同。廊下の声が響いてうるさい。職員がうるさいと感じる事がある（時々）。病気（風邪などが）蔓延しやすい。子供がうつりやすい。
- 子供が年頃なので（男の子）部屋が狭いのが不満です。
- 共同で使用する物があるのだが、きれいに使用しない。個人的にそういうのは不満です（掃除などもしていない人が数名いる）。
- 干渉され過ぎるのが不満です。
- 一応、団体生活なので色々な規則があるため、精神的にゆっくり休む時間が無い。
- 観察されている様な気分になる時もある。
- 気も遣う。
- 職員も協力してくれるというのが、いざという時、言ってる事と違うような感じがする。
- 生活費は助かるのですが、精神的に自由が無い。（監視されている様）
- 夜のイベントや友人の家からの帰宅時間が早くないと鍵が閉められる。（開けてもらうのに、頼まなきゃいけない）
- 友人が泊まりに来たら、先生方に報告しないといけない。
- 元々いる子供達がいじわるするので困る。
- 職員の対応の悪い時がある（その子のその時の状況を見て、的確な判断をしいて欲しい）。
- 門限があるので、用事があってもどうしても10時に帰れないときは、施設の人に頼んで開けてもらわないと中に入れないのです。でも、迷惑かけると思うと、会社の忘年会とかも断るようになります。
- トイレの水の流れが悪いのと、湿度が高くて服や食器などが臭くなるし、カビてくるのがちょっと。後、子供達が多い家庭で六畳二間は狭いと思うが、世話になってて家賃もかからないのにぜいたくでしょうか？
- みんなで決まりがあるにも、きちんとしてくれない部分（清掃について）があると、きちんとしている自分がバカみたいに思えてくる時がある。部屋が狭い。（仕方がないと思っているが）
- 子供が早くここを出たがっている事。
- ガス（プロパン 5kg 入）がガス台の下に収納されており、使い切ると（交換する前に）担当店に注文しなくてはいけない。普通の集合住宅のようにメーターで集金にして欲しい。六畳二間なので、もうちょっと広いといいと思う。石油ポリタンクかできればホースで供給して欲しい。
- なんて書いていいかわからない。でも多少の自由な時間があってもいいと思う。
- 第二と第四の土曜日は強制的に寮外活動で朝から子供が借り出されて(?) しまうので、少し休ませてあげたい。参加を選択できるようにして欲しい。夏休みも毎日出掛けさせられるので、もう少し解放して頂ければと思う。
- 幼児は日曜・祝日仕事があっても日中見てもらえない。他の子は見てもらっているのにわが家は祖母や友人に頼んでとても気がひける。
- 先生達はすごく満足だけど、施設のお母さん達が未だに苦手。それとその人達から嫌われている。（一部を除いて）
- 門限があったりするし、職員に干渉されているから。回りのお母さん達がうるさいお婆さんが多いから。融通が利かないから。
- 退寮したいが、退寮したとしても子供の病気の時、自分の仕事の勤務時間（早出・宿直・休日出勤）に子供を見てもらう人が居ない。所もない。
- 寮の近所の人の態度。ありもしないウワサ・ウソを言われたり、精神的にまいっている。若いからなのか、外顔判断なのかあいさつを元気に

- しても、冷たい。小学以下の遊べる行動範囲がなく、今まで自由にしてきたが、近所の目がきついため、全く自由に遊ばせる事ができなくなり、ストレスにもなる。
- ・入所する時は色々私達がプラスになる様な事を言っていました、実際は違います。子供達が病気になってもわりと見てもらえず、どうしても仕事を休まなくてはならない。
 - ・門限が早すぎる。ちなみに現在は22時です。
 - ・職業訓練を受けられる。具体的に職を斡旋してくれる等、母子家庭が資格をとれるように。どんな仕事に向くか（時間、休日等の面で）などの将来的な基礎を持てるようなサービスが欲しい。
 - ・何かといじめられる。人の悪口を言う人が多い。
 - ・直ぐ自分の子と比べる。
 - ・プライバシーも無く色々聞かれるし、行事にも出なくちゃいけない事など、規則がうるさい。
 - ・行事に追われる。（家族だけで出掛けたい場合もある）当番がいろいろとある。
 - ・入所当時、一文無しの中で寮外活動の持ち物（リュック等）を揃えるのに大変。
 - ・子供を人前に出たく無いのに、行事毎の強制参加 etc…。
 - ・職員を信用できない。（信頼できなくなる事がたびたびある）
 - ・子供に対して、しつけその他で厳しすぎる。しつけは親の仕事と思っているし。
 - ・病気を患っており、対人恐怖症であるので常に他人と接し、時には口やかましく言われるのだが、精神的に限界である。不眠症もあり、全く眠れない日もある。ただ、子にとっては良好である。
 - ・自分の所得だけで生活しているのに、子供の習い事について思うようにできない。
 - ・門限が10時であること。お風呂の時間が決まっており、入れないことがある。お風呂とトイレの掃除当番は構わないけれど、する時間が決まっているため、時間に縛られる事。気難しそうな人の多いこと。
 - ・入所者同士のつきあい方で部屋に遊びに来るのは良いが、来る日が多く帰るのも遅く疲れてしまう。自分の時間が無い。
 - ・部屋が狭い。（3名）
 - ・全ての事にうるさい。
 - ・入所者同士の干渉が酷すぎる。職員が子供に手をあげる。母子ホームというよりも、団体に子供を人質に取られている気がする。母親は仕事をしなければならないので、学校が休みの日には保育を好まなければならない。子供達は運動会の次の日にも山登りさせられて、疲れ切っている。
 - ・この母子寮は前から子供達も母親達も皆公平ではなくて、私は此処に住んで長くなりますが、相談してもたいした答えはなく、それからです。相談しなくなったのは、とにかく寮長は別として、女の先生達はその時、その時の気分で大変です。
 - ・施設では猫や犬等は飼ってはいけないのに、飼っている人がいて、20匹以上いて猫がどこでもウンコをしていくため、汚らしい。そして私の子供が猫アレルギーなので、とても迷惑している。施設は何もしてくれない。
 - ・同じ母子としてみんなで仲は良いのだが、外に出た時の人間関係。未だに中の人全部仲良いわけではないし、自分の行動で子供に影響がないか心配。
 - ・家が六畳一間で狭い。せめて二部屋は欲しい。
 - ・一時的な保護施設なのにもかかわらず、いつまでも自立しようとせず、何年もいる人が威張っている事と、施設の人がその人達を優先させてしまう事が不満です。
 - ・お風呂が無いこと。（2名）
 - ・子供が小さい時は私が仕事をしているため、病気の時など先生達にお世話になり、大変助かっています。ただ、女・子供世帯だけにやっかみや口出しが多く、人間関係が仲良くとはいきません。
 - ・子供が二人居て、六畳一間では狭すぎるので、

せめて二間ぐらい欲しい。子供にとっては異年齢の子供と遊ぶ機会が多いので、社会勉強の一步になると思う。

- 子どもの精神の病気で、それ以上に周りに気を遣いたくないです。ストレスと私の精神的ケアはどうしてくれるのって言う思いです。部屋を借りて煩わしさから解放されたい。
- 居間が狭く、寝室と居間が別でない。行事が多く振り回される事が多く、自由にならないことも多い。プライバシーが無い。職員が居間、手紙、電話をチェックする。
- 100%満足なんてこの世にない。
- 仕事している間、子供を見ていてくれて、私自身の子育ての中で間違っている部分のアドバイスや相談にのってくれるし、家賃も無しでありがたいが、不平等なのがいまいち、納得できない。同じ事をしても注意されまくる人間と何一つ言われもせずそれどころか大事にされている。
- 立ち入り過ぎる事がある。寮の行事が多すぎる。
- 入所した時、色々聞かれた事は仕方ないが、それから何事にもプライバシーなどあまりなく、相談事くらいでいいと思っても、何でも聞きたがる人もいますので、その人の生活も考えて欲しい。
- 寮で行事が多く困ります。
- 門限もあり、職員が干渉しすぎてうるさい時があります。
- 行事などが多い。相談やぐちを聞いて欲しいけれど、いつも同じ人達が入り出しているから。公平じゃない。
- トイレが共同なので、子供が未だ後追いするので大変不便。お風呂が無いので不便だし、子供が風邪引きやすいので、仕事も休みがちになる事が多い。一日中監視されている様でストレスがたまる。
- お風呂が無い。子供が生理になった時とかに、銭湯は可哀想。特に暑い日は……。
- 帰りが遅かったり時間がまちまちなので、門限内に帰らないとお風呂になかなか行けない。

2) 施設への要望や意見

- 特になし。(8名)
- 夜7時以降と日祝日は子供を預けられないので、働く仕事に限られると思う。
- ハローワークみたいな仕事先の紹介とおかあればいいと思う。タバコ、ジュースの自販機があると便利かな。
- 24時間体制で警備してもらえたら、とても安心できます。
- 門限をもう少し延ばして欲しい。お風呂の水代を現金以外にして欲しい。トイレはやはり部屋の中にあつた方が良い。
- もっと働きやすい環境にして欲しい。夜なども子供をみてほしい。(ベビーシッターのサービスなど)
- 内装して欲しい。
- 民間団体の外部の(ヘルパー、子守)サービスを利用させてもらいたい。
- 自分が病気で具合の悪い時、子供の世話をして欲しい。(母子寡婦福祉連合会でやっている、生活扶助のサービスを受けたいと思い、寮に申し出たが拒否された。寮の方針らしい?)
- 入院した時にホームヘルパーさんを寮内に入れて欲しいです。長期入院の時でも、短期入院にして子供と一緒に暮らせたらと思います。お正月に職員の人々が1人でも居てくれたら又、短期間にしてくれたらと思います。(私はお正月休みがありません。仕事です。)
- 24時間体制であつたら良いと思う。年中無休であつて欲しい。
- 小さい子供がいる家庭にとつても施設に入っている意味のある手助けをして欲しい。
- 買い物行き帰り等に送ったり、迎えに来てくれる車などがあると大変便利なのですが……。荷物が多いと子供四人も連れて帰って来るのはすごい大変で、買い物に行くのがイヤになりそうで……。毎日子供を預けて行くのも悪い気がして……。
- 設備面で改善して欲しい。流し台。電灯の明るさアップなど。あれ買ってこれ買えばとよく職

員に言われるが、買えるくらいなら入寮していない。買えるくらいの人には買えないレベルの人と替えてやるべきではないか。本質的に非常に困っている人のための施設ではないのか。

- 私個人としてはPM6:30に帰ってきてPM7:00に夕食、その後お風呂で子供が寝るまでに1時間ちょっとしか自分の時間(子供の時間)が無いので、放課後学習が終わったら自宅に入ってもいいようになったらいいと思う。子供だって「今日これやりたい」とか計画や予定を尊重してあげてもいいと思う。時間が足りないと、何をやっても雑なクセがついて困っている。「だって時間無いんだもん」が口癖。一番の言い訳。
- 最近無職になったけど、他の人から無職だと毎朝AM9時に先生が来て「今日の予定は？」って聞いて行くと聞いていたけれど、自分から仕事辞めたわけじゃないし、そういう事されると「早く仕事決めろ」って言われてるみたいですごいイヤです。言えばそういう決まりになっているって言うから……、何ヶ月も仕事探してないならともかく、こっちの身になってもう少し考えて欲しい。決まりは解るけど、融通も利かせてほしい。精神的にまいっているのに、追い込まれてしまう。
- 日・祝日も子供を預けられる体制をとって欲しい。(職種によっては、休めない場合があるから。就職する場合も限られた所でしか働けないから(時間、休日など))
- 仕事の紹介。母子支援施設入所に係る徴収金額を減額又は無くして欲しい。ここに入所する時「ほとんどかかりません」という説明を受けて「ほとんどかからない」という金額はいくらなのでしょう。
- 子供にもっと習い事をやらせてあげたくても、経済的な面で難しいです。何かボランティアの人など、そういう方がもしいらっしゃればピアノや英語、書道などやらせてあげたいです。あと寮には男性の先生も必要だと思います。寮長先生はあまり子供とふれあう時間をとってない

ように感じます。学童さんの男の子がもっと気軽に相談出来るような男性の先生がいると将来的にも良いように感じます。

- 管理人(?)のおじさんが友人等が遊びに来る際、自動車を駐車場に入れる時、必ずと言っていい程、怒鳴っているようです。最近では事前に言っておいたりもするのですが、いきなり怒鳴るのはちょっと困ります。
- 仕事の紹介などしたら如何でしょうか?
- 保育園が延長保育7時。それ以上残業する時に保育してもらえれば……。毎日でなくとも。門限が週末ももっと遅くして欲しい。
- テレビのアンテナが悪いので直してほしい。
- 日・祝日も少数で良いから先生が居てくれると良いと思います。冬期にグラウンドでスキーやそり遊びなどできるように除雪などができると良いと思います。冬期間の買い物や通院などで短時間のみ保育をして頂けると助かります。
- 親の残業時における幼児の保育を充実させて欲しい。
- 子供が病気の時(発熱、けいれん、事故含む)の対応を職員が学ぶ場を作って欲しい。
- 母子家庭に関わる専門職として自覚を持って欲しい。(相談しても「困ったねえ」で終わることが多い。)
- やはり女性の先生方が多いので、男の先生方が何人か居てくれれば、子供達も変わってくると思います。小・中・高校生に対する先生方の教育が必要だと思います。
- もっと他の家族との交流の場を設けて欲しい。他の母子寮はどうか解りませんが現在いる寮に対しては満足しています。ただ、いらしゃる先生によって悪い事をして怒らないで、口先だけで叱ることに対しては、子供にとって良くない事のような気がするので、自分の子のように接して欲しいと思います。
- 本来「自立する」というのはお母さんの方で、子供達はある程度、学童や病児保育をして頂いて充実しているのですが、母親がイザ仕事を探すと転職をするとかでは、全く自立するよう

- に施設が役立っていないと思います。もっと施設で専門的分野の勉強ができるとか、毎日毎日仕事と子供の世話で1日が終わってしまう生活から、次の意欲を持てる様な、気持ちの切り替えができる様な施設へと変えて行って欲しい。
- 施設の職員が固定されている気がするので、何かなれ合いになっている気がする。これ以上のサービスを特に希望はしない。
 - 学童の学習面、心理面をきちんと見れる専門家が必要だと思います。現在、学習面でも、間違った事を覚えてきたり、心理的にも追いつめられる様子があります。職員自身が学童（特に高学年になると）を見ないため、習い事など積極的に勤めて学習室から追い出そうとしており、私の子供もそのために、習い事を始めました（当時は経済的に苦しかったのですが、全く考えてくれませんでした）。
 - まず、車を持っていても駐車できるようにしてもらいたい。車があることで本当に色々助かる部分がたくさんあります。時間的にも、気持ち的にも。（2名）
 - 戸締まり当番を無くし、門限も辞めて欲しい。許可無く留守宅には入らないで欲しい。職員から寮内の人間に個人的な情報を流さないで欲しい。本当に困っている時は、規則ウンヌンなしに助けて欲しい。
 - 子供用の自伝車小屋はあるけれど、親の物は外に置くしかないため、痛みやすい。親子共々置ける、屋根付きスペースがあるとグッド。
 - 郵便が事務所から各家庭に配布されるので、各個人別ポストの様な物があってもいいのではないか。（プライバシー面に於いても）
 - 個人の情報は入所する時に隠さず書いているので、他に漏れることの無いようにして欲しい。
 - 親の居ないときに子供をいじめないで欲しい。親には虐待だと言うが、この頃はこのアンケートのためか、親の前ではとても良い事務員します。子供はもうみんな話します。
 - 子供を育てて、元気の明るい事務員にして欲しい。
 - 施設の内介護保険使いますか？ たとえ病気でトイレ行く事が不能と不便など。施設と介護保険と連絡計画。
 - きちんとした入浴施設。
 - 親が息抜きできるような託児サービス（買い物、サークル活動等）
 - 子の延長保育（保育園でまかないきれない時）
 - シャワー、トイレの使用時間や設備。お風呂を付けて欲しい。
 - 土曜日と日曜日は職員が少ないので、子供を預けるのは気が引ける。（病気の時など）もう少し対処を考えて欲しい。
 - 思いつかない。
 - いつもよくして頂いています。要望としては、門限の午後10時より前にドアがロックさせるので、困る時があります。
 - 仕事などの情報や資格などについての情報があるといいです。
 - 玄関の閉まってしまうの、1時間遅ければ……。もう少し違う気もする。出掛けていても何か……。
 - 各部屋の部屋廻りを止めて欲しい。
 - 建物の修理にあまりお金をかけて欲しくない。子供はどんなボロでも自由でありたい。
 - 危険と言うことで、子供の成長を抑えないで欲しい。
 - スポーツ用具やおモチャなど時間がきたり、日曜日には鍵をかけて使えないが、何が主な目的か判らない。
 - 年2回の健診がありますが、形だけの様に思う。
 - 門限を少し遅らせて欲しい。
 - 部屋の中に設置されている物、例えば湯沸かし器や家の場合は壁ですが、言っても直ぐには直してもらえません。壁がかびだらけでした。その頃子供は気管支炎になったりして、入退院を繰り返して、「かびの壁を何とかして欲しい」と言ったのですが、なかなか直してもらえませんでした。ようやくしてもらったのは、一年近くなってからです。寮の子はぜんそくの子が多いです。アレルギーから来ているのです。湿気が多いので私の家は除湿器や空気清浄機を

- 使用しています。そのせいかどうかは判りませんが、それからは小児ぜんそくの疑いはありませんでしたが、なりませんでした。
- 建物が古いので中だけでもきれいにしたい。小さい子供が居れば、汚い所で生活すると喘息やアトピーにもなるし問題が出てくると思う。でも、世話になってそんな事を言うのはいけない事なのではないでしょうか？
 - よくわからない。
 - 緑の電話ボックス。住宅事情とし二間でもいいが、もう少し広いといい。湿気がとれないので困る。
 - 学校が休みの日の寮外活動は選択制にしたい。あまり「全員参加」だと軍隊みたいで……（参加の確認や費用の関係など煩雑になってしまうと思うのですが……）。子供もよく「疲れた」と言っています。逆にもう少し勉強面に力を入れて欲しい。「学習室」とは名ばかりで子供達はゲームばかりしています。（文句が多くてすみません）
 - 子供のお下がりや不用品等を掲示板か何かに書いて皆で回し合ったりして協力し合えばいい。
 - 心から悩んでいても、相談に行きづらい。もっと気軽に職員と話せる雰囲気を作って欲しい。でも、過去に本当に困っていた時、助けて頂いて感謝もいっぱいあります。
 - お風呂やトイレを付けて欲しい（部屋に）。部屋を広くして欲しい。共同に使う物があると、ケンカが絶えないと思う。そういう事に疲れた。
 - 自由が利かないから、一日も早く出たいと思うだけ。アパートを借りるとお金がかかるからここにいるだけなのに、あれこれ干渉しないで欲しい。
 - 子供達の行事を少し減らして欲しい（春休み、夏休み、冬休みなど学童さんたち）。
 - 経済的、時間的に資格を持ちステップアップする事は、施設内だけでなく外の母子家庭の方も難しいと思います。私自身どこで話を聞けるのか、他の仕事をしながらどこに通うというのが大変難しいので、二週間や三週間という短期間でも講師を招いて勉強ができればと思います。
 - 親が仕事でどうしても休めない時やどうしても抜けられない時に子供が風邪や病気になった時はきちんと子供を病院に連れて行って欲しい！
 - 夏休み、冬休みの寮外活動を減らして欲しい。（学校での宿題もできないし、自由がなさ過ぎる!!）
 - これ以上の要望も意見も無い。
 - 行事にばかりこだわらず運営を。安心して家族が生活できるように支援して欲しい。運営も大事だけれど、生活支援も大事にして欲しい。
 - 幼児の日、祝保育サービス。
 - 行事の強制参加の廃止。
 - 規模を広げて欲しい。又、風呂・トイレなどの共用をやめ各部屋に付けて欲しい。
 - もっと気軽に子供を預けたい。門限が10時なので、仕事をして遅くなると6時まで車で寝ることがあるので、12時くらいだと助かります。朝、シャワーが入れたらもっと良い。
 - 現在は特にありません。とても感謝している。
 - 部屋には台所は付いていますが、六畳一間なのでせめて二部屋あれば良いと思います。
 - 夏休み、冬休み、春休みでの子供の学習室活動（外に遊びに行く）が毎日なので、これではここにいる時はいいけれど、ここから出た時は、留守番もできないと思う。朝早くから夕方まで遊び歩くのは、どうかと思う。理由は施設内だと人数が多く、うるさいと言う先生もいるらしいが、私はそんなに子供の数は多くないと思う。それなりの広さも有り、外からも受け入れて子供を預かっているのではないか。
 - 子供たちをもっと楽にして欲しい。学習室活動など元の通りにして下さい。後ろ髪引かれて仕事に行く、母親の気持ちを解して下さい。
 - 今一番困っている事は猫の事です。施設では動物は飼ってはいけないのですが、一世帯が猫を飼っています。それが今は増えて30匹近くもいます。それで寮に言うと、猫を飼っている家は居ないと曖昧な返事です。家を空けている

と入ってくる。フンやおしっこをしていく。いくら苦情を言っても、一向にらちがあきません。ここの施設は保育所と一緒になので、砂場の中にフンやおしっこをしたり、そうしてその事に対して寮では対処できないのか不思議です。私だけではなく、皆困っています。寮でどうにもしてくれない場合は、そうしたらいいのでしょうか？「今は動物愛護の事もなるので」と言っているのが寮の答えです。まだまだ増え続けています。私も子供達も猫アレルギーで、くしゃみの連続おまけに臭い。施設はこのまま放っておくつもりなのでしょうか？

- 施設の先生方は、住んでいる人達に対して平等でいて欲しいと思います。
- 床を畳のままでも、何年かは替えて欲しい。お風呂の設備（毎日入れる様になるといい。自分の部屋には付けられないのか？）日曜日でも子供を預かってくれるとか、子供に熱があっても仕事の間だけ見てもらえるとか。心療内科的知識のある人が欲しいのと、カビがひどくても真剣に聞いてくれない。（健康に不安）
- 親や子供が一人片方など入院による時、もう一人の子供の世話ができない時。泊まりでの施設の預かりなどを頼みたい。
- プライバシーを守れるようにして欲しい。
- 施設の職員を夜も置いて欲しい（夜の見回りをきつくして欲しい）。
- 外に働きに出られないので、施設の雑用で仕事になるような事があれば使って欲しい。（安くても自分でお金を稼ぎたいです）
- ドメスティックバイオレンスに当てはまる場合の利用に限るとか、施設の中で規則を守れるなど、中での空気を乱す場合は退所してもらうなどして欲しい。
- 自室にお風呂があればいいと思う。部屋の数を多くして欲しい。
- 施設の人達を自分の事と受け止められる、強く優しい人間性に満ち満ちた完全主義の人を職員にして欲しい。上辺だけの人間は失格です。
- 大人の母親が住んでいるのだから、門限は必要

ない。居住している者を差別無く扱って欲しい。施設という面を出しすぎる。自立して出ていくために、一般の家庭の子と同じように普通に扱って欲しい（鍵を子どもが持つ。買い物に子どもが行く etc）。それから母子家庭なのだから、男性職員も置いて男の人にも子育てに参加したり、意見を聞いてカタワにならないようにしてもらいたい。

- 日曜日や休日に代替ではなく、通常の職員にしてくれたら、日・祝日出勤の所で働けるのでそういう事を要望します。それともし、自分が具合が悪くて子供の面倒、食事の支度や家事をしてくれると助かる。それと病気になって入院しなくてはならなくなった場合、ここでは子供の面倒を見てくれないので、自分の親に見てもらうしかないけど、私の親も見えてくれなくなったら、子供は孤児院に行かなければならないので、その辺を改善して欲しい。
- 2室は欲しいと思います。
- 建物の改装ばかりで、なかなか建て替えの話が進んでいない。今時、一部屋子供二人で過ごすのは、大きくなるに連れ年頃もあるので、小さくてももうひとつあればいい。
- お風呂付けて欲しい。建て替えて欲しい。
- 施設の老朽化がひどいので、早く立て替えをして欲しい。
- 個室だったらいいと思います。ワンルームでもトイレ、お風呂があったらいい。子供が小さいと共同トイレ、お風呂は本当に大変です。
- 就職の斡旋。職業訓練（資格取得に繋がる）
- 監視されて安心な面とプライバシーが無い様な感じがします。それもストレスとなり悩みになります。トイレ・お風呂を付けて欲しいのと、居ない時に部屋へ入るのはとても苦痛です。辞めて欲しいです。入っても分からない様にして欲しいです。
- お風呂が欲しい。（2名）
- あっても早急に取り合ってくれる訳でもない。期待しない。

3) 母子生活支援施設の意味づけ、施設全体についての感想・意見

- ・自立できるまでの仮住まい。だけど両親がいないに等しい私にとっては、第二のふる里的なものになったらいいなあとと思う。札幌市内に6ヶ所しか施設がないのは少ない。そのうち2ヶ所は夫の暴力から逃げてきた人しか受け入れてもらえないと聞いたが、改善してほしい。ほとんどの人が母子寮に入りたくないらしく、トイレ・風呂の共同、古い建物、間取りが狭い等があると思う。
- ・なくてはならないものだ実感しています。本当に困っていた時に入って、今は仕事もして頑張っていますが、今度はお給料が少なくて出ているだけのお金が全く無くて、貯金も無いので、今はそっちの面で悩んでいます。
- ・自立する場所。子供や母親が同じような人と話したり、遊んだりできて良かったです。寮の行事には本当に嬉しく思います。
- ・母子家族をいろいろな面から支援、協力してくれる場であると思っています。
- ・自分の生活の基盤を作る所。寮ではなくアパートの様な所で、ずっと居られるなら良いと思う。リクレーションとかもあって子供は楽しいし、夏休み等は仕事なので何もしてあげられない母にとっては、助かる。
- ・将来のために貯金を少しでも多くしたくて、入所しました。
- ・とても助かる場。
- ・私にとっては自立するまでの一時的な入所と常に思っています。不便もあるが、上を見ればきりが無いし、何よりも今、雨・風をしのげる場所を借りて生活（極端ですけど）いられる事に感謝しています。又、回りが母子家庭ばかりなので助かっています。民間のアパートだと他の家族連れを目にするというのが、子供の心にどう映るか分からないので。
- ・又、仕事から帰ってきて他の入居している方に干渉されるのは面倒と思う時もあるけれど、開き直っています。入居している人には体が悪い

という理由で仕事もせず、他人の悪口ばかり言っている人たちもいます。そういう人間にはならないと思います。いい人生勉強になります。

- ・とりあえず住む所がないので住んでいる。入所当初、保育の事を尋ねたらうっとおしがられ、部屋に来てヒステリックにあれしないと、これしないと寮に居られなくなると言われ、区役所のケースワーカーに言いに行ったら態度が180度回転し、今に至っている。
- ・市営住宅に入居が決まるまでのつなぎですが、本当に助かっている事が沢山ありまして、ありがたく思っています。
- ・母子にはなくてはならない所だと思います。特に子供が小さい人には絶対に必要な所だとも思います。
- ・寝に帰る所です。お金を貯める所です。
- ・困っている時、親切に入居させてくれたシェルター。短期ではなく長期でも良い施設であり感謝している。現在この様な施設の入居を待っている人が多くなっている状態である事に背を背ける事はできない。自分自身その一員である事は事実である。時代の流れと共に、より一層充実した施設であって欲しいと思う。何故ならば女一人の頑張りにも限界があるから。
- ・他の施設に入っている人に前に話を聞いて入寮したものの、そことは全然違いこれなら市営や一般の住宅に入った方がよっぽど良かった。
- ・家族の生活する場を与えてくれる所。
- ・私達親子は住む所さえ無かったので、大変助かりました。子供が母子支援施設の生活に馴染めない時は困りました。
- ・母子が安心して暮らして行けるように助けてくれるところ。
- ・本当に困っている人が自立できるまでの間手助けしてもらい、寮を出ても普通の生活ができるようになる所だと思っていましたが、差があまりにも違う人などが居て、納得いかないことが多々ある。
- ・家賃がかからない点が大きな支援だ。病院にかかりたい時のための科目毎のリストを作成した

ものがあるといい。所在地、診療時間はもとより、評判などもあればいい。寮内に在籍していた人達のいろいろな困った場面について、どのように解決したか当人の対処法や施設職員の対処法など、入寮してくる人に参考になりそうな事例をまとめたものが有ると良いのでは。

- 管理人のおじさんの意味がよく分からない。今まで鍵当番があって各自やっていたけど、その方がずっと意義があったと思う。つきあいや仕事の都合でどうしても門限の午後10時まで戻れない場合も「午後9時には寝るから遅くなるの電話は9時までにしてくれ」とか露骨にイヤな顔する人もいる。鍵当番の頃は、鍵と一緒に自由帳みたいのがあって、子育てで悩んでいることとか入所したばかりで不安な人、お下がりのお話とか入れ替わりがあっても、どんな人がいるのか分かったり、雪かきしなくていいのは楽になったけど、今は管理人というよりも、監視役で感じてイヤ。先生とは何度も話したけど、何も変わらないのでもう言わない。
- こういう施設があるのは、すごい助かります。収入の少ない人は、子供の小さい人にとっては、ほんとに助かります。前は日・祝日も先生居たので、また居て欲しい。管理人いるようになったけど、何しに来ているの？って感じ。新聞やTV見に来ている気がする。用が足りない。人の出入りの時だけジロジロ見て、別に書かなくてもいいのに出入りの時間だけ書いている感じの悪い管理人がいるって聞いた。
- 母子家庭を助ける。一日も早く施設から出て、生活できるように応援すること。
- 幼い子供を一人で育てていかなければならなくなった時の助けになる唯一の場所です。そしてその場所でこれからの将来を考え一人で子供と一緒に自立していくための道を探して、その道が開かれれば後は困っている人に部屋を譲ってあげなければならない。そんな貴重な場所だと思います。
- 子供と二人で生活していれば、たぶんもっと淋しい思いをしているだろうなと考えると、経済

面以外に精神的にも随分と助けられていると思います。ただやはり、普通に暮らしている人達とは少し変わった環境にいるのも事実なので、子供が大きくなった時にどういう反応をするかな……と考えたりもします。

- 施設の充実の他に、地域の人たちとの交流や他の同じような施設の人達との意見交換の場を設けたりと、社会の関わりをもっと持てるような場所であって欲しいと想います。
- 他の小さな市町村では、この様な施設が無くて朝夜働いている人もいる。もっとこの様な施設を増やして欲しい。
- 安心して住める所。とても助かる（子供の事、金銭的な事）
- 自立するためのつなぎ。
- 一日も早く自立し、安定した生活をおくれる日までの生活の場所だと思います。私は貯金を目標にしています。他のお母さん達が何を考え何の目的と目標をもってここにいるのか知りたい気もします。サポートしてくれる方がいるところ。
- 子供が小さい時から入所しているが、振り返ってみると、ここは子供が小さいうち仕事をしている母親のために、急な病気等の時のために安心して対処してくれる所だと思う。小学校高学年以上になれば、子供自身自立していくのだから、入所していても摩擦が生じやすいと思う。
- 家賃分だけ生活費が足りない母子家庭のサポート施設であって欲しいと思う。
- 子供の急病時、病児保育があることで、急な欠勤をすることもなく助けられている。子供の帰宅時、人がいる事で子供にとっても、安心感が持てている。私が現在住んでいる寮は、立地・設備等整っているが、そうでないところもあり、施設の数の増加や設備面での見直しがあると良い。一方で利用する側の私達も「自立までの利用」である事を忘れず、目標を持って生活しなければと思う。数多くの困窮している世帯があることを心に留めていかなければとも思う。（自立しているのにいつまでもいるのはおかし

- いと思うのです)
- やはり一人での生活を支えるにはお金が足りない事なので、施設では家賃が少しで済むので助かっています。
 - 母子の自立支援のための施設だと思います。民間のアパートを借りて生活するよりは安く助かっています。経済面ばかりではなく精神的にも支えが欲しいと思うことがあり、気軽に相談できるといいと思います。現在は、職員にとっても相談できるような状況ではなく、かえって追いつめられる場合も多く、精神的支援は得られてないと思います。
 - 寮という感じでどうしても特別なものに思えてしまうし、内容もすごく縛られている様に感じます。子供も、母親も。
 - 風呂なし、トイレ・洗濯機共同使用の施設は考えられない。職員の人数は沢山いるのに、子供達を見ていない事が多い。プライバシー保護がなっていない。
 - 親子が自立していくための基盤を築く場所で、親がしてあげたくてもできない事など、代わって施設側で対応してもらえる点は感謝にたえない。
 - 人の心も踏みにじる、それで笑っている。支援は名ばかり。相談すれば、何か事件、事が起きなければ腰が動かず、外見だけは美しく金かけ、それでほめられ満足している。自分にも子供ができたならそんな声を掛けるだろうか？
 - 子供のこと見てくれて、仕事していけること。困ったこと相談できること。自立支援と母親と子供の心、力強くなること。
 - 生活に不安がある時に、最低限の生活ができる保険のような所。でも、大変助かりましたし、感謝しています。
 - 子とのスタートの基盤作り。生活（経済的、精神的）基盤作り。
 - 今入所している所しか知らないけれど、いろいろ話を聞いてもらえるので、精神的には楽になっていると思う。同じ境遇の人が他にもいる、自分一人じゃないと思えるので頑張る気になれるし、便利。
 - 自分の所だけが母子家庭じゃないんだよという事が子供に解ってもらえる。そして母子家庭がいかにか多いかそして父親がいかにかダメか。
 - この様な施設がある事を知らず入所しましたが、私にとって今はとても安心できる場所でありますから、先の不満の項目で答えた事以外は助かっている事本当に多いので、このまま自立できる迄はここで生活をと考えています。
 - 施設で生活しているから、二人で暮らしているけどそうでなければ、経済的に大変なので有難いです。
 - 仕事をする時にサポートさいてくれる所。（子供の事で）
 - 自立するまでの「仮の住まい」であり、子供がある程度大きくなるまで、いろいろな面でサポートしてくれる所だと思います。世間からはかなり差別的な目で見られているようですが、いろいろな人が入居していて、自分たちはその中でも幸せだと思います。
 - この施設に入所してすごく良かったです。
 - 私は自由が利かないような感じ？ よく施設を出てみると、みんな気楽だと言う。やっぱり監視、束縛されているとかそういう感じあると思う。どこか遊びに行くにしても、何か良く思われないんじゃないか？ とか私は思う。しょうがない事だけど、見てもらっている時、冷蔵庫とか下着の入ってるダンスとか見られたら、私はあまり見られたくない場所。
 - 親が仕事に出ている間、子供を見てくれる所。
 - 建物や仕事が主でなく、子供の成長を主に考えて欲しい。子供は環境によって大きく左右される。国が豊かになれば、施設は必要無くなると思う。子供は親や近くの人に愛があれば、オモチャや菓子は要らないものです。喜びいっぱい生活がいいです。精神的なものや社会的なものが良くなければ健康になれない。私はこんな施設に入所できて、感謝で生活したいと思っています。子供もそうであって欲しい。社会のせいにしたくはありませんが、今の時期いろんな

ものが変わりつつあるので、良い方に発展して欲しいと思っています。

- ・母・子が安心して暮らせる所。
- ・私自身あって良かった。こんな施設がなかったら……。もっともっと友人や周りの人達にも迷惑を掛けていた。この職員の人たちが色々と子供の事など見てくれて……。母子家庭では必ず誰かの手を借りないと……。大変な事を住んでいる所で見られるのは嬉しい。仕事にも子供が小さくても行けるし。まだまだ色々な所でできるといい。私もここに入るまで大変でした。まだ沢山の人が色々な事で入所できないで、住むところに困っているかもしれないし、ホント沢山できるといい。そして職員の人たちも本当に親身になって考えてくれる優しい人、子供がスキでしっかりしてくれていたらいいです。
- ・母子のための施設ですよ。経済的に困っているので、今の仕事の他に2〜3時間バイトをしたくても、文句を言われます。安全な場所で母子のためとか助けになってくれるのが、施設じゃないですか。遊び歩いているわけではないのに、バイトくれいと思うのですが……。
- ・安心して外に仕事に行けるようサポートしてくれる所。
- ・勉強、しつけ等、一緒に子供を育ててくれる所。長女が小4の時、施設内で同学年の男の子にいじめられていた。注意はしていたらしいが、相互の親の目に入らなかったため、ひどい状態でそれを知った時、すぐ学校の先生へ連絡し結局学校の先生が学級会を開いていじめを解決してくれた。親に遠慮して注意できなかったのかもしれないが、先生から聞く内容はひどいもので、もともと暗い性格の子がますます暗くなった。
- ・今年の夏は次女が昼に職員と一緒にカップラーメンを食べている時、お湯を足にこぼし、大やけどを負った(監督不行届だと思う)。でも「大変だったのね」の言葉はあっても、きちんと謝ってもらってない。
- ・子供を病院へ連れて行って欲しかったりするので、助かります。10時過ぎに戸締まり当番があり

1ヶ月2〜1回と廊下当番があり、廊下は一週間しないと寮長から言われたりします。PM10時の見回りは重荷です、朝5時起きなので、PM10時前には寝たいので、次の朝がつらくてついイライラしたりします。掃除も夜遅くなる時が一週間も続く事があると、家の中の家事が手一杯で、掃除を一週間してから土・日にすることがありますが、これも郵便受けに「廊下掃除お願いします」の手紙が入っています。夜7時過ぎに帰ってから9時迄の間には山ほどあり、大変です。そういう配慮を少しして欲しいです。

- ・気軽には来られる所ではありませんが、やっぱり学校に行っている子供が居れば、世間的にも気になりますし、イジメも出て来るのではないかと考えて、可哀想かなって思います。
- ・自分が入所する時「母子生活支援施設」とはいずれ一人立ちしてここから出るまでの応援施設であると言われました。それまでの期間、ここを出て行く時のために、仕事で都合が付かない時の子供を見てくれたりしてくれるのかと思いましたが、相談したら、それはできませんと言われました。ある程度先に解っていればの話ですが、結構冷たくあしらわれたのをどうしても忘れることができません。もっと住んでいる人の仕事の環境とか話を聞いて理解した上で、どの様な支援ができるのかを職員の方やお母さん方と相談しあって欲しい。
- ・子供が高校へ入るまであと少しだけ、電気代と水道だけなので、もう少し我慢して暮らしたいです。
- ・やすらぎ、母子にとって落ち着ける場所。不安を取り除いてくれる場所。子供とのゆとりをもてる場所。
- ・私達にとって安らぎの場所であるはずが、そうじゃない時がある。寮母の方々が私達の安全を考えてと言うのは判るが、多少の自由を感じることもできないのかと思う時がある。この施設に入っていることで普通の一般家庭と違うんだと言われることがとても気にかかる。腹立つな

- あ〜と思う事もある。毎日ではないでも自分でわかっている事を言われるとは仕方ないのかもしれないけど、嫌だな〜とも思う。私にとってここはとりあえず安心して寝られる場所です。
- もっと早くにこういった施設を知りたかったです。いろいろと要望はあるものの、日々はありがたいと住まわせていただいています。仕事で私が居ない時も大人の目があり安心だし、挨拶などの礼儀面でも子供にとっていい訓練になっています。ありがたいと思っています。
 - 私にとって母子生活支援施設とは、命の恩人です。親子3人路頭に迷う所でしたし、どうなっていたか分かりません。長年暮らすと恩も忘れ不満も出てきますが、原点に戻るとやっぱり感謝なんですよね。
 - 昔と違って今の母子家庭はすごい恵まれていると思う。
 - 年3回あるプール行事の全員参加を強制するのはやめて欲しい。
 - 仕事上、泊まり・早出・休日出勤があり、子供が小さいため、病気がちでその度に看ていただいていたに有難いと思っていますが、行事・当番等ははっきり言ってかんべんして欲しいと思う時がよくある。母子支援でも寮の職員には、実際には相談（子供のこと、自分のこと色々）することは無いです。子供を見てもらっているという事で、少しでも迷惑かけないように思うのが本音です。気が休まるということは無いです。当番も仕事で疲れて今日はやりたくないと思っても、外安アパートで暮らしていればそのまましないで寝てしまえますが、ここでは当番は絶対です。行事もそうです。休日ゆっくり子供と過ごしたいと思っています。どんな仕事もそうですが、この人はいいがこの人はダメ、こっちには笑顔であっちは寒いとか、感情とか気分で接して欲しくない。みんな一緒に接して欲しい。子供には特にそう思う。一人一人理由も状況も違うので、一人一人サービスは違うのは当たり前ですが、言い方とかは大事だと思う。
 - 行事が多すぎて仕事での疲れがせっかくの休日にとれないこと。
 - 母子家庭の家族にはとても良い施設だと思いません。ただ、私の入所している施設は先生方が良くない。特に寮長先生の考えが……？ 自分勝手だと思います。できれば他の施設へ入所したいと思います。
 - パソコンを使うようになんでも分かるような資料があれば、いいですよ。安定した人・しない人、どんな工夫で生活、子供との事を育て上げたのか。例えばどんな仕事で一日の生活のリズムとかが、子供とのコミュニケーションがとれるのか。パソコンで情報をとりあえればいいかな。
 - お母さんに代わって、いろいろと行事がありますが、全ての子供が楽しいと感じられる事があるのかな？ と思う。普段の生活では助かっている事もありますが、先生方の自己満足で終わっていないでしょうか？ 本当に腹を割って話す事なんてできません。自分の親にも話せない事だっているのに、何をどう相談に乗ってもらうのでしょうか。
 - 寮長先生にはとても良くしてもらっています。両親と離れているので母親みたいな人です。
 - 子供を見てもらって安心して働ける場所に、有難いと思っている。
 - 安心して生活ができる。安心して仕事ができる。
 - 子供を預け安心して仕事に出れる。
 - 施設外で生きていくための待機所として考えている。職場や近所の人に『母子ホームなんかに住んでいるくせに、何ができて！』など馬鹿にされます。私自身の失敗ではなく母子ホームにいると言うことだけが重要らしい！ 一生懸命やっても気がくじけそうになることもあります。
 - 母子世帯になり6年近くなりますが、この様な施設を紹介して頂いた市役所の方にとっても感謝しております。あの時に紹介して頂かなければ、この様な施設の事すら知らずにいたと思います。入所当時は、子どももまだ1歳半という

年齢だったし、私も精神的に不安定な時でした。これからどうしたらいいのかわからないまま入所しました。それでも周りの人達と話をしたり、職員の方々から励まし等で、随分助けられました。現在子どもも伸び伸びと明るく育ち、今年小学校に入学しました。施設に居たからこそ今、現在の私達があるのではと思います。私にとって母子支援施設という所は、とってもありがたく助けられた場所だと思っています。同じ状況の家庭同士という事もあって、結構施設の人達とも好き勝手とか、言いたい事も言える様になりました。本当に感謝しています。

- 自分が就業中、子供が一人で留守番という事がないので、安心して仕事ができるので、親にとっても子にとっても安心できる所。
- 入っている母子寮は先生達もとても感じが良く、安心しました。時間や当番 etc……制限がある事。縛られている様で自由が利かないことが不満です。人間関係は別に気になりませんが、口うるさい人が多い様で、気を付けないと（子供のために）良くないかなと少し気を遣っています。子供が小さく、騒いだりすると苦情があるため、子供が好きなようにさせてあげられないことが可哀想だと思っています。
- こういう施設があって本当に助かっています。他の古い入所者は事務所に対してどうしてあんなにわがままなのかなと思う。助けてもらっているのに。
- 母子共に安心して日常生活を送ることができる場所。
- 年齢から言って施設内に働く職場があり近く、ありがたいと感謝しています。
- 仕事中に子供の面倒を見てくれるのは、大変助かります。
- 現在住んでいる施設にいる事で、親は仕事に行くので子供が学校から帰って来ても、施設には先生がいるので子供を鍵っ子にしなくて済む事と多少勉強も見ってくれるので、とても安心して仕事へ行くことができます。
- 安心して仕事ができ、とても感謝しています。
- アパートなどを借りて暮らすには大変で、一時的にいろんな意見で自立ができるまで助けてくれるところだと思っています。
- 私は前夫から子供達を連れて逃げてきました。私の様な人達にとっては、とってもよい所だと思います。
- 特にはありませんが、もう少し家の中とかを使い易いようにして欲しい。
- 夜にもきちんと見て欲しい。何かあったら自分達で身を守るのは不安。そして子供のしつけ。物の大切さとか施設内の清掃。こみたいに別々で自由なのはとてもいいと思う。ただ、保育園と繋がっているのでタバコを吸う人を注意して欲しい。施設の大切さを子供に理解させたいし、いずれは部屋数を増やして子供達が夜外に出なくてもいいように。入り口が一つであまりうるさくされるより、別々の個室ですごくいいけれど、六畳一間はやはり狭すぎる。工事する度にぐぎなど子供の足にささると困るので、施設の遊びの整備、いずれはきちんとした建物の本当皆で利用できる、花壇など余裕なくても安らぎが欲しいので、植える所があってもいいと思います。
- 子供が学校の夏休み中でも、色々と行事をたててくれて出掛けてくれるので、親は仕事をしていても安心である。通常の日でも学校から帰っても、親が帰って来るまで預かってもらえるので、心配なく働ける。
- 母と子が安全に過ごせる所であって欲しい。
- 母子にとって一番安心できる場所であり、惰性に流されやすい生活の節目に活を入れてくれる所。
- 施設はこれからも先、結婚して失敗した時必要な家だと思います。女一人、強い人も居ますが大半は弱く又、その中からいろんな事に揉まれて強くなっていく所だと思います。
- 心の底から相手を思いやれる人間が居ないのでしょうか？
- ここへ来ていつも時間に追われている。門限、母の会、避難訓練、夏祭りの準備、クリスマス

会の準備、特に門限十時は、仕事を終え、帰宅すると七時。その後夕食、そしてお風呂へ行く。『あ、十時ぎりぎり』とゆっくり入浴する間もなく、ストレスがたまる。門限を考え直して欲しい。

- 良いことも2、3あるけど、ほとんどは不満だらけでこの枠には書ききれないけど、今時六畳一間で隙間風ビュービューで、冬は灯油代がかかって床はゆがんでいて、トイレもシャワーも洗濯場も共同で、水道は水しか出なくて、冬はつらいしい、早く建て直して欲しい。
- なくてはならない場所。安心して生活できる場所。
- 子供を守る所。
- 母子二人で安心して生活できる環境。仕事しても安心して預けられる所。
- 他の施設の状況は解りませんが、今のところ安心して暮らせるところだと思います。でも、他の施設に暮らしている人がどういふふう思いで暮らしているか聞いてみたいなあと思います。
- プライバシーを与えて欲しい事。トイレでウンコもゆっくりできないので、変なストレスが溜まります。
- 今はとても幸せです。でも周りの目、母子家庭の子供は心が病んでいると決め付ける人がとても多いです。それが少し気になるけど、ここはとてもいい所です。

4) 退寮後の母子生活支援施設への要望

- 保育園又は学校帰宅後、自分の仕事が終わるまでの時間、子供を預けられたらと思う。やはり退寮してからも母子なので、子供だけでも寮の行事・キャンプなど連れて行って欲しかったら嬉しい。車なども無いので、連れて行ったりするのが難しい。
- 特にない。(15名)
- 病児保育、一時預かり
- たまーに子供達が遊びに行った時に話相手になってくれたり、手紙や電話でやりとりしてくれたらして欲すれば、それで満足です。

- 仕事をしているため、まとまった休みはとりづらく、キャンプ・スキー遠足等子供だけで行く行事に参加させてもらえればいいなと思います。
- 仕事関係
- 退寮してからも子供を学童保育で預かって欲しい。
- 結婚となると自分一人の問題ではなくなるので、なかなか難しいと思う。でも、支えてくれる人が居たらいいと思う。
- 寮に居ても手伝いなんか無いのに、退寮して何か手伝ってくれると言うんだらう。して下さる事を教えてください。
- 病気の時。自立できない時。具体的生活できない時。
- 保育を誰にも頼めない時（急を要する時）に対応してもらえたらと思います。
- 子の学習面や精神的サポート。
- 子供の体が弱いのでそういう時は、また少し力を借りればなあと思う。
- 退寮は子供一人でも留守番ができるようになったらと思っています。でも、子供ですからできなくなる時もあるはず。そのとき一時的にでも預けることができたなら……と思います。
- 現在の収入のままだと、引越せない。いつまでたっても余裕ができず不安。日々の生活で終わってしまう。
- 今は思いつかない。(3名)
- 夏休み、冬休みの行事を一緒に参加させて欲しいのと、退寮しても休みの時はみんなと一緒に遊ばせて欲しい。
- 退寮したときの子供の年齢がまだ小さい場合は、ある一定の時間まで見てもらえるなら見て欲しい。
- 生活していくための手助けをして欲しい。
- ここを退寮しても郷里の母子ホームにとりあえず入りたいと希望しています。
- もし子供が小学生のうちだったら、学童保育とか病気で休む時、仕事は休まれないないので預かってくれるような手助けが欲しい。
- 絶対ない。

- ・手伝って欲しい事はありませんが、退寮後も自由に気兼ねなく遊びに行けるようだと良いと思う。
- ・退寮する頃には生活も安定し、不安の無い状態で出たいと思っているので、特別ないです。
- ・子ども達のための相談電話を設けて欲しい。又、子どもを育て上げる上で、色々な資料などを送って欲しい。
- ・今は大変助かっています。子供も小さいので、しばらくは退寮後のことは考えていません。
- ・ここに居たという事全てを消したい。
- ・今の施設ではありません。
- ・出た時によき相談相手の無い時には、やはり心の支えとしてお願いできたらと思います。住むところが変わっても、心と子供の友人が残っている訳ですから。後、経済的に無理になった時又、戻るとは可能なのか
- ・子供の事で相談したい事が出たときに、いつでも相談できれば……と思う。(5名)
- ・仕事やその他どうしても困った事情がある時、子供を預かって欲しい。相談にのって欲しい。
- ・ありません。学校の担任の先生と療養センター精神小児科の先生と娘と協力し、話合えるので手伝って欲しくはありません。
- ・生きているか死んでいるか時々気にして欲しい。
- ・子供の事とか、自分の事とか、私の母の事とかで自分では解決できない事や判断つかない時に相談にのって欲しい。(2名)
- ・母子生活支援のみの保育園があれば、親友達もできて相談できるし、偏見も少なくなるので、ストレスにならないと思います。管理人さんは良い人なので、退寮してから精神的なケアがあったら良いと思います。

3 施設長への調査

(1) 利用者調査報告書についての感想・意見

第2章で述べられた施設利用者(母親)の調査報告書の感想を施設長へたずねたところ、以下のような回答が述べられた。

- ・どんな社会集団に対して調査したとしても、生活の不満は生じるものだと考えているのでこの調査が特別残念な結果であったとは強くは思わない。
- ・利用者の不満、要望などが分かり、支援のあり方の参考になった。
- ・自分達の施設だけでなく、どこでも共通の事情があり、安心した反面、施設のあり方も考慮しなければならないことが認識させられた。
- ・利用者の日頃言わない意見がわかって、参考になりました。利用者の要望にはできるだけ早く回答するようにしています。
- ・施設への不満及び施設への要望や意見が設備の面、処遇の面で今後考えたい。改善の資料としたい。
- ・色々な資格を持った方が多いのに就職先が思うようになっていないため、就労支援への希望が多いが施設としては一番困難な任務である。
- ・入所者はいろいろな悩みを持っているが、それに対して施設としてきちんと応えられるべく頑張らなければならないと思う。先ず、悩みを率直に言える雰囲気づくりを考えなければならないと思う。
- ・利用者の様々な声を聞くことができ、驚くと同時に考えさせられるところもあった。施設側と利用者との考え方の距離をなくす為に、もっとコミュニケーションを取っていかなければならないと思いました。
- ・入所者の率直な意見と謙虚に受けたい。
- ・施設そのものに対しては長期的な取り組みが必要だが、サービス(支援援助)面に関しては、再構築する必要があるかな…?!と感じた。
- ・一層のサービスの向上を意識しなければと思うが、意識の食い違い、ボタンの掛け違いも多いのではと思う。
- ・お母さんたちの本音を知り得たと思いますが、職員と入所者の距離を改めて実感しました。これを今後どう活かしていけば調査に協力した人達に答えることになるのか、又、今とこれからの利用者喜んでもらえるのか、難しい宿題を出されたと思いました。

- ・サービスの面で先生方の対応がまちまちであれば、それは良くない。
- ・個別対応で、本来やらないサービスをする時にはきちんと説明した上で行うべき。
- ・建物の老朽化は確かにひどい。
- ・どこでも同じような苦情がある（集団生活上の問題？）。
- ・苦情が思ったほどなかった。もっと色々なことがでると思っていた。
- ・お母さん達にしてみれば、そういう気持ちになるんだろうなと思います。施設に入る前にオリエンテーションで色々お話ししてあるはずなのに、長年いると忘れるんだろうなと思います。
- ・一般のマンションにいるわけではないので皆さんと一緒に足並みそろえて暮らしていこうという気持ちをもって生活して欲しいと思います。
- ・施設内の人間関係は、仲良くならなくても良いと思う。ケンカしないでくれれば。
- ・日祝日の保育体制は課題である。
- ・ここの施設では、ホント細かいこと（立地条件とか職員の対応とか）、何でも言うてくる。母親が何でも言うことで、私たちが聞いてやることで満足する、不満が治まる。何でも聞く、できないものはごめんなさい。そうやって今に至る。自分がここに来たときとはかなり違う。子どもを怒鳴る声も無くなった。
- ・母子生活支援施設にきて、自分が当然と思ってやってきたこと（あいさつはこちらから行う等）を、お母さん達にとっても受け入れられてびっくりした。保育という違う畑から移ってきてよかったと思った。
- ・設備面に関しては、ここの利用者からはあきらめているのか、何も言われていない。DVを抱えていたり、その他の事情もあって警備の面では利用者さんと平行線になることもある。自分自身（施設長）は建物の課題として、人としてあるべき最低限の気持ちよい生活ができるようになればいいと考えている。築年数が古いこの施設は、公立である以上、私達が勝手にどうできるものではない。しかし、建てかえを働きかけていこうと思っている。緊急でも最低2ケースは預かれるようにしたいし、職員の人数はあと一人でも二人でも欲しい。
- ・「子どもの施設としての基準」にするか、「母親の立場としての基準」にするかが、母子生活支援施設の難しいところ。公立であればいつも同じところで繰り返すしかない課題がでてくるし、民間であれば利用者のニーズにあわせてどんどんサービスを増やしていかなせればならない。
- ・土地の囲み方、門のあり方等、色々配慮したいけど、そこまでしたらリゾートホテルになってしまう。そこまでは施設もできないけど近づきたいなとは思っている。
- ・職員の数、少ないんだなあ。職員の質自体は悪くないと思うけど、仕事の密度やストレスのたまり具合が高くて、場合によっては表面に出てきてしまったりしているのかも。現状は仕方ないと思う。予想していた通りの反応（お母さん達の）。
- ・守秘義務：守ってはいるが、会議の中では出さざるを得ない……。
- ・男性職員は、女性のような気配りが足りてないかもしれない。若いって事もあって経験でカバーできない。子ども達にとっては良いと思う。ただし、子どもが病気になったときは子どもにとっては男性より女性のほうが安心する。その辺が少し心配だが、男性職員で悪かったとは思わない。
- ・「プライバシー」が多く使われすぎている。何か注意するとすぐに「プライバシー」と言われる。入所時は入れてあげたいと思っているが、慣れてくると施設への不満がでてくる。不満があるなら、アパートに出て行ってもらうしかない。
- ・人間だから、自分の都合の良いように解釈されるのかな？ この人にとっては良いことでも他の人にとっては不満足。全員満足は、ありえないかな。
- ・最大限やっているが、あまりにもここは生活が見えずぎて……。
- ・風呂の要求は当然だと思うが、夜遅くて風呂に

行けないというのは最初に決まりを渡してあるので、それを納得して入ってきているはずである。

- ・門限についても同様。子どもの保育園が終わるまでには帰ってくるように言っている。決まりでもあり、本人も承知の上で入所しているはず。
- ・本人が決まりを守らず、不満を言っているだけだと思う。
- ・目にするとそうでもないのになぁ。言う人は言うのだから。一方的な調査なので……。
- ・対応の難しさ。
- ・母親の意見のとおりだと思う。
- ・「こんな感じかな」。普段から言いたいことは言っている。
- ・自治会で来年度の計画（行事など）を立てる。苦情、要望は出てこない。第三者だと出てくるのかな。
- ・就職していない時に職員が（就職を促すことが）うるさいという意見：どう対応したらいいか課題。就職していない人にも訪問する。このような意見を述べる人は働く意志の無い人（この意見を言った人が誰か分かっている）。現在は全員働いている。
- ・一件ずつになっている分ストレスが少ないのかもしれない。門限とか、あってないようなもの。不審者が来たらこっちに通報してもらえればいい。普通のアパート生活よりも防備はかたい。
- ・長くいる方が威張っているとかな。ここでは母の会で要望を伝達しているが、日が浅い方は、場慣れしていないせいかなあまり言えないのかもしれないし、長い方は言いたい放題言っているのかもしれない。古い方が言いやすいとかは一般社会と同じ。

（２） 報告書を受けて（施設での取り組み）

また、施設の母親たちの不満や要望を受けて、施設で取り組んだことは以下の通りである。一方、取り組まない（取り組めない）場合についての理由があれば、それも記してもらった。

1) 施設整備に関して

- ・古く開閉しづらかった鉄枠窓をアルミ製に替えた。
- ・建物の構造を変えるのは無理だが快適に過ごせるよう、トイレをウォシュレット化し、浴槽も改修した。
- ・建物が市のもので改修は大変ですが、できる範囲のことはやってきました。これからもできる改修は取り組んで、利用者の快適さの向上を図りたいと思っています。
- ・応急的なものに取り組んでいるが、室の拡張、浴室の各室設置等までは、手がまわりかねる。
- ・報告書の結果を受けて……のことではなく、入所者からの申し出があれば、そのつど、対応、対処している。
- ・施設内、清掃強化。照明増設。
- ・託児所の保育環境を良くするために増築工事をすすめている。この部屋を利用して料理教室等も開くことができるように考えている。
- ・緊急入所者が増加傾向にあり、それに伴った施設整備が求められ、狭い部屋ではあるが、利用者が気持ち良く、安心して生活できるよう居室整備、日用品などの整備を行っている。
- ・自分もそう思うが、工事そのものが予算がらみ。
- ・お風呂、湯沸し機については要望を出しているが、予算上無理だと言われている。
- ・居室を1つ潰して、シャワーをつけた。
- ・壁のこと：業者の関係もあるのですがすぐ直してあげられないこともあります。ちゃんと直しています。
- ・居室を広げることも大幅な改築が必要で予算の関係で無理。
- ・猫について：禁止しているのにいつの間にか飼っていた（7匹くらい）。時期が来るとたくさん集まってくる。猫虐待で逮捕される時代なげくに、捕まえることすら至難の業。現在は全く痕跡無し。猫のにおいが消えなくて、だいぶ予算を入れてににおい消しをした。

2) 施設内での規則等について

- 例えば、門限時間の変更はしていませんが、個々の事情に応じて柔軟な対応はしています。
 - 従来あるもので対応する。規則、規則でガンジガラメは如何がなものか、生活をしているので弾力的な面も必要だと思う。
 - 現在のところは改正する予定はないです。
 - 共同生活上、規則は必要。自治会等で協議し改善している。
 - 門限はそのままだが、仕事の内容に応じ個々に対応している（残業等の例対応）。
 - 安全重視という意味で、門限は設けており、利用者にも承認を得ている。団体生活なので、約束事として利用者との話し合いで決めている。
 - 現規則より生活向上が望まれる新規則があれば変更するが今のところ見いだせていない。
 - 門限に関しては、門限をなくす事は無理。子どもの生活を考えたら門限を午後11時とかは……。原則は午後10時で、それ以降になる場合は個々に対応する形が良いと思う。連絡してくれば対応するし、実際、今もこのようにしている（お祭りの日は門限を午後11時にしたりもしている）。
 - 門限については、自分に子どもがいるということをお母さん達にわかってもらいたいと思います。どうしても時は、施設内の友達に頼んであけてもらったり、施設長に電話して開けたりしている。
 - どのような用事であれ、門限は「22:30」。子どもの寝る時間を考えると、22:30に帰ってきて23:00に寝た方が、子どもの生活スタイルとしていい。
 - 門限(夜10時)→なくすことは無理。必要時(母親の残業等)は対応する。
 - 門限について：ここは、児童福祉施設であり、「健全な子どもを育てていく」ということは譲れない。(不登校になった子で、定時制高校に通うことになった子に対して、本人は部活をやりたいと言ってきたが、部活をやれば帰りが12時頃になるからと10時には帰っておいでと
- いうことを話した。母親に関しては、水商売は勧めていない。子どもと話す時間が無くなる。母子で入る意味がない。土日でも保育をやっているのだから、デパートとかでも働けるし、お水にならなくてもやっていける。)
- 門限をなくすことはできない。変更はせずに個別対応で。
 - 門限については、安全上の問題から改善は難しい。女性である事や来訪者の確認、警備員の勤務体制など問題がある。施設なので一定の管理は必要である。働いている母親のことを考えて、閉門時間をPM11:00~AM5:00にしようかと考えている。
 - 部屋への入室→安全面のチェックのためということで了解してもらった。
 - プライバシーの問題→大切だが、援助していく上で介入せざるをえない場合がある。その時は母親とよく話し合う。電話は取り次ぐだけ。手紙の中身のチェックはない。
 - 部屋の入室はストーブの元栓確認のみ。
 - 「勝手に部屋に入られる」ということについて→子どもを預けていくのに服を置いていかない「あなたが悪い！」と言ってしまえばおしまいだけど、こちらとしては、ちゃんと職場に電話を入れて、部屋に入っているか確認をとっている。
 - トイレ・風呂の掃除当番の時間が決められていて時間がしぼられる。→掃除の時間は、トイレが午後5時から午後9時のあいだ、風呂は午後9時から午後10時のあいだで時間に余裕あると思うし、掃除ができないときはお母さん達同士で調整もしている。
 - お風呂の時間が決まっており入れないことがある。→風呂に入れる時間は午後9時までだし、生理の人で申し出があれば午後10時から午後11時までシャワーに入れるようにしている。
 - 朝、シャワーが入れたらもっとよい。→気持ちは分かるけどやってあげられない。遊んでいて朝帰りは認められないということをお話すと、本人もわかってくれた。

- ・休みの前の日だけ休ませて欲しい（部屋で飲み会させて欲しい）→「うるさくなったらダメだよ！」と念を押しながらも、了解している。他の入所者から、「〇〇さんうるさい！」といわれたら、職員は「廊下まで聞こえてきたんだわー、次から飲み会できなくなるよ。」と〇〇さんに伝える。誰々から苦情がきたとかは言わず、職員が悪者になる。
- ・児童室の子どもの利用は、母親が在宅していても可能になっている。

3) 就労支援について

- ・病児の保育や通院付添、休日、早朝、夜間等、就労の状態に合わせた保育の実施、求人情報の提供、職安等への同行など、書類提出の代行等。
- ・DV等で外へ働きに出るのが困難な場合の保育園（併設）、母子ホームでの就労支援（入所者処遇の活用による）。
- ・ハローワーク等の情報を必要な者に伝達。
- ・求職中、または、転職を考えている入所者とは、そのケースの生活等を考慮しながら、よりよい方向に向かう様、その母親と話し合いを持っている。

(例)「企業の求人情報」の提供。何が理由で転職したいのか、現在の不安等を聞き取る。

- ・面接地への送り
- ・ハローワーク等への付き添い。求人広告の提供。職場との連絡調整。
- ・新聞を取っていない人に対しては、新聞にある求人広告の切り抜きを渡している。手づるを使って就職をさせた（1例あり）。
- ・毎日のハローワークからの求人情報・アルバイト情報。
- ・利用者に合った仕事の紹介、職安への同行、母親の就労に合わせて支援。
- ・求人誌、ハローワークの求人情報の掲示、ハローワークへの同行支援、休職中の補完保育支援、パソコン導入で資料提供、パソコン練習などに。
- ・就労情報を掲示する頻度を高めた。
- ・失業者が出たら、アルバイト雑誌の購入を検討

している。

- ・お母さん達が相談に来られた場合は、ハローワーク等を使って情報を提供しています。こちらから話を持ち出すことはありません。「働け！」と言われるのが嫌な方もいるので。
- ・今までに仕事の紹介をしても、利用者に受け入れられた事はない。自分で探すしかない。ハローワークの求人票を掲示するぐらいしかできない。就職のコネもない。もっと雇用を確保できればいいと思うが。入所者は（コネなど）もっと深い（就職に直結する？）紹介を求めていると思う。
- ・全ての母親が仕事の紹介に対して、反応するとは限らない。（紹介しても、その援助にのってこない人もいる）→ハローワークに職員が「一緒に行こう」と誘ったら、母親に拒否された。職員はハローワークに情報収集に通っている。

4) 子育て支援について

- ・報告書を受けて、特に変えたという内容はない。
- ・利用者の就労状況により、休日、病児、夜間保育、通院援助等を日常的に行っている。育児指導（特に乳児の育児全般の指導）も行う。大学生、専門学校生のボランティアによる学習指導、保育支援など行う。
- ・保育サービスを就労者のみや、就労時のみでなく、個々の母の状況に合わせて、きめ細かく対応している（母の病気の時の保育や、食事の提供等）。
- ・入所者対応であるが、女性職員2名をもって、生活関連を含め、育児を支援している。
- ・早朝保育・夜間保育をする事により、入所者の転職の幅は広がった。が、幼児に動揺が見られる場合は諸々の事情交換を母とする。
- ・母が病気時の保育等。
- ・朝の早い出勤時には、一時的に子どもを事務所で預かり、保育所へ連れて行くようにしている。日中においては、交替で入院時の付き添いも行っている（近い病院への入院に限り）。学校参観日には、少年指導員が必ず参加することとして

いる。マラソンは応援、文化祭、行事にも必ず行くことにしている。

- 母親の子どもに対する将来の期待が大きいので、相談相手になり、助言等で安心感を与える。
- 学童保育、病児保育、補完保育、ナイトケア、早朝保育、朝・夕食の提供、通院支援等。
- 子ども会が小学生までであるのは、中学生以上になると参加しなくなるので準会員にしているため。
- 行事に関しては、施設自身も矛盾を感じている。母親は束縛を感じている。「強制ですか？」と聞かれる。ここが、児童福祉施設であることをわかって入っているからには、利用者にも理解して欲しい。行事に関しては、そこまで、これを機に考えなきゃならないことかなと思う。こちらの方針としては児童福祉施設なのでできるだけ行事に参加して欲しい。行事に参加できないとなれば、施設は警備をかけるので、その母子は家に残ることはできない。その時間はどこかに出てもらう形になる。
- 行事が多い→子どもたちで行う行事は変更せず。母親参加の行事は大きなものだけにし、母親の日常生活支援に力を入れることにした。
- 寮外活動（学童保育）、施設行事が疲れるという調査結果について→子どもの健全育成にとって、寮外活動はいいことだということはずせない。でも強制と取られるようなことはしないようにしている。ただし「これからは、選択は自由なので、どうぞ！」とはまだ言ってない。寮外活動に関しては、「外部の人を受け入れて、内部を自由に！」という路線に変えようと思っている。しかし、その一方で、内心、施設内の人達のことをどう考えていけばいいのだろうと考えているのも事実である。本当は必要だと思われる人に「いらない！」と言われると……（利用者の中には本当はいたくないけど仕方ないからと言う方もいる）。
- 行事は子ども達にとって必要だということを提示している。

5) 特に利用者への精神的サポートに関して

- 心理療法士を配置し、活用。
- 施設長及び主任母子指導員をもって頻繁に相談に応じ、いわゆるガス抜きを行う。病的部分については、それなりに相談窓口の紹介等を行っている。
- 精神カウンセラーは在職させてないが、職種を問わず、入所者が話しやすい職員にいろいろと話すことにより、気分が晴れたりしている。また、帰宅後、条件（子、母、事務所）が合えば、一服したりコーヒーを飲んだりしながら職場の愚痴を話していく。常に視診を重視している。
- 心理療法士、導入していません。
- 心理療法士の配置により職員と連携しながら母親、子ども両方への精神的サポートをすすめており、一部には効果も表れている。
- 良き理解者として入所者とのふれ合いを大切にしている。
- 心理担当職員を配置している。
- 心理担当職員を配置し、DV被害者だけでなくカウンセリングを希望する母子に関わってもらっている。
- 利用者と話しやすい表情・口調等で接するよう、より一層努めるようにした。

6) 対人援助に関する職員への教育など

- 北海道社協、全国社協等の研修参加。他にも法人内研修をはじめとして、随時、必要と思われる研修への参加、資料の配布、回覧。
- 問題発生の都度、事後に反省を含め、実施している。
- 関連する研修参加。
- 職員会議の中で、支援に向けての言葉の表現のあり方等について、議論しながらすすめている。
- 処遇日誌の記入において、自分がどう援助したかを明確に記入するべく取り組んでいる。
- 各協議会等での会議に参加させ、勉強させる。
- 研修会への参加（法人内、道社協、全社協関係）。
- 援助技術向上、関係制度理解など知識向上などを目的に学習会を、又、精神保健衛生士に加わっ

- てもらい、精神・心理面の学習を行っている。
- 母子生活支援施設は一つ一つは小さな行為であるが将来の社会に対して大きな意義を持つことを、より深く使命感として持つようにした。
- 4月から、入所者への対応の改善をはかり、言葉遣いなど職員間でチェックしていこうと話合っている。→ロールプレイの必要性。
- 以前より個々との話し合いも増え、納得のいくようになった。ここの職員の悪いところもちゃんと聞いて対応している。
- 職員への「言いづらさ」について→言いづらいということは、母子指導員も反省しなくてはならないと思う。しかし、母親達が、指導員に言いやすいということだけで、簡単に評価できるものではない。
- こちらのいい方次第で母親の怒りは静まる。

7) その他の取り組み

- 地域での子育て支援として、トワイライトステイ事業を実施。
- 退所者が利用しやすい環境を整備。
- 部屋の清掃が出来ない家庭に対し、職員が何回かに亘って清掃に入り、その後、毎日観察しながら子ども達にも清掃させるようにしている。
- 地域への取り組みとしてトワイライトステイ事業、今年度中にサテライト事業も予定。
- 職員による24時間体制、出入り口、非常口への防犯ブザーの設置で安全管理を行っている。
- 土日の対応については、土曜はオープン、日曜は休みとなっている。組合との合意事項で、週休は2日連続でとることになっている為、土曜、月曜は職員が半分になる。
- 24時間体制への要望は、職員体制の問題で無理。
- 警備員に対する不満については、解雇する事は可愛そうでできない。保育室ができれば、宿直体制になるので、その時に警備員も一新しようと思っている。学生バイトと職員のペアで宿直体制を組もうと思っている。
- 将来的に男性を考えている。実習生が男性だったとき、子どもの反応が良い。
- 日・祝日の勤務体制→午前中：前日の泊まりの職員、代替職員（パート）2名。
夜：泊まりの職員1名。その他学生ボランティアが入る。

(3) 母子生活支援施設の今後

1) 施設内の利用者へ向けて

- 必要なことでも資金等の関係もあり、新たに事業を開始することが、おっくうになりますが、要望のあることは、やってみて実績をつくるのが次へのステップとなると思うので、できない条件を考えると実施することがなかなかできないので、必要だから実施するという考え方で行っています（その上で、困難さは解決していく）。
- 色々な意見、要望について、対応等については各々心掛けている。
- 予算の伴うものは財政上、当面困難である。
- 住居設定に保証人がいない件。母親入院（1週間以上になると）時、乳児の預け所がない。人的支援に当たるとき、現在の職員配置では支援にも限りがある。
- 手厚すぎる援助であるがために、依頼心が大きくなり自立心から遠ざかる世帯を生じないようにしなければならないと思う。
- 施設建物の改善（大きさと内容）、24時間対応、トワイライトステイ及びビュートステイも対応できるようになればと考えている。
- 入所者の安全管理や、関係機関との連携を密にし、職員間の報(情報)・連(連絡)・相(相談)を更に充実させ、よりよい援助を……と思っています。ケースによって、援助内容が異なりますので「いつ、どの時、どんな援助が必要なのか?」を見極め、早期自立につながる支援、援助を……と思っています。
- 母親の仕事のことを考えると、24時間保育がどうしても必要条件と考えられるので、そのことへの取り組みが課題である。
- 民間の施設では、かなり母子一緒の行事などの

サービスを行っているが、公立ではできない。役所は飲食にお金を出さない。(今まで、施設の行事費用は寄付でまかっていたが、今年からそれが難しそう。)

- 施設では行事に力を注ぎすぎ、職員は母親の指導にもっと力を注ぐべき。施設が食物(ケーキなど)の提供をするのはどうか。母親との対話で、母親が子どもに用意するように促すべきではないか。
- 母親に施設入所の意味を問い、ルールを守れないようなら、出て行ってもらっても良いと考えている(公立施設の強み)。母親がルールを守らない場合は、直接施設長ではなく、先生方から2~3回言って、ダメなら施設長へが望ましい。
- 生保を受けている母親の方が生活指導を必要としている。働いている母親は生活もきちんとしている。そういう母親の方がきちんと主張するので、職員との摩擦は多いが、頑張っているので、できるところは融通をきかせても良いと思う。
- 就労支援。ハローワークへの同行はしているが、もっと職員が頻繁に顔を出すことにより、就職の紹介や教育訓練の機会が得やすくなると思う。
- 保育の充実(地域の母親への保育支援にも力を入れたい)。人手が足りない。もっと多ければ母親の要求に答え、様々なサービス展開が可能。
- 心理療法士を常時入れ、相談の個室がもてるようにしたい。現在は精神保健福祉士(以前は病院のワーカー)が1~2回/週、3時間来ており、半数以上の母親に関わっている。
- 常にここは満所対なので、新しく入りたいという方がなかなか入れない。今居る高校生を持つ世帯に、そろそろ手も掛からなくなったし退所も考えてみてはと提案もしているが、「出て行け!っていうの?!」と言われてみたりで、なかなか腰をあげてくれない。
- できれば、もうちょっと使いやすい施設にしたい(お金がかかるから今は躊躇しているが)。例えば、廊下が狭いので、ドアをスライド式に

する等。

- ハード面の充実(土地、保育園、緊急保護体勢)。
- 個人の選択の自由……子どもに教育熱心な方が増えてきている。母親は「子どもに勉強を教えてください」という。施設側は、母親に、自分の子どもにあったことを考えるようにアドバイスする。母子生活支援施設の子はやっぱり少し学習面がついていけない。特に算数と国語。個別に勉強につくのは難しいので、ボランティアで補いたい。
- 将来的には全部屋2間にしたい。壁はある程度直ってるし、トイレも水洗にした。家事やダニの原因になる畳は逐次フローリングに替えている。後2部屋だけ畳。
- 1ヶ月おきに「母の会」ということで、話し合いをしている。第三者機関の利用も考えている(まだそこまで大きな問題は起きていないが)。
- 狭いという部分では、全面的に改築の構想は持っている。どのへやも2間にしたい。しかし今は辛抱して欲しい。
- 各部屋のお風呂については、何が何でも入れたいが、まず部屋を大きくしてから。
- 自立支援施設として、「自立」「支援」をどのように考えていくか。
- 児童施設→母親のできない部分の補完をできるかぎりやっていく。
- ここの母親の一部は、地域の母親達とのギャップがある。自立をしていくとき、母親が、どう力をつけていくか。
- やればやるほど根の部分がわからなくなる。前は大変なケースにふりまわされ、今は日々の母子を支えていくことへの疑問を抱き……。
- 子どもも成長して欲しい。
- 夜間はモニターを切る(夜6時~朝8時)。土日祭日は職員もいないので、防犯のためにビデオカメラを設置して欲しい。今の状態では入所者が何時でかけて、帰ってきたのかのチェックができず、管理ができない。
- 子どもが大きくなる(中・高校生)になると部屋が狭い。子どものストレスがたまりやすくなる。子

どものスペースの確保が必要。

- ・自分としては、色々やりたい。ハード面はお金の問題。職員の泊まり込みが理想。(将来構想としては、保育園と一緒に！一階が保育園で二階が母子生活支援施設、上はホールとして地域に開設。)
- ・スペースの問題の改善
- ・特に退所者へのプログラムはない。退所後に来所すれば対応する。
- ・施設機能強化推進事業の中で、退所者との交流に対して予算がつく。母または子どもに來所してもらって、または講師によって講演を実施する。先輩の母親や子どもの話(母への思いなど)を聴く事で入所中の母親が勉強になるという。⇒自立して看護師になった母親の話に触発されて、2人の母親が現在勉強中である。
- ・子どもの通院のサポート。
- ・夜勤のあるお母さんが働けるように、24時間体制に！
- ・建て直し。
- ・分園型母子生活支援施設(5~6世帯)→自立間近な母子(経済的、精神的に安定している方)を入れる。

2) 施設の外へ向けて

- ・DV等による緊急一時保護では、安全確保が大事ですが、地域への専門性の提供ということになると、開かれた施設を求められるという点。
- ・母子生活支援センターの役目は終わったのではないか。保育園が24時間体制で病児等にも対応できれば、生活保護を受給し、市営住宅などに住むことによって、母子生活支援センターに入所しなくてもやって行けると思う。(母子生活支援センターが必要とされていた頃と、時代背景が違う。生保とのボーダーラインで生活している人たちにすれば、ここに入所し、生保を受けている人たちは信じられないと思う。この母親は甘えすぎ。)
- ・母子生活支援センターはDV対応の施設などに衣替えすべき。

- ・施設の建替え(公設民営は難しいと市から言われている為、民設民営になるのでは)。
- ・地域の人が使えサービス拡張(トワイライト、ショートステイなど)。
- ・父子家庭への援助(入所は無理だが保育支援は可能になる)。
- ・女性センター的機能(役割)を持たせたい。
- ・できれば他の施設みたいに、地域で働いているお母さんの子も夜こちらで預かって、夕食も出してやれば良いと思っはいるが、いつできることやら……。
- ・センター方式も良いと思っはいるんですが、なんせ年なもので……。
- ・今やり始めた事業の拡大！
- ・子ども達を受け入れながらお母さん達との相談にのっていく。
- ・子どもの保育を通して虐待に対応！ここを退所した方にもお便りをだしたり、クリスマス会に呼んだりしている。
- ・退所後の支援：退所後も相談にくる(子どもの結婚の報告にくることもあり、それがとてもうれしい)。保育も受け付けている(日曜日が休みでない場合が多くなってきているのでその対応が必要になっている)。今後力を入れていきたい。
- ・卒園者からの相談も受けている。
- ・地域への展開……現行のノウハウで。外部に働きかけ、外の評価を受けることで、内の評価も変わるかも(寮外行事等の意味を気づかせる)。
- ・卒業したお母さんを含め、ショートステイ、トワイライトステイをできる状況を作りたい(人、物、金がそろえば)。
- ・民間の方が警備員を置くなど、管理体制がしやすいと思う。
- ・保育園も民間委託へ。
- ・地域では児童会館があるし、体育館の併設も無いので地域開放は難しい。
- ・児童会館でやっているような学童保育をやっていきたい。現在、市でやっているのは午後4時まで。夜7時くらいまでやりたい。

- ・地域との交流→町内会に加入。運動会、キャンプ。
- ・地域の子どもの学童保育。
- ・退所後のアフターケアも対応したい。一泊温泉旅行も。

3) 母子生活支援施設全般について

- ・母子生活支援施設は子育てのところで、必要な人すべて（収入の如何にかかわらず）が利用できる保育サービスを考えていければと思う。みんな利用できる場所が必要である。
- ・母子生活支援施設は、1にも2にも支援にサービスだと言われてきたけど、私達は入所者のほうも、もう少し、自分に甘えないでシャキッと子どもを育てていって欲しいなと思う。
- ・母子生活支援施設自体が減っている。充実した施設作りが必要と思っている。

(4) 施設長からみた母子世帯の「自立」

施設長が、母子世帯の自立をどのようにとらえているのかについての回答である。ただし、この質問は、調査を進めていく上で調査項目に加わったため、全ての施設長が回答しているわけではない。

1) 母子世帯の自立とは？

- ・本当の意味での自立は、母親は就労、子どもは家で待ってられるようになること。
- ・一個や二個でないから答えにくいけど、まず金銭的に生活できる範囲の状況になることと、たとえ母子世帯であっても親子で生きていける決心ができれば、そうすればどんな状況でも働いて生きていける。
- ・親がきちんと勤めてはじめて自立といえる。親がふわふわしていると子どもも落ち着かなくなる。
- ・貧しいながらも母子で生保を受給せずに頑張っている状態。
- ・精神的自立：女としての弱さ（優しさから来る）を兼ね備えてくる母親が一人二役をするのは大

変だなと思う。（経済的自立も大事だが……）

2) 母子生活支援施設と自立：母子生活支援施設にいての自立はありえるか？

- ・有りうる。安心して母子生活支援施設に生活できることが大切。
- ・ありえると思います！
- ・その人、その人によって違うが、職員の手助けなしで生活できるようになったら自立。
- ・ここにいても自立している人は自立している。子育てはその家族だけとするものではない。社会全体が担わなきゃいけない場合もある。子どもが自立するまでここにいいケースだってある。
- ・3～4年入所している人がいるが、居心地が良いから出て行かない。
- ・一定の自立に見える。子どもが幼いときは入寮している必要（保育の問題など）もあると思う。子どもが幼い人を入寮させていこうと思う。中学生になったら（退所しても）いいかと思ったが……。職員の対応も中学生などは勉強の指導も含めて難しい。

3) 生活保護の受給と自立：生活保護を受給しながらの自立はあるえるか？

- ・今はわからない。（この市の生活保護の与え方がおかしい。今は医療保護の単給ではなく、全給しかない。）
- ・ないと思います。
- ・半自立ならありえる。（子どもが大きくなったケースで、生保で家賃分を補助することでより自立の道へ近づく。）
- ・一時的なもの。努力して切る方向へ。

(5) その他

- ・この市は専門職配置になっていない。福祉の専門職がもっといて欲しい（現在の生活保護のワーカーは熱心で、資格を取るために勉強している）。
- ・以前と比べて、「母子」に対する理解が広がっ

てきた。単身の母親も受けてくれるようになった。

- ・小さいことでも後のばしにしないでその日に解決して、気持ちよく寝よう！ 後回しにして大事になることもある。←今できることをはっきりさせておくことの大切さ。
- ・頼み事、もめ事は職員に任せて！入居者同士でぶつかると大喧嘩になるので。
- ・子育て支援の国からの予算は保育所の方にしてしまい、母子生活支援施設にはほとんどない。
- ・施設長は職員と利用者との間のトラブルに一つ一つ対処している。
- ・子どもがいるとはいえ、女性でありたい気持ちはわかります。でも自分に子どもがいるということをしっかりわかってもらいたい！
- ・母子世帯というハンデは未だにある。私は許せない。
- ・生保は本当に必要な人にちゃんと届かず、違う人になっている。母親（妊娠中）、子ども3人。食べものが何にもない状態で夜働きに出ている。施設長のところに「明日が来たら私いないかも」という電話が来る。自分は、急いで自転車でかけつける。芋などを持って「失礼だけどこれたべてね！」と渡してきた。どうして保護を受けないのかと聞くと、役所にひどい扱いを受けたからと言う。そこで、自分が一緒に役所へ行くことに。役所の前に着いても、彼女は最初は入れなかった（よっぽどひどい扱いを受けたのであろう）。役所の人との話あいでは、自分が熱弁をくりひろげ、生保をもらえることに成功。いつまでも保護にぶら下がっているわけじゃないんだから、なんでもう少しもらいやすくできないんだろう!! 最近では、いかにも立派な女性役人をだしてきて、「私も母子でね、」と語りだし、要するに保護をもらわなくても頑張っていけると言う方向にもっていかれる。とてもじゃないけど借りられる雰囲気ではない。やはり、なかには施設長がせっかく生保を借りてきてままんまとにげてしまう人もいる。でも、そうじゃない人には、借金までして、生計を成り立たせ

ろというより、生保で手伝ってもらったうえで、自立させていったほうが良いと思う。

- ・施設長の悩み：「満足してもらえないし、感謝してもらえない」。時代が違ってきている。特に若い職員には大変な仕事だと多う。独身で子どももいなくて母子指導員っていても本当に大変なことです。真面目にやる職員だからよけいに苦しいだろうと思う。「若い」ってだけでも大変なのにそこを熱意でやっている若い職員の姿勢を「えらいな！」と思う。「何で私がおこまで？」と泣いてしまいそうなこともちゃんと対応していつている。仕事に前向きで感心する。
- ・難しいケースの時：親のニーズで行くか（母子指導員）、子どものニーズで行くか（少年指導員）が難しい。ケース会議っていう形でなくても打ち合わせは毎日する。ケース会議は、原則的に用務員さんも入れた全員で行う（用務員さんは、この施設の中で、一番長い時間ここにいる）。いろんなことに出くわしたり、見たりしている）。それぞれの職員がそれぞれの人生の背景でものをしゃべるから、自分ないものを言い合うことで埋めていく必要がある。気付いたことは、日誌に書くなり話すなりしている。
- ・生保をうけているお母さんへ、「お金の使い道の優先順位→まず子どもにお金を使って欲しい。」
- ・こういう施設でなくてもサービスセンターみたいなものがあれば、これほど不満はでてこないのかなって思う時もある。でもセンター方式にすると、お母さんと子どもの関係を見ていく人がいなくなる。虐待でないにしろ、何らかの問題がその家族に生じていたとしても気づける人がいない。外で暮らすとなれば、どこまで権限を持って介入していけるかが問題になる。
- ・難しいケースの場合、こっちの気力が続かなくなる。
- ・休日、夜間保育等、一見誰でもできる仕事なんだけれど、これは、対象者理解があってやる仕事で、そこに専門職（文句言われて仕返すするというレベルではないことをちゃんとわかって

- いてする仕事)として働いている意味がある。管理人入れたからと言って24時間体制とは言えない。
- 何かあれば母親同士で団結してくれる:子ども4人を抱えているお母さんが、公衆電話を使用していて、子どもが野放し状態に。近所のお母さん達3人があやしてしてくれた。
 - 各施設とも「何とかしてあげたい!」と言う気持ちでやっていると思う。都道府県がおさえているより実際はもっと親切な対応をしていると思う。昔にくらべ、善人的な対応をしていると思う。ケースだけでなく、ある程度踏み込んだ援助をして、自立を助けていこうと思う。
 - お母さん達の「あって欲しいニーズ」をつかみ、運営している。昔の母子寮のイメージはかなり改良されてきていると思うが、積極的にこの施設をアピールしづらい点か、かつての日陰の施設のイメージを引きずっている。
 - 世間一般での生活保護受給者の生活水準は、中の上。タクシー運転手より生活保護受給者の方が収入は良い。生活保護受給者の生活が良く見えることもあるので、きちんと家計簿を提出してもらおうなどの指導が必要だと思う。生活保護受給者は働く意欲が無いのではないかと感じる。
 - 生保の打ち切りを促していく。指導はきついかもしれない。生活はできるが、退所時に生活保護を受給していきたくないと母親は思っている。退所してから生活保護を受給している人はいない。
 - かつて、寮長相談日を設けていたが、来ないので中止。「相談日」とすると来ない。普段の生活の中から悩みは出てくる。解決できなくても精神的に安定を。
 - ケース会議については、自分は好まない。「指導」で導いていったら良いのか。

4 施設職員への調査

(1) 被調査者の概要

①性別

被調査者23名中、女性が22名であり、男性が

1名であった。

②年齢

被調査者23名中、無回答の2名を除いた21名の年齢は、21歳～59歳に渡っており、平均年齢は34.7歳である。

③この施設での経験年数

被調査者の現在の施設での経験年数は、1年目～25年に渡っており、平均経験年数は8.6年である(現在の施設における臨時職員の年数もカウントしている)。

内訳は、1年が3名、2・3年が各2名、4年が3名、5・6年が各2名、7・8・9・15・19・21年が各1名、23年が2名、25年が1名である。

④それまでの簡単な職歴

- なし(7名)
(保育園とか、施設とかにこだわりはなく、とにかく子どもと関われば良かったので、学校を通してここの募集を受けた。)
- 貯金局の臨時職員(1年11ヶ月←臨時職員のため2年までしかいけない)。教員採用試験に落ちて、知人の紹介で貯金局へ。その後、少年指導員を募集していることを知り応募。お母さん達の心配をカバーしている(26歳くらい、教員免許有り)とのことで採用される。その後、母子指導員が辞めたので母子指導員へ。
- コンビニ、食品会社、トラックの荷物積み卸し
- 自動車販売所勤務7年→退職後、主婦→知人の紹介で現施設に就職
- 保育園で5年
- 保育園+母子訓練センター+知的障害者施設+児童館(母生活支援センターのことは仕事を始めてから知った。自分から希望して、母子生活支援施設にきた。)
- 学校→養護老人施設
- 就職の時は福祉施設を希望したが、採用先が遠方の施設であったために断念。保育所に1年間勤務。その後、現職場に隣接している保育所の空きがあって、1年勤務。腰痛のために、母子生活支援施設に異動、現在に至る。
- 保育士(こことは違う法人の保育園で3年間働

いていた)

- ・ここが初めての職場。20歳でここに勤める。
- ・保育園の保育(10年間)
- ・短大の幼児科卒業後、母子生活支援施設と同じ系列の保育所に臨時職員として1年勤務。その後、正職として母子生活支援施設の職員になって、現在に至る。保育園の勤務が第1志望だった(友人が実習にいていたため、母子施設の名だけは知っていた)。
- ・保育園3年+老人ホーム12年+保育園8年+児童相談所+一時保護所8年。児相への異動時に初めて、「夜勤があるがどうか」と打診があった。母子生活支援へは、自分から第2希望にあげて異動してきた。→職場に母子生活支援センターから異動してきた人がいて話を聞き、それまでの経験を生かせる場所ではと考え、母子生活支援センターを希望した。
- ・現在の職場に勤める前は、保育士で仲良し子ども館に一年ほど勤務。その後、他の母子生活支援施設に少し勤務し、現在の職場に移った。
- ・新卒。保育士。最近、産休に入った職員の代わりに少年指導員になった。
- ・保育士になりたくて大学を探し、短大に入学。たまたま、〇〇ホームに実習に行ったことで、この仕事を知る。現在の法人から求人が来て、母子ホームもあったので、採用試験を受けてここに就職。
- ・保育園(他の法人)を結婚退職。ここは遠縁。その前は、母子生活支援施設については知らなかった。

⑤学歴

- ・保育専門学校卒(保育士)
- ・短大(幼児教育科・社会福祉コース)卒
(この大学で、保育士・幼稚園教諭・社会福祉主事認定を取ることができる。)
- ・大卒(英文科)
- ・工業大学(工学部)
(工学系に興味を持てなくなり、子どもが好きなことを再確認して通信講座で保育士をとる勉強を始めるが試験には落ちてしまう。ここのパー

トを見て、資格無くても良いとのことで、勉強になると思って入った。)

- ・専門学校3年間(保育士、幼稚園教諭)
(学校に求人が来ていたので、先生にアドバイスを受けてここへ来る。以前は「母子生活支援施設」については、授業で触れた活字程度で、わからなかった。)
- ・専門学校卒(事務系)
- ・高卒(特に資格は無い)
- ・?(無回答)
- ・短期大学・幼児教育卒(保育士、幼稚園教諭)
(学校に求人一保育所も求人あった。それまで、知らなかった。)
- ・短期大学・保育科卒(保育士)
- ・専門学校卒(保育士、幼教)求職は一新聞広告で、「経験5年以上」母子生活支援施設とは知らずに来た。
- ・専門学校3年間(保育士、幼稚園教諭)
(ギリギリまで決まらず、専門学校の先生から聞いてここへ来た。母子寮に対しては、言葉を聞いた事があるという程度だった。)
- ・短大卒(保育科)
- ・同じ地域の短大
(実家は〇〇市。母親の体調が悪くなったため、〇〇市に帰ってきた。母親が××保育園で働いていた関係でここを知り、ここで働くことに。母子生活支援施設が何なのかはほとんどわからない状態で入ってきた。)
- ・専門学校(保育系)
(保育士、幼稚園教諭2種免が取れる。専門学校で母子ホームを知る。実習は児童養護施設に行った。)
- ・保育専門学校卒(保育士、社会福祉主事)
- ・保育士専門学校卒。
- ・短大の幼児科卒。
- ・専門学校(3年間)。同時に、通信教育で大学を受ける。(資格:保育士、幼稚園教諭)
- ・大学附属保育専門学校(資格:保育士)
- ・市内の保育系短大卒業。学校の就職課の紹介で、母子支援施設の内容をよく知らずに就職した。

- ・専門学校卒業（保育士・社会福祉主事認容・ヘルパー1級が取れる。）
- ・短期大学卒（保育士）就職相談室に求人票があって、ここがいいかな……と。「母子寮」については、授業でもさっとやった程度。

（2）施設職員となって

1）はじめてこの仕事に就いたときの感想

- ・母親は離婚だけでなく、様々な問題を抱えているのだと思った。
- ・考えていたより大変な業務だと思った。
- ・様々な人（暴力団やサラ金から逃げてきた母親、若年者など）がいて、その人達と一緒に動き、気を配る仕事だと感じた。
- ・施設自体も知らず、また初体験で、戸惑う。自分の家も母子世帯のようなもので（父が行商で月に1回帰宅）、自分の母親が必死で働く姿を目の当たりにしてきた。母子生活支援施設の母親達は多くが生活保護を受給しており、のんびりしていて、自分の母親とのギャップを感じ、戸惑った。
- ・母子生活支援施設の様子が分からず、保育所での母親とのかかわりと違って身近すぎて怖いと思った。先行きが不安だった。
- ・保育園と違う点は、親との関わり。
- ・はじめは、興味本位だった。母子世帯と関わったことがないので、利用者について具体的にわからなかった。
- ・安易に考えていたが、勤めてみて難しい面がたくさんあると感じた。
- ・勤務する前は母子生活支援施設についてほとんど知らなかった。（テレビドラマで見たことはあったが、〇〇市にあることは知らなかった）。
- ・わからない状態。働いてから学んだ。
- ・面接の時、子どもたちは活発と聞いていたが、すごく活発だった。
- ・子どもたちとやっていかなければならないことに、不安を感じる。
- ・古い寮だった。見た目コンクリむき出し。雨漏り。職員少ない。でも色々やっていた。
- ・親との関係難しい。母親から苦情。個人の家まで、説明してもちょっとしたことで電話があった（以前は職員の電話番号を貼り出していた）。
- ・昔の母親は収入少ないが、前向きだった。
- ・最初は学童の面倒を見ればいいのかと思っていたが、お母さんとコミュニケーションを図らないと仕事にならないと思い、早く信頼関係を作ろうと努力した。むこう（お母さん）から話しかけてくることはないので子どものことを通してこちらから話しかけるよう努めた。
- ・どんなことをするのか最初わからなかったので、色々なことをするんだなと思った。（少年指導員の仕事について：特に主任がいるわけではない。先輩が教えてくれる。お母さん達と面接をすることはない。合ったときに子どものことを話すくらいで、他は母子指導員が話す。）
- ・「母子生活支援施設」という言葉は知っていたが、「保育園より下のランク」という認識であった。母子生活支援施設に行くのは自分の成績が悪いからだと思っていた。このまま辞めるか、母子生活支援施設に行くかの選択で、もう少し働きたいという思いで母子生活支援施設に行く決心をした。ここへ来て、びっくりした。家庭内の乱雑なところを見てしまって、すごい所にきたと思った。保育園では子どもの送り迎えをし、時間内での保育をすることが自分の仕事だったがここは、母子生活支援施設での生活のなかに入っただけの仕事で、すごくしんどい仕事だと感じた。最初の仕事は、流しに詰まった納豆や米等のゴミを取る仕事だった。辞めたいとも思ったが、3ヶ月頑張ってみようとりあえず続けた。理事長からは、とりあえず1年やって、1年間行事を全てこなせば考え方が変わるかもしれないと言われた。それから、とにかく意地で頑張った。「先生、途中で辞めたんだ」って言われたくなかったから。
- ・以前に、ここの実習をしていて、すごくいい施設だとおもって受けたので、採用してもらって嬉しかった。

- 前の母子生活支援施設に勤めていた時はやりがいがあった。人間関係が特殊で、いろいろあって、移ることが嫌だった。移ってみると、やりがいがあった。施設によって雰囲気が違うと思った。何故、施設によって（同じ母子生活支援施設でも）やりがいの温度が違うのかと思った。
 - 母親達の環境は今と違っていた。今は落ち着いている。以前は、子どもの事を考えないチンピラみたいな母親たちがいてびっくりした。
 - 嬉しかった。自分の知らない世界での仕事で興味があった。
 - こういう施設があること自体知らなかったし、母子世帯ばかりいてびっくりした。当時のほうが大変だったということはない。人生の縮図：社会で起きることが先にここで起きるって感じ。
 - 母子生活支援施設のイメージはあった。最初半年はパートだったので子どもと関わるが多く、母子生活支援施設という意識はしていなかった。正職員になってから意識し始めた。
 - 全てに対してわけがわからず、戸惑った。
 - 特に何も思わなかった：母子生活支援施設について、名前は知っていたが内容についてはまったく知らなかった（役所の中でもこの施設について知らない人は多い）。
 - わからない。
 - 最初、法人全体の採用試験を受け、保育士になろうとしたが、その中に母子ホームがあることを知り、そこなら空きがあるということで、自分も母子世帯ということもあって、ここへ来た。職員の一人としてお母さん達をサポートしようと思った。
- 2) この仕事で大変だと感じたとき・こと
- 子どもへの対応や、母親との会話、声かけなど、自分が仕事を出来ているのか不安。まだ、つかんでいない。子どもの年齢が様々で、対応が片寄ってしまうこともある。
 - 親が近くにいるので子どもを思いっきり叱れない。
 - 言い方一つで、母親のとり方が違うので大変。
 - 母親が、ストレートに取ってくれない。こちらの意図（お母さん達への想い）が伝わらない。受け取り方の違い。
 - 人間が相手の仕事なので、難しい。特に個人のプライバシーの問題（どこまで立ち入って仕事ができるのか）。
 - 母親たちと話す時。自分から言葉が出てこない（言葉遣いの問題）。
 - 相談されて返答に困る。
 - 最初の頃—22・23歳の頃に母親から「（先生は）若いから、わかんないんだよね」といわれて悔しかった。今は、施設の決まりを母親がやぶる時に、話をする仕方、どうやってもっていくか。話の仕方は、うまくいけば、よかったと思う。
 - 子どもといるせい、やめたいと思ったことはない（日々いろいろあるが……）。
 - 親との関わりで、あわないと難しい（最初良くて）。
 - 共同生活なので、もめ事が出てくる。それ一つ一つに職員が対応していくこと。
 - 大きい（年長の）子どもへの対応。子どもの日やクリスマスの日なども、小さい子たちのように乗ってこない。朝に「いってらっしゃい」、夜は「おかえり」くらい。
 - コミュニケーションのはかり方が難しい—苦手な人を作らない様に、誰とでも話せるように。意識して。
 - 各家庭で支援の仕方が違ったり、子どもに対する考え方の違いから来るトラブル。入居者同士の解決の仕方が難しい（子ども同士のトラブルは解決できる）。自分は、結婚していないし、子どももいないから、どこまで口出しているかが難しい。
 - いろんな状況の人が入所してくる。その人（逃げてきた人）宛に電話が来ると対処に困る（まだ、慣れていないため）。
 - 子ども達と話をしていく中で、自分が伝えたいことが伝わらないとき、一人の人間としてつき合う上で大変だなと思うし、それは職員との間、職員同士においても言えることだと思う。

- 仕事が忙しい時は大変だなあと思う。
- 人間相手なので、誤解されたり、思ったように伝わらない（それぞれの人生があるから）のが難しい。
 - 最初の頃、母親と前夫が子どもの取り合いをするのを見て、どう対応したらいいのか大変だと思った。
 - 信頼関係が揺らいだ時（色々やっても母親が引いてしまう時、気まづくなった時など）。
 - 母子の姿は人それぞれ違うので、それに応じて気を配らなければならないと思う。
 - 新人の頃、入居者の方が古く、色々な事を知っているの、信頼関係を作るまでに時間がかかった。
 - 自分の考え方と母子生活支援施設に来る方々との意識の違い。自分の考えを押し付けることはできない。例えば、食生活については、調理をする匂いが全くせず、買ってきていたり、カップラーメンなどが多い。
 - 学童に入っていて、母親との関わりは時々ある。母親から「(先生は) 生んで育てたことないのに」と言われるとつらい。一番落ち込んだのは、自分は子どものことを考えて帰宅の遅い母親にもっと早く帰るようにアドバイスしたが、その母親なりに仕事を終えて精一杯早く帰宅していたことを知らずに指摘し、母親の精神的な負担を増やしてしまったことだった。母親は他の職員に相談していた。もっと母親の状況を把握すべきだったと思う。
 - 学童に入った当初は、子どもの暴言に驚き、対応に苦慮した。今は、子どもに対して一つひとつ声がけしている。
 - 年上のお母さんが多い（自分より年下はいないので、子どものことを話すときに難しい）。
 - 信頼関係を継続していくことの難しさを感じた時。
 - 自分が落ち込むとき。入所者と価値観が違う（年が離れている等で）ことで、なかなかかわかってもらえずからまわりしてしまう。そんなとき、辞めようかと思う。
 - 自分のやり方がまずかったと思うが、分かってもらえないときは、伝えることの難しさを感じる。
 - 夜間（夜6:00～朝8:00）は職員がいないので、その間は何が起こるか分からない。
 - 人間関係。職員同士や母親との関係。母親は自分よりも人生経験が豊かで、新卒の自分が接する事の大変さ。辞めたくなるのも人間関係の問題に直面した時である。
 - こちらが入居者のことを思ってかけた言葉に対して「干渉しないで！」といわれると、こちらの想いが伝わっていないんだなと感じる。ふとした時（常時ではない）、何気ないやりとりで難しさを感じる。
 - 何かあった時には携帯で主任へ連絡が入ることになっているが、すぐに対応できない（対応が難しい）。
 - 特に緊急入所（DV関係など）の人が入った時は気を使う。そうした場合は携帯の番号を教え、相手の番号も聞いておく。
 - 子どもたちは男の先生を求めてくる。自分でなければ……と思う。
 - 低学年はOK。高学年は手に負えない。
 - 精神疾患を抱えた入所者の対応に困っている。現在は、人格障害の入所者に振り回されている。精神科の医師と連絡をとることが難しい。医師やPSWからの連絡はないが、連絡をもらえると楽になると思う。（以前、あるクリニックに2名の入所者が通院していたので、生保のワーカーと病院へ説明に向いたが、病院スタッフはとても高姿勢だった。生保のワーカーとの関係は、最初は施設職員が母子の状況を説明し、ワーカーへアドバイス（就労の促し方など）するなど、理解されるまでは大変だった。現在は担当者が変わっても施設との良好な関係が引き継がれていき、フットワークが軽く、協力的）
 - 女性だけの職場ということ。
 - 行事に関して：野外活動から帰ると子ども達は母親に「つかれた～！」とそこだけを報告する。楽しいこともあったはずなのに。それを聞いた

母親は、行事で子どもの休みを奪わないでくれ、そこまでして行く必要があるのかと言って来る。

3) この仕事でうれしさを感じたとき・こと

- ・子ども達が退所しても遊びに来て、成長した姿を見ると嬉しい。
- ・お母さん達から「ありがとう」といってもらえると嬉しい。
- ・子どもから「ありがとう」とお礼を言われた時。
- ・子どもから、子どもの自身のことについての相談を受けたとき（時にはお母さんと接する時もある）。そして、お母さんから感謝されたとき。
- ・お母さんの仕事が決まった時（自立の第一歩）。
- ・子どもが成長して、いい状態で退所したとき。
- ・自分は、毎日子どもの気づいたことを書き留めている（個人的に）。それを振り返ってみると、「子どもはすごいなぁ」と思う。
- ・子ども達とうち解けたとき！（うちは少年指導員がお母さんと直接面接することはない。）
- ・子ども達がまとわりつく。
- ・お母さんが、世間話とか仕事の愚痴とか子どもの話等をしてくれたり、子どもと遊んでいるときは楽しい。
（母子指導員と少年指導員の仕事について：お母さん達の行事は母子指導員の仕事。学習室の担当は少年指導員。お母さんが少年指導員にも相談にくるし、そんなに少年指導員、母子指導員だからという、区別はない。）
- ・子どもの成長が見えること。
- ・子どもたちに自分の名前を覚えてもらって、一緒にいてよかったと思う。
- ・自分達を頼りにしてくれて、自立に向けて、お母さんから「先生いてくれて助かる」と言われたとき。
- ・いろいろなタイプの人に、出会える。→自分も成長できる、学べる。
- ・入所者が、将来の見通しがついて、自立して退所していく時に感じると思うが、まだ経験はない。
- ・人間相手の仕事が好き。

- ・どう自立していくか、母親と意見が一致し、実際に自立していく人を見たとき。
- ・退所後に様子を知らせる葉書を受け取った時。
- ・子どもの病気（精神的なものを含む）や色々な問題に改善が見られたとき。自分も関わってきたのだとやりがいを感じる。
- ・複雑な問題を抱えている母親の気持ちが落ち着き、心を開いてくれたとき。
- ・母親が精神的に自立して、資格を身につけるなどして意欲的になって、母子生活支援施設を出て行った時。
（若い時は、母子指導員が母親を担当し、少年指導員が子どもを担当すると思っていて、母と関わることは少なく、子どもをみてきた。ここ10年間で、母親をみることも大切だと思えるようになった。自分の年齢もあって、アドバイスできるようになった。）
- ・クリスマス会、法人内での交流会、福祉会等の行事で、子ども達が、踊りや歌、器楽演奏をする場合、最初はできるかどうかという不安を抱えるが、やってのけると、頑張ったなぁと嬉しくなる。子ども達のほうが度胸があって、こっちが緊張していても当の本人達は「先生、まだぁ（出番）？」と笑顔を見せる。数をこなしている分、子ども達のほうが強くなっていると思う。
- ・具体的にはない。入所者は正直に話さない。本人の話しと実際とは違うなと感じる。
- ・「先生と話してちょっと楽になった」と言われたことが嬉しかった。自分が必要とされていると感じた時、嬉しさを感じる。ここ10年間ぐらいでこのような嬉しさを感じるようになった。今の若い職員は母親への対応は上手だと思う。
- ・毎日楽しい。やりがいがある。
- ・子どもの成長を見たとき。
- ・口下手な母親が、子どもへの愛情を表現した時。
- ・保育園とは異なり、子どもの様子が毎日違う。
- ・何日も前から、みんなで準備をしてきた行事が終わって、子どもの笑顔がみれたり、「楽しかったよー」の一言が聞けることが嬉しい。
（行事の準備は少年指導員、母子指導員とも特

に区別無く一緒に行くが、母親の面接等は少年指導員が直接行くことはない。）

- 子どもが成長したなと感じるとき、嬉しい。
- 子ども達の家庭訪問（学校の先生による）の時に、入所者のお母さんが子どもの担任の先生に、「事務所が一番信頼している先生です！」と自分を紹介してくれたときは嬉しかった。
- 母の日に子どもから特別にプレゼントをもらったり、修学旅行のお土産をもらったりすると嬉しい。
- 母と子を含めて、自立して幸せになると嬉しい。また、自分達の言っている事が伝わると良かったと感じる。
- 子どもから「先生、好き」と言われたり、母親から「ありがとう」と感謝された時。
- お母さん達に「ありがとう」と言われたとき。

4) 母子生活支援施設の職員として大切なこと（心がけていること）

- 思いやり。相手の立場に立って考えてやる事。いろんな人生を否定しないで、受け入れてやること。多少のことではもう驚かなくなっている。小説よりすごい人生の方もいる。
- その時々のお母さんや子ども達に対する気配り。お母さんや子どもも人間だから、いくら同じ事を言っても受け取り方が違う。どういうときに言ったら受け取ってもらえるかが難しい。
- 信頼関係（する、される）。こういう気持ちがないと相手も何も言ってくれない。（最初は、お母さんと話をしなかった。）
- とりあえず、みんな平等に。子どもに対しても、必要かどうかを見極める。かまってもらいたい子ばかり寄ってくるので。
- 母親との信頼関係。保つのはどうしたらいいのか。
- 説得力。どのように伝わっていくか。伝えていたらいいか。
- 生保受給のお母さんに対して、少しでも自立に向けて、稼働に向けて援助。
- 資格がないので、専門家ではないが、個人のプ

ライバシーを尊重しつつ、自分の子育ての経験を生かして、若い母親に対して指導や手助けが出来たらと思っている。

- 母親の生育暦を重視してあげられれば良いと思う（生育暦を見て援助してあげたいと思っても、本人の行動をみるとその気が、かき消させる感じもある）。
- 入ってる方の気持ちを理解（共感する。利用者側にたった理解）しての言葉がけが大事。もちろん、共感ばかりでは支援の上でダメなので共感しつつ、こちらの考えを伝えるよう働きかける必要がある。
- 別に、「モットー」とかでは無いけど、4月で6年目になる。その間で思いやりを持って接しないと相手は心を開いてくれないということを学んだ。自分が笑えなくなったら終わり。子ども達は自分のちょっとした変化をも見逃さない。寝てなくて目が腫れていれば「先生どうしたの?」、時計一つでも普段と違う物をすれば「いつもと違うよ、何かあるの?」、服装や化粧が違えば、時に幼児においては「誰だろ?」ということになる。敏感な子ども達は、自分がムッとしていれば「先生、怒ってる。」と思うだろう。笑顔を大切に、笑顔を絶やさぬようにするようこころがけている。
- その人によっていろいろな事情があり、悩みを聞いてもその人に合った対応を考えていくことが大切。
- 割り切った援助が大切（実母と母親、母親と子の関係を親子として系統付けて見るのではなく、あくまで、母は母、子は子という一人の人間としてのとらえ方）だと思う。
- お母さんと接する中で、親身になって話したり、相手の立場になって考える。
- 仕事や人間関係について相談された時、自分の意見と周囲の意見をすりあわせて、自分の意見を押し付けずに、お母さん自身へ投げかけていく。
- 笑顔を心がける
- 信頼関係（昨年くらいから）。お母さんに対し

ても子どもに対しても。

(以前に、子どもを病院に送るために、実習生に部屋をみてもらったことがあり、お母さんから注意を受けた。一度信頼関係が崩れると難しい。)

- ・「人を理解する。」ことは、難しい。自分の観念でしない様にと心がけている。
- ・一人一人の問題に耳を傾け、各母親がどう自立していきたいのかを聞き、心理的サポートを含め支援していく。
- ・自分の考えだけでなく、他の社会資源を十分活用する。
- ・精神的にバタバタの状態に入ってくるので、そこから立ち直るのには、このようにしたらと言う、具体的なアプローチが必要。
- ・施設が狭いので、母子が毎日健康的に暮らせるように配慮している。
- ・母親と信頼関係を築くこと。信頼関係が出来る、こちらからの提案を受け入れてくれる。
- ・母親は入居時、精神的なダメージが大きい(ボロボロ)ので、気持ちの面で寄り添うことが必要だと思う。次に環境作り、生活の基盤作りが必要。
- ・社会の中で“その人らしく”生活できるように、本人の個性を大切に援助すること。
- ・勉強不足って思っている。
- ・社会情勢の中で社会福祉がどう変化しているのか把握する必要性
- ・入所者をどう受け止めるか大切では? →問題解決のためにどこと関係を持ったらいいか、敏速に行動できるか。ネットワーク作りが難しい。
- ・「常に学ばせてもらう」という姿勢。母親にアドバイスをする時も、上からではなく、学ばせてもらっているという態度で接する事が大切だと思う。
- ・子どもが見てちゃんと手本になれるようにすること。
- ・人に対して下品な態度は良くないと思う。
- ・お母さん達が信じて生活できる環境を私達がつけて、お母さん達が安心して仕事に行ける施設を

私達がつけていく。子ども達が自分の家にいる感じで保育されるようにする。

- ・ここでなくてもそうだけど、信頼関係は大切だと思う。母と子であれ、職員と母であれ、職員同士であれ、信頼関係がないとやってけない! 信頼関係を作り上げるため、小さな報告(子どもが怪我した等)をするようにしている。
- ・保母になる時、友達(男性)から、「自分は小さい頃、『先生』と名の付く人にすごく影響を受けた。自分にはできない。あんた達は2年間の学習で人に教える立場に立ててすごいね!」と言われた。この言葉を常に忘れないようにしている。
- ・心と心のつながり。偽りなく、愛情をもって接しないと相手に伝わらないと思う。
- ・自立に向けた厳しい対応
- ・ここに入所している母子世帯と地域の母子世帯が異なるとは思わないが、この入所者に対しては、自立を考えてもう少し厳しい対応が必要だと思う。母子生活支援施設を無料アパートと考えていたり、都合のいい部分だけ利用している人がいる。

5) 職員の研修

①施設外研修

施設外の研修では、大部分の施設において、「全道母子生活支援協議会研修セミナー」・「北海道・東北ブロック母子生活支援施設研究協議会」・「全国母子生活支援施設職員研修会」・「全国母子生活支援施設協議会研究大会」・「札幌市母子生活支援施設連合会職員研修会や施設見学」(札幌市の場合)などを中心に、施設内で職員が交代で出席している。他に、一部の職員から施設外研修としてあげられていたものには、以下のものがある。

- ・全国職員研修で、実際のケースについて、グループでディスカッションしたことは、他の施設の人とも知り合えたこともあって、役立った。
- ・全国施設長研修会
- ・全国母子連の研修会

- ・全国直接処遇職員研修
- ・私保連の研修でロールプレイなどに参加
- ・札幌市の研修会で必要なもの（救急、公衆衛生、言語指導など）。
- ・社協主催の研修で必要なもの
- ・市社協による「横浜市交換研修生（2泊3日）」（費用は施設負担）
- ・連合会による東京ひまわり園（太田区）の研修
- ・森田ユリの「子どもの虐待」（ロールプレイ有り。実践的でよかった。）
- ・社会福祉施設で主催している「広報」の研究会（札幌）←自分は施設内新聞の担当をしているため。
- ・救急救命セミナー（1回）
- ・札幌市の子どものケースワークの研修。リフレッシュできた。
- ・早期療育
- ・アメリカ研修
- ・シンガポール（企業の主催で、春休みに子どもを引率していったことがある）
- ・新任保育士研修（道）
- ・市の職員研修（母子に関わる職員は全員出席）。
- ・子どもの海外体験の旅（入って一年目の時、子どもを引率して一週間くらいシンガポールとインドネシアへ）
- ・援助センターの講演会
- ・道社協プランの職員間の旅行、その地域の母子生活支援施設・施設を見学する（沖縄へ行った）。

しかし一方で少数ではあるが、「施設外研修は出たことがない」あるいは、「施設外研修には施設長が参加している」といった声もあり、施設間での偏りがあった。

②施設内研修

施設外の研修に多くの職員が参加しているのに比べて、施設内研修では、大部分の施設が「特になし」と答えていた。少数ではあったが、施設内・法人内の研修を行っているところの内容は以下の通りである。

- ・月1回、心理士（MSW 経験者）を講師に学習会を今年より実施。目的は、職員の気分の解放、支援方法や援助技術の学習。職員は当直以外は全員参加。法人で予算をつけている。
- ・法人内研修（年2～3回、全員参加）。（園児は延長保育に預ける。）
- ・パソコンの講習会（ホームページの作り方）
- ・法人内研修（年3回、全員参加、講師には弁護士・歯医者・病院の院長等）
- ・交流会（3施設・保育園2）。
- ・薬の飲ませ方など必要に応じて勉強会を行う。
- ・法人内研修で「子どもの風邪や病気になったときのサイン」という内容の講演があり、それは役に立った。熱が出ただけで母親は、病院に行きたがるけど、そんなとき具体的に対応できるようになった。
- ・法人で年1回の研修（講演会、理事会との会食）
- ・年1回、同系列での見学研修（4年目まで必修）
- ・アメリカ研修の報告会（2時間）

また、「特別に設けておらず、必要に応じて、各自が独自に勉強している」という方法で、あるいは、「何人かで本を読んだり、自分が行ってきた研修会のことを話したりする」という形で学習を積み重ねている回答もあった。そこには、「延長勤務になり、自分から積極的に働きかけないと、時間的に難しい」といった声もあった。

これらの施設内研修の少なさを補うべく行われる「ケース会議（処遇会議・事例検討）」といったものについては、「月に一度、全員参加、報告＋疑問についての話し合い」や「施設内では処遇会議の中で事例検討を最低でも月に1回、後は必要に応じて行っている。今後はより頻繁に事例検討会が実施されると思う。連絡簿を作成して、全員で情報を共有していく努力をしている。」といった定期的に設定されているものから「ケース検討は必要に応じて行う。担当の先生の意見に対して他の先生から助言する。」「定期的には行っていない」といった必要に応じて行っているところ、さらに「ケース会議は最近はない。」という回答

もあった。

また、その内容にしても、「ケース会議は（必要に応じて）連絡伝達程度」、「職員会議の時」、「ケース会議：何かあれば逐一話している。連絡的なもの」、「個人的なアドバイスは有る。情報交換も有る」、「何かあると職員が集まって、まめに話し合っている。連絡を密にしてないと職員によって対応が違うということになってしまうので」、「毎日たえず入所者のことをスタッフで話し合っている」、「ケース会議はしないが、何かあれば、いる職員同士で様子を把握しあっている」、「具体的なケース検討はやらないけど、毎日の打ち合わせはする」といった職員会議あるいは情報交換をもってケースの検討の時間としている施設も少なからず存在した。

③個人的に参加している研修

職員が個人的に参加している研修についても、「なし」という回答が多かった。それは、どこで、どのような研修が行われているのかを知らないといった情報を知らない問いことと、「今のところは余裕が無いので新たに研修を探す予定も無い」という声にあるように日常の余裕のなさから、そこまでは手が回らないという現状もある。

一方、少数ではあったが、これまでに参加したことがある研修については、以下の通りである。

- ・北星大（出身者）の研修会（少年犯罪など）
- ・児童虐待防止協会の例会、グループワーク研修、レクリエーションの研修
- ・自分の所属している宗教での研修会：教育相談（カウンセリング、箱庭、バウムテスト）の研修（週に1回通ってた）。
- ・救急講習
- ・かんだゆうこさん（心理学）主催の研修会に通っていた。途中で辞めたが、「自分を高める」という内容の研修会であった。
- ・カウンセリングセンターの1級の講座
- ・社会福祉主事の資格取得（全社協）
- ・グループワークの講座（市のグループワーク講

座の1期生）

- ・子どもの学校の父兄を対象とした講演会など。

④今後の研修への要望

施設内外であっても、また個人的にでも、今後受けてみたい研修の内容についての要望については、「母親への対応の仕方」を中心に、様々な意見が出ていた。

- ・他の施設の職員さんと話せる場があれば色々勉強出来ると思う。
- ・母親への対応。子どもの学童心理、どうしているのか、なぜ嘘をつくのかわかるのか。
- ・少年指導員向けに、子どもに対する接し方、遊び方。
- ・これって言うのではないが、全道とかに行ってもDV等の話ばかりなので、自分の専門（子ども）をテーマにした研修会のほうが、自分には有利だと思う。
- ・違う所で同じ仕事をしている人と話をしてお母さんと話す時のことを聞きたい（自分が若く、お母さんたちは年上なので、話しにくい）。
- ・ネレクト関係の勉強をしたい。関係機関（学校など）とどのように連携をとればよいか、どこまで介入できるのか（市や児童相談所でも母子生活支援施設について知らない人がいる）。
- ・カウンセラーに、人の話しを聞く上で、相手の考えを引き出す方法について（今の方法でいいのかどうか？）。
- ・市の施設研修で、子どもとの接し方の講習会に出たい。子ども同士のけんかへの対応。
- ・グループワークについて：子どもたちを自分としては、まとめているつもりなのに、まとめられていない。高学年の子どもには「まとめなさい、力づくで」と言ってしまう。
- ・実践的な話をもっと聞きたい。事例研究も必要だと思う。
- ・今のところは希望する研修も無し。
- ・その時代で問題になっていることについて学びたい。自分も考えていきたい。

(例えば、虐待について、行政としての対応、施設内での対応など)

- 教育基本法の見直しについて
- 法律的なこと（破産宣告、債務整理など）について勉強したい。
(以前家裁に同行したことがある。生活保護にしろなくても債務整理をして、少しずつ返済していく方法があると聞いたので、勉強したい)
- 電話の受け答えに困るので、言葉使い等、そういうのをききたい。
- 色々聞きたい
- たまには仕事を離れて「あぁ、そういう世界もあるんだな」と思えるような、そういう軽い話を聞きたい。
- 相手の気持ちを考えながらの対応の仕方。母親への言葉遣い。自分の気持ちの伝え方。
- 子どもとの接し方はうまくできるが、母親への接し方は難しい。
- 自分にも子どもがいるので、今の時代の子育てに関しての講演は聞きたい。
- 母親との接し方！「こういうときに、こういう対応を！」という具体的な内容（ロールプレイを含む）の講習に行きたい。

(3) 母子世帯への援助の実際

1) 様々な援助

ここでは、インタビュー全体に渡って話の中に出てきた、日頃の援助の実践について、ケースのプライバシーに抵触しない限りで紹介していく。そこには、職員の先生方の日々の「がんばり」がみられると同時に、援助の実際場面におけるお母さんや子どもへの対応の「ヒント」のようなものも読みとることができる回答もある。

- どうしてもそりが合わないお母さんとはどうするの？→何でも話しかけていく。くだらないことでもはなしかける。私の考えがわかってもらえなければ何度でも話す。
- そのケースの担当として、(自分は)本人に詰めるタイプ。その人と向き合おうとする。

- ここに居る間はあなたと一緒にだと伝える。
- 入所者に、一人で悩んでないで、働くことが大切だと言い続ける。
- 知的障害のお母さんへも、もっとほめてのばすようにしている。
- 朝番の職員が子どもを起こして、保育園へ送る(お母さんは仕事で5:30に出て行くため。そのときは、自動ロック時間を早めてある)。
- 昔は、夜勤の看護婦も施設内にいて、夜間の対応もしていた(3人学童の子どもを泊りの職員が見回っていた)。
- お母さんは、社会に出ることが、評価を得たり、考えたりする機会になる。
- 仕事が長続きしない人もいるが、その人は、別の仕事は合うかもしれないと思っている。だから、雇用状態が悪く、すぐに首になってしまうケースも追求しない。他で仕事を探せば良いと言って、前向きな指導をしていく。
- 母親に対して：前夫の関係もあって、母親は不安定で、子どもにもきつい事を言ってしまう。子どもに対して、すぐにあたってしまうとこを仲介してあげて、調節しながら対応している。「寂しかったら電話してね！」と、施設長や職員の携帯番号を教え、いつでも話が出るようにした。翌日の朝すぐお母さんのところへ行って、もう一回話を聞いてあげる等の工夫もした！
- 母親に、「(自分は)あなたの問題を一緒に考える人」という立場を伝える。
- 子どものおばあさんの存在だということもアピールする。
- 就労先の確保をしようと、ハローワーク(ここでは、いい人と悪い人がいる)や、就業指導員(もとハローワークの人)から情報を得て援助する。
- 子どもに対して：子どもも(親と同様に)人と接することが苦手で、学習室でも隅っこに一人でぼつんと居るような子だったが、学習室活動を通して、友達と仲良くなったり自己主張できるようになった。基本的学習習慣(一日の流れ：帰ったら手を洗って、勉強して、等)を身につ

けさせるよう支援した。

- 相手が「嫌だ」といえる間柄にする。監視されているという関係にしない。
- 私は人事異動があるが、母親はここから逃れられない、母親にとって必要な場所であることを忘れない。
- 子どもに対して：アトピーがどんどんひどくなっていく（血がにじむくらい）ので、薬を預かって面倒を見た。初めは、母親を求め「ママ、ママ」と泣いたし、職員に対して「来るな」とも言われたが、時間をかけて対応し、職員は頑張って薬を塗り、アトピーを治した。お医者さんが「こんなにきれいになったよ！」と励ましてくれたこともあって、本人もそれを励みに頑張った。「先生ありがとう」と言ってくれた。
- 母親にとって母子生活支援センターは家でもあるということをおぼろげに忘れない。
- 母親が母子生活支援施設に帰ってこなくなったため、施設長が子どもを一時保護というかたちで児相へ送り、養護施設へ。その人の居室は、小ハエが飛んでいるような部屋で、どこに何があるのかもわからない状態だった。職員総出で子どもに持たせてやる物を探した。
- この母親は子どもにちゃんと目が届いておらず、子どものエプロンがつんつくてんだったり、おしぼりにカビが生えていたりといった状況であった。これに対して、どんなに（子どもに）知的に遅れがあろうと幼かろうと「新しい物」や「お母さんが用意してくれた物」をちゃんとわかっている先生の立場から、当然、「子どもの成長に合わせて物を準備するのは親の役目である」ということをこの母親に伝えようという取り組みにでる。かといって、説教じみた言い方をしてしまえば、こちらの想いを受け取ってもらえない可能性の方が高いため、あくまで「子どもが困らないように用意して欲しいんです、協力して欲しいんです。」というアプローチで母親に関わる。園の方でもエプロン等を用意するようにしたが、これに関しては、押しつけになら

ないよう母親には報告していない。

- 自分自身を客観視していかなければならない。
- 相談を受ける時、自分の考えは言うが、決めるのは本人（母親）だと伝える。
- 長女の育児をすることで母親の負担を軽くする。生活援助（買い物等）も行う。長男に髄膜炎（生後7～8ヶ月の時）の後遺症が残ったため、障害児訓練施設に通わせる。その送り迎えを職員も手伝う。バス利用が可能になる前までは、母親がタクシーで連れて行ったり、職員が連れて行き訓練が終わるまでそこで待っていたが、バスが使えるようになるとバス停までの送り迎えを、母親または職員が行った。
- この施設を選んだのだからやってみなさいと言う。母親がやってみたく思っている時には、チャレンジしなさいと言う。
- 保育士だけでなく、様々な職種の人が必要だと思う。
- 子どもに対して：育児支援。アトピーがひどく、薬の種類が多いため、職員が保育園へ薬を塗りに出向いて行く。薬が少なくなったら母親に声をかける。子ども中心に援助。
- 現在行っている支援（母親が働いているため）：入浴ケア（時間が決まっている。母親の帰りが遅いため）、朝食対応（母親が朝起きられなかったり、食べさせられなかったりするため）、休日保育（何年か前までは基本的に休日保育はやっていなかったが、母親が何度も交渉を続け、施設側がそれを受け入れる形となった）。
- 母親の目的が職員と一致したので、それに向けての計画作りを一緒にした。
- 母親に対して：夫が同じ市内にいたので、早く逃げる必要があった。外出もできず、買い物は職員が行った。うまくいって、夫と会わずに他市へ逃れる事ができた。母子が逃れた後に、元夫が保護司と共に訪ねてきた。
- ある母親は頼る家族もおらず、いつも泣き顔（もともとの顔の作りもあるとは思いますが）のような方だったので、ゆったりとした気分になれるよう、声かけをしたり、話を聞いたりしてあ

げた。

- 生活保護費の遣い方について、主任より、クレジットカードを処分するように注意。生活保護を打ち切る事を目標にして、施設で積み立て（寮費を大目に納めて、差額を貯金、児童扶養手当の貯金）をするなど職員が支援。母親との話し合いの中で決定していった。
- 延長保育の時間もお母さんが安心出来る保育を提供した。テレビを見せるだけとかではなく、工夫して子どもと一緒に母親の帰りを待った。
- 母親は必要な援助を積極的に利用し、職員に対しても対等に話しをした。
- ここへ来た当初は、DV ケースを前夫から守るため、職員が代行で役所に行ってあげたり、また区の役所が誤ってここの住所を前夫に言ってしまったとのことで、いろんな機関（区役所、警察等の関連機関全部）と連携をとり対応した。
- 職員が、生保受給はいつまでも継続できないと伝える。母親の親が児童扶養手当を貯金してくれていた。これを元手にして職員と生保ワーカーが連携して生保受給を打ち切り、自立へと導いた。
- 子どもが病気になったときは母親の代わりに病院に連れて行った。
- 母親が不在中の保育
- 子どもの母親に対する訴えを聞くようにした。加えて、子どもの居場所作り。「お母さん、鬼だ」と子どもは言っていた。子どもに告げ口をさせることにならないように気を遣った。
- 掃除の援助：部屋の片づけが苦手（ベッドの下にゴミがあるなど）な母親。床で食事するなど、生活習慣もできていない。母親は職員の入室は拒まないが、部屋は片付けない。一度、職員が総出で掃除に入ったが、その時はすぐに元通りになってしまった。→2年後、声かけして、主任と用務員が掃除に入ることを母親は認めた。その後、職員が点検に入るようになった。→今度は部屋のきれいさが維持できた。部屋がきれいだと、友人を招く事ができ、（母親も）その楽しさを知って清潔さが保持されるようになった。

た。

- 子どもに対して：正しい生活習慣が身につけていなかったで、注意するなどの声かけをした床で食事するなど、生活習慣が出来ていない。

2) 「自立」援助への成功事例～その理由

ここでは、施設職員自身が「自立」への援助がうまくいったと思う事例をあげてもらう中で、「なぜ、その事例がうまくいったと思う（考えた）のか。」についての回答を列挙していく。

- この母親が、職員を受け入れてくれたから。
- お母さん自身に自立しようという気持ちがあった。実家の後押しがあった。ここの信頼関係ができていた。頼ってくれていた。信頼関係が築けたのは、夜でも拒否せず、「淋しいね」とか、「大変だね」等々と話をきいてあげたから。
- こちらの働きかけをお母さん自体がとても受け入れてくれていた。それは、なにげない言葉からも感じられた。行事参加においても、好意的態度だった。他の母親達からの（嫉妬などの）苦情もなかった。
(どうしてこの母親はこうした援助を受けてくれたのか?→休日保育の希望を施設側が受け入れたこともあるだろうし、なにより、この母親は、こちらが介入していかないと生活が成り立たない感じだったので、「頼るとは頼って行かなきゃな」ということを母親自身で認知していたとおもう。)
- 心の援助と母親のニーズが合致したと思う。(職員が何かすごいことをしたからと言うのではなく……職員はそんなに、力があるわけではない。)
- お母さんの姿勢がいい=前向き。お母さんとしては大変だと思うが、正職への見通しもあってうまくいった。
- 母親自身が母子生活支援センターに入所する目的をしっかりとっていた。
- 技術（看護師）があり、それにより高い収入を得ることができた。

- ・母親の目的がハッキリしていたので、必要な援助について母親自身も主張し、一緒に考えるなど、母親からの積極的な参加があった。
- ・母親の要求とこちらの援助がマッチした。
- ・母親が自分を持っている人などで、こちらからあまり言い過ぎないようにした。
(例：部屋の掃除をしない人だったがうるさく言わないようにした)
- ・母親から「子どもが病気の時、入院した時に先生方が助けてくれたので、不安が無く頑張れた」と言われた。
- ・最初に頑張ることができれば、その後もやっていけると思う。この母親は今後も頑張っていけると思う。
- ・どっちにしても子どもを預けるなら、ここで。お金をかけて託児所に預けるより、ここで預かった方がよいと思い、職員で勤務体制を変えてこのお母さんに援助した。今思うと自分をほめてやりたい。毎日自分がするのは辛いかも知れないが、一週間に一回くらいであれば大変だと感じなかった。
- ・他のケースとの違いは、母親の気持ちの問題。自分を見つめた事が大きかった。
- ・子どもの為に頑張る気持ちが大きく、それが過去には短大に落ちたのに、公立の看護学校に合格したことに繋がった。母親の親も喜び、親戚中に報告した（職員はきっかけを作っただけに過ぎない）。
- ・たまに訪問する生保のワーカーでは生活支援は難しい。訪問頻度が多くないと難しい。自立のきっかけを作っていくのが職員の仕事。母親に伝えるべき事は言いつづける事が必要。母親自身が精神的に幼くても成長していく。いつか分かってくれると思う。
- ・うまくいく人といかない人との違いは、成育過程での「いいモデル」の存在。この事例の母親の母は、あたたかい人。その影響だと思うが、この母親は食事をきちんと作る。食生活の習慣は（一般的に母親の親の）大きな影響があると思う。また、母親が親としてのモデルを持って

いない時は、母親としてどう振舞ったらいいのかが分からないので、職員が教えたり、一緒にやる中で学んでいく。

(別の生保受給ケースの例で、掃除ができない母親に対して、職員が掃除を手伝ったところ、母親がきれいな部屋の居心地の良さを知り、整理整頓を心がけるようになった。)

- ・職員が給出で掃除した事などがきっかけで、自立に向けて母親が大きく前進した。声かけだけでは無理だったと思う。
- ・子どもも母親のしつけができていなかったのに、生活が乱れていたが、声かけして指導すれば、理解して実行できる子どもたちであった。親に生活習慣について教えられていなかっただけだった。
- ・母親がこちらのアドバイスを聞き、すぐに行動した（アドバイスしても行動に移せない人もいるが……）。

3) 「自立」援助の失敗事例～その理由

前項と同様に、援助が失敗したと思う事例について「どうして、その事例がうまくいかなかったと思う（考えた）のか。」あるいは、「そのケースが心残りと思う理由」についての回答を列举していく。

- ・「失敗」はやりすぎの時。甘えを知ると限度がない。
- ・どれが成功か、失敗か、見極めが分からない。
- ・個人的な感情のぶつかり。喧嘩をして出ていった。
- ・本人は素直な性格で、先生の言うことは反発せずによく聞いてくれた。もっと長い目で見てあげられれば良かったかと思う。
- ・アルコール依存の母親①—もっと早い段階で、治療できなかったかと心残り。母親は長期の入院で親戚との関係なし。子どもは母子生活支援施設で面倒みた。
- ・アルコール依存の母親②—入院させてあげたら良かったかな。ひとりで静かに飲むタイプの母親。

- ・何が失敗なんだろう？ 失敗とかはお母さんが決めることだと思う。
- ・コミュニケーションを取る前に注意ばかりしてしまっていたから（夜遅くなったり、当番をさぼると他の使用者とトラブルになるので）、「なんで、こんなに周りは自分のことを干渉するの!!」と取ってしまいダメだったのかもしれない。
- ・母親は破産宣告になったとたん仕事を辞め、仕事に条件をつけ（長い時間はだめ、朝早仕事はいやなど）短時間の仕事でも長続きしなくなった。
- ・トラウマから逃れきれず、男性を頼ってしまったのではないか。
- ・同情しすぎ、就労指導などができなかった。
- ・入所当時から落ち着いて生活ができなかったから、どうしたら落ち着いて生活できたかなって思う。割と早くから「無断外泊」をしていた。もしかしたら、この施設を利用していたのかも知れない。ここにいれば、生活保護もうけられ、子どもを引き取ったから手当金がもらえ、家賃もかからない、おまけに実家ともうまくいってなかったから……。全部わかってやったのかも。友達に生保を受けている人がいたから、全く生保に関して無知ではなかった。
- ・母子生活支援施設に居る時は頑張っていたが、社会に戻った時、男性の援助（生活）が必要だったのか。母子生活支援センターに入所中も男性とデートすることがあり、どう対応すればよいか難しかった。
- ・経済的に自立していても、気持ちの自立ができていなかったのでは（職員も援助したが）。
- ・入所当時は親の家に行けないと言っていたが、生活保護になったとたん、親の家に入り浸るようになった。親や兄弟が病気で看病しなければならない、本人は足が痛いということで、仕事をしなくなった。
- ・同じ状況の他の入所者は頑張っていたのに、本人は甘えすぎだったと思う。
- ・やらなければならない事から逃げていた（働かず母子生活支援施設にいたが、トイレ掃除などをしない等他の入所者から苦情があった）。
- ・自分はほとんど子どもと関わっており、母とのかかわりが少なかった。子どもの進路に関するアドバイスを失敗した。情緒障害に関する知識が欠如していた。母とは話はできたが、生活に関わる話が出てくると、自分は担当も他の職員へ引き継いでしまい、逃げていたところがあった。
- ・保育園の時は3歳児を相手にしていたので、今のように思いが伝わらない難しさはなかった。今の方が母親の問題も関わってくるので、難しい。
- ・自分の力不足もあったし、入所してまもなくだったのでコミュニケーションが十分でなかったこともある。事務所の体制も整ってなかった（もっと住み込みの職員に協力してもらえば良かった、シフト表を作って職員で対応していけば良かった）。
- ・もっと別の援助が無かったかという思い。
- ・子どもがどうしているか心配。できることとしては、児童家庭相談員を通しての児童虐待のチェックなどが考えられる。
- ・手をあげる必要の感じられないことで、幼い子どもにも手をあげていたり、襟首を掴んでいる場面に出くわしたが、黙ってみている。今思うと、アドバイスをする必要があった。入所している利点は、いい意味で人目がある点である。人の家庭に口を出すというのではなく、アドバイスすることが大切。母親には自分に口を挟ませないような迫力がある。
- ・子どもを母親にアドバイスすることで体罰から守ってあげればよかった（この施設から、児童相談所への児童虐待の通報例はない）。
- ・お母さんとの生活の中でアトピーが良くなっていけば良かったのに、結局施設に戻されてしまってホントに胸が痛いなって思った。この母親は「母より女性でいたかった」のだと思う（この子が少し大きくなってから会うチャンスがあった。結局、母親と一緒に暮らすことはできなかった）。

たが、きれいな顔をして、いい所（児童養護施設）に行けて、大事にしてもらえて良かったと思った。他の子どものことだが「俺はここに居られないのか！ ここにおいてくれ！」という子どもを母親が帰ってこないために養護施設に入れざるを得なかったケースを思い出す。

- 子どもとしっかりつながり合うことが出来なかったとき（うち解けあえなかったとき）に自分でも「あーっ」と思う。「つながり合う」というのは、一対一でいるときに（集団のなかだったら他にも子ども達がいるからワイワイやってるけど）、はたしてその子が自分に対してどのくらい自分をさらけ出してくれるかで感じ取れる。

4) 母子世帯の指導や支援にとって必要なこと

ここでは、母子世帯への指導や支援について聞いていったが、なかでも、就労支援の必要性が言われていることから、「①就労のための職業訓練」、「②就労探しの問題」、「③就労中の子どもの保育」についての意見と、また、母親たちのプライバシーや個人の子育て観との絡みで指導や介入を躊躇する「④しつけ、家庭生活等の問題」についての意見を列挙する。

①就労のための職業訓練

- 本人の向き不向きを考えながら仕事を勧めるが、難しい面もある（長い目で見るとホームヘルパーなど良い仕事だと思うが、アドバイスしても向き不向きもある）。
- 本当に自分のやりたい資格（母親がやりたい、取りたい）であれば、仕事につながる（なんとなく取るでは、つながらない）。
- 母親どうしの影響（施設の他のお母さんが働いている）、情報交換、資格が就労につながる。
- 学校に行っているお母さんがいる（技術専門学校・精密機械科）→資格取れる
- 専業主婦の場合は、母子寡婦の講習会へ自ら行く（すぐ、就職に結びつく訳ではないが）。
- ホームヘルパー2級取って、デイサービスで働いている母親も。

- ひとり親家庭に対する職業訓練の機会が限られている。もっと活用しやすくしてほしい。きめの細かい対応が必要：料金（低額で）、時間（事業主からの時間制限がある場合は事業主の理解が必要）、保育（受講とセットで）、様々な種類を選べる（選ぶのは母親）
- 調理師、ヘルパー、ワープロ、パソコンの講習会は広報誌に出ている。
- 看護師が4人いる。看護の資格は強いのか、仕事探しに苦労なかった。
- ○○商業の夜間（2年）簿記1級に費用も自分で行っている人がいる（通信制の高校に行っている母親もいる）。
- 職員も確実に仕事につながる資格は何なのか、勉強する必要がある。国も考えて欲しい。
- 母親自身が自信を持てる援助が必要→資格を持っていても仕事につながらないと役に立たない。→お金が稼げ、長く（60歳ぐらいまで）続けられ資格が良い（運転免許、大型の免許、看護師など）。
- 資格の取得の講習会を受ける間は、生活費の援助が必要。ハローワークの6ヵ月間の講習はお金が出るが、希望者が多くなかなか受からない。母子世帯には優遇してほしい。
- お母さんたちは、元主婦なので、何の資格も無い事が多い。（最低でも運転免許があれば仕事は探し易い。さらに言えば、パソコンなどの事務の資格も欲しい）。
- 訓練を受ける制度が必要
- 給料をもらいながら、パソコン講習が受講できる制度がある。以前、受講して就職した人がいた。現在は、母親達の意欲がなく、受講しない。生活保護受給や病気がち、子どもが小さいなどといった理由で受講しない。
- 希望があるならば、職業体験実習があってもいいと思う。
- 資格が無い事に劣等感を持つ母親は多い。小さな資格でも取得できれば自信につながるので、そのためにも職業訓練は重要。実際に資格が活用されなくても、自信につながり、自立へのきっ

かけになる。

- 母親のやりたい仕事につながる資格が取得できる環境は必要。母親がやりたい方向が見えていなければ、漠然と資格を取得しても意味が無い。
- 家庭生活の建て直し：職業訓練の前に、生活リズムの確立、食生活の改善（自炊の習慣）などが子どもにとって大切である。しかし、今の母親は子育てを苦痛に感じる人が多いので、母親が子育ての楽しさを感じられるように支援をすることが、子どもへの支援（虐待の防止など）につながっていく。
- 手に資格があれば。パソコン（事務）など、時代にあった何か。また今後のことを考えて看護師さんなど。
- 母子世帯のワープロ講習など有効だと思う。それを活用したい「人」の問題。
- 資格がどうこうにまで、及ばない。お母さんの「やる気」「緊張感」の問題。たとえば、母親が、調理師の免許を持っていて、こちらがそれをいかそうとしても母親自身がそれをいかそうとしない（足が悪いから立ち仕事はやだという）。
- 取らせればいいってもんでもないと思う。一番は本人のやる気！
- 施設の中で一人、総合福祉センターの「パソコン教室」の通っていた（資格を取って違う職場へと思っていた）が、その間に他の仕事を見つけ、その仕事の関係で今はもう行っていない。
- 入ってきた当初は資格を取りたい（介護の職に就きたい）と言う人も結構いるけど、そこまでにいたってない。今、介護を取ろうと思って介護の職場で働いている人もいる。
- 職業訓練は大切だと思う。
- 手に職を持っている方が仕事につきやすい。
- パソコンをやりたいというお母さんがいるが、施設では無理（設備面で）。
- 雇用保険ある人は資格取るのに補助制度があるけど、そうでない人の補助がないから、受けたい人に受けれる制度にして欲しい。
- ここの市の母子職業訓練制度援助は見つからなかった。

- 今の時代、資格を持っていた方がいい。仕事に就くにも有利。
- 資格必要（福祉、ホームヘルパー等）、そのための講座を。
- 事務的な仕事につくにはパソコン等が使えないと難しい。市が行う無料の講習会に出るように勧めている（人数制限がある）。
- 介護、ホームヘルパー等の資格をとることもよいと思う（お金の蓄えがあれば）。

②就労探しの問題

- アドバイスをしてもし行動する人としらない人がいるので、本人しだいだと思う。
- 子どもにとって母親が働く仕事はどんなものが良いのか考える。
- そこそこ就職はあるが、ここのお母さんが働くには、その会社によって、どれだけ、そのお母さんの事情に対して気を配ってくれるか（配慮してくれるか）によって違う。
- 時間が安定していて、子どもとの時間がちゃんととれて、保険とかきちんとしてくれるところがいい。
- 入所時より、生活保護受給が前提の人が多。
- 施設としては、ハローワークの求人票の紹介など、情報提供のみを行っている。
- 情報提供によって母親の選択肢が広がる。現在は、ハローワークからFAXされてくる求人票を掲示するにとどまっている。
- 今は一緒に新聞見たりして探している。ここのお母さんたちは、仕事をやめても結構すぐに新しい仕事が見つかる。職員も本人も必死で探しているせいもあるだろうし、やめると、他のお母さんたち働いている中で、自分が家にいることを子どもに責められる。
- 就職の情報提供をしたら、母親から「ありがたいと思っているけど、これをやれっていわれているみたいだ」と言われた。自分は「そんなわけではなくて、ただ紙（情報）を持ってきただけだよ。気を悪くしないで」と言った。
- 仕事を選り好みする母親もいる（接客業以外の

仕事は嫌だと言う人がいた)。

- 年齢が上がってくると難しい。45歳までの求人が多い。
- 厳しいと思う。母親達の出す条件だと、見つけるのが大変(時間的に)。
- 決める人はすぐ見つけてくる。
- パート、アルバイトなら就ける。正職は難しい(なかなか就けない)。
- 就職先の貼りだしは、あまり効果なし。母親達は他人から、アドバイスを言われるのが嫌。
- お母さんが相談に来たら対応。お母さんがどうしても仕事が無くて困ったら、お母さんの方から言うので、こちらから先だってどうこうはない。新聞で見ているのがあったら、切り取って「どうですか?」って言ったり、「〇〇に△△の掲示あったよ!」とか教えてあげる。
- 就労意欲の問題
- 就労意欲があまりない。意欲を出してもらうために、施設内の掲示板にハローワークの情報を張り出す。しかし、母親達からはハローワークの回し者かと言われた。希望があればハローワークと一緒にいくこともあったが、多くの母親は一緒にいく事を嫌がる。
- やろうとおもえばあると思う。
- 毎日職探しに行くお母さんがいる一方で、一度受けてダメだと、「もういい」とあきらめる人も。不況をいいことにするさもあるのかも。
- 子どもが小さいと掃除やレジュウなどのパートの仕事しかない。
- ここの市は勤務先がない。
- たくさんの求人があった方が、いろいろな種類があったほうが良いと思う。
- あまり資格のいらない求人が必要。
- 本人にやる気がなければ、いくら情報を与えてもダメ(「私、ダメだから」とか言って来る)。それは自分にも言えることだ(大変な仕事だけやる気があるからやってこれた)。こっちがいくら声をかけても、本人の意欲がなければ無理なのかなと思う。これは子ども達にも言えることで、何かやるときも「やる気」が無ければ

始まらない。習字(気持ちを落ち着けるといい作品が出来る)をやらせて、集中力をつけようとするが子ども達は習字セットの準備がめんどろだったりとあまり乗り気ではない。子どもが嫌がるのもわかるが、「みんな、頑張れば〜級になれるよ!」、「今こんなに書けるのなら〜段になれるよ!」とか、おだてて進めると子ども達も乗ってくる。

- パートはあるが、正職はない。(お母さんの話から)特に母子だと、難しいらしい。
- 就職先からの歩み寄りはいらない。「お金、休み、場所」がいいところを探し求めているお母さんもいれば、いつまでも見つけられないお母さんもいる。結局、自分がどこをとって仕事を選ぶか次第。条件(立ち仕事嫌だから、事務がいい等)をつけていると仕事なんて無い。
- こちらで就職先の斡旋はしない。就職活動中の子どもを預かったりする。ここのなかの仕事なら進める。
- 日・祝日も働かないと、パートすらない→日・祝日に保育を実施する必要がある。
- ハローワークに毎日送っていくが、難しい。
- お母さんに一緒に探しに行こうかってことになり、行ったら監視されているっていうふうにとられた。自分の中に「引け目」があるから、「監視される」って取っちゃうんだと思う。自分が一生懸命だったら、人からどうおもわれようと影響しないのでは。
(例として、職員が「お帰り〜、早かったね!」と声かけすると、母親は「就職活動が少ないって言われているみたい。」と言う。→受け取り方の問題)
- ここの市にはパートしかない!
- 資格を取っても、すぐに使えない。
- 経験ある人、若い人優先。
- ここの市の求人は、年齢が上がってくると少ない。45歳までとか! 50歳になるとあんまりない。
- ハローワークへは、まだ自分も行ったことがないので、どんな様子かわからない。

- ・選択の問題
- ・母親の提示する条件によって厳しくなっている（パルコのマネキンをしたいなど）。母子世帯だからといって特別視されて厳しくなっているわけではない。
- ・母子であるということで、雇ってもらえないことがある（子どもがいると嫌がる。はっきり言う事業主もいる。）。
- ・母子生活支援施設にいるということを伏せている人もいるため、その母親へ電話をする時など気を使う。
- ・ホームヘルパーの資格が取れる所があり、そことの関係を固めている。そこでは就職先の確保もしているが、求められる人材を送れない現状がある。
- ・100ヶ所、面接を受けても落ちる母親もいる。身だしなみが問題。
- ・生活保護のワーカーに促されて、就職の面接に行くが形式的。
- ・見つける人は職を見つけるので、職を選ぶか否かによるのではないかと思う。
- ・面接において、特に母子世帯は、弱者や条件が悪い者として見られる。子どもが小さい等、環境で判断される。資格があると助かる。
- ・母子世帯のお母さんの一番の不安は「お金が無いこと」である。
- ・選択の問題：給与の高いところを望むなど、仕事を選ぶ事で就職が厳しくなる人がいた。職員は、「人間関係がよくて、長続きする方がいい」、食費の助けにもなるので「食事関係がいいよ」とアドバイスしたら、就職（調理補助）を決めてきた。
- ・職員は、本人の発想を転換するためのちょっとしたきっかけを作ってあげることが大切。

③就労中の子どもの保育

- ・制度化していないが、日曜日に日勤で出ている母親の子どもを、月1くらいでみている。
- ・就労中の子どもの保育は大事だと思う。母親の仕事で、責任を持って子どもを預かることが、

安心して仕事ができることになると思う。毎日、お母さんの帰りが遅くなると子どもがかわいそうだ（ストレスたまったりする）けど、「いたしかたない」と思う。

- ・日曜日の保育。一方で、子どもと過ごす時間も必要。子ども達が学校休みである日曜日に、子どもに向き合えるように。
- ・母子生活支援施設では夜間・休日・病児保育があるので充実している。地域で暮らす母子にも必要だと思う。必要とされているなら、提供すべきだと思う。
- ・市営住宅の冊子を配布したり、夜間、日祝日保育を実施している保育園の紹介もしている。
- ・子どものケア（土曜日の保育。日曜日は、子どもといてあげて欲しい。子どもに負担がかかっているのでは）
- ・就労していく時にお母さんが負担と思うことをどれだけ援助していくかって事が必要。
- ・就労中のこどもの保育は必要。
- ・日曜の夜に、職員がいなくて子ども一人になることが多いので、そうならない環境を。
- ・日曜日に働いて欲しい職場が多いみたいで、でもここは日曜日休みなので「いいところがあったんだけど、日曜もでなきゃなんないみたいでさ。」とお母さん達から言われる（土日も出ないと仕事がない）。
- ・一生懸命働けば、経済的には安定する！でも一方で、実際、子どもをどうするかという問題が出てくる。実際、ここにいる10ヶ月の子どもは、母親が経済的安定を手に入れるために正職に着いたために、めんどうを十分にみてもらえず、入退院を繰り返している状態である。
- ・乳幼児で熱を出したりすると、1週間ぐらい休まなければならず、首になるケースもある。面接で小さい子どもがいると断られるケースもある。
- ・病児保育の充実：子どもが病気の時、子どもを預かってくれる人が必要。母親が休むと仕事に影響がでる。安心して預けられる人がいると母親は頑張れる（ここの母子生活支援施設でも以

前は預かったが今の勤務体制では難しい)。

- ・夜間・休日保育：併設した保育所で実施。できる限り、受け入れて継続していきたい。施設職員も代替ではなく、日常的に休日保育を担当。そのため、平日業務への影響がみられる（マンパワーの不足）。
- ・保育の充実：日、祝日はあるが、夜間保育が無いので広がると良い。
- ・日、祝日に仕事に出られないだけで、困る母親もいる。
- ・うちでは、夜 7:00 過ぎの時は、お母さんどうしで子どもをみている。
- ・保育については、子どもと一緒に居られない母親がいる。何かあればすぐに事務所に連れてくる母親。生保はそのためにあると思う。子どもと向き合える時間が作れる。

④しつけ、家庭生活等の問題

- ・子どもを中心に考えるのであれば、言うべきことを言うべき。でもお母さんを中心に考えたときはお母さんを悪化させる事態になるかも知れない。どこまで言って良いのかが難しく、そこがジレンマ（自分自身が母親に直接話に行く事ではなく、母子指導員に伝える）。
 - ・生活面（掃除等）の指導はする。基本的なこと（普通は指導しなくても知っているようなこと）が欠けている。民間のアパートへ行くともっと大変になると思う。→こちらの言うことに耳をかさない母親もいるし、また、母親の方から相談してくることは少ない。
 - ・緊急時以外は部屋に入らない。入ったときはちゃんと報告する。入ると「なんだこれ？」と思うことがあっても、施設長から母親にもっときれいにするようにと強制するようなことはない。
 - ・学習指導が必要
 - ・本人からの申し出で塾からのボランティアをうけられる。
 - ・部屋の片付け、本人了解のもと職員も一緒にやる。
 - ・しつけ・子育ての問題では、個人の問題として
- だけでなく、ここは施設であるし、職員もいるので、母親に、言うべきことは言っていくべき。
 - ・母親は、忙しくて疲れていて、そう（きちんと）できないと思う。＝母親の立場を理解するということは、ここで培われた。
 - ・生活する力をつけていってほしい（まず、自分でやってごらん。できなければ教えてあげるの方法で）。
 - ・子どもに支障がきたす部分では、改善してもらう。←児童虐待の領域。程度問題。
 - ・入室に関しては、部屋を貸している状態なので、入らざるを得ない。
 - ・子どもを保育でみてやる形ではなく、母親自身の問題（育児等）に援助した例としては、母親（軽い知的障害っぽい。理解に時間がかかる。）が子どもと一緒に喧嘩をしてしまう（ゲームに負けた等で）。喧嘩をしたら母親自身が事務所に助けを求めに来るので、子どもと母親を離して、両方の話を聞いてやることで対応。他のお母さんが部屋の様子を見てくれたりもする。母と子どもの立場は対等だと思っているから「お母さんはそんなことしちゃいけないんだよ」ってことをトラブルがあるたびに教えている。この母親は、のみこみが悪いため外で働けず、母子生活支援施設内の掃除で生活している。
 - ・学習面としては、帰宅後に職員が学習指導もするけど、最終的にお母さんと子どもとで確認する時間を持ってもらう。
 - ・一日一回居室点検（午前 11 時から）。母親が嫌がる気持ちもわかるが、ガスストーブ付けっぱなし、ガスの元栓あきっぱなし、電気付けっぱなしとか、実際にある。
 - ・部屋は汚い。これ以上踏み込めない。
 - ・生活リズムが昼夜逆転しているケース。→子どもの不登校
 - ・パチンコ生活：勝負の生活。儲かったときはいい。そうでないときはどん底。
 - ・子どもいるので衛生管理。部屋が汚い（今までで 2 件くらい）。若いお母さんで、誰が来ても寝ている人がいた。

- ・小学生や中学生の家庭教師として学生ボランティアを頼んでいるが、助かっている。お兄さんやお姉さんと接する機会が少ないので、学童活動（スキーなど）を一緒にしてくれるボランティアが貴重。
- ・やっぱり、部屋が汚いのは忙しかったり体調が悪いからだだったりするので、まずは事情を把握して、お母さんの状態によって子どもにご飯を食べさせたり、子どもが輪の中に入れて行けるように工夫をしたりする。
- ・しつけの援助等は、これと言って援助する必要はない。しすぎも母親が退所したくない条件になる。
- ・しつけなどの必要性：母親が良いと言えば、料理教室など苦手な人をまとめて教えたいと思う。以前、若い母親と一緒に掃除をしようとしたが、母親に断られたことがある。子どもが病気になるなどしたら、介入するが、そうでなければ、目をつぶる。
- ・男性とのかかわりが少ないので、男子学生のボランティアを受け入れれている。また、中学生の家庭教師として学生ボランティアを頼んでいる。
- ・入室については、幼児のお昼寝や、小学生が風邪をひいた時に部屋に入る。
- ・あまりにも汚くてどこで寝ているんだろうっていう部屋を見ると、掃除したいなって思う。でも施設長から「きれいにしなよ！」っていう声をかけられると使用者は気に障るので、職員が掃除することはない。
- ・施設だからって部屋が汚いとか、あれこれしなさいと職員が言うのは、「どうなんだろう？」と最近思うようになった。「子どものことを思えば……」ってずっと思っていたけど、すごく汚い家で育った子どもが、上の子も下に子も優秀な成績を修めていたというケースを経験してから、考えが変わった。「家の中が汚くても子どもは育つ！」。あるお母さんは、外見は、なよなよとしたチャーミングなお母さんで、部屋があそこまですごいとは思わなかった。このあいだ、ハエがとんだので、掃除するようにと

言うと、蠅取り紙を2枚ほど買って部屋につるしたという。掃除をすることでハエが飛ばない生活空間にしてほしいとの職員側の意向は、このお母さんの発想のユニークさによって、うち砕かれた。とにかく、ウジさえ湧かなければよしと考えるようになった。

- ・簡単な1品料理を作るクッキングスクールを開いて、家庭に普及させたい。
- ・(職業訓練も含め)母親の自信につながる事をしていきたい。
- ・接触する頻度を多くする事で、母親との信頼関係ができる、部屋の片づけを援助して成功したケースもあった。部屋がきれいになったことで、友達を呼べるなど生活に変化がみられ、部屋の掃除をきちんと行うようになった。
- ・しつけ・子育てでは、「汚い」などの度合いが判断が難しい。それぞれの価値観の違い。子どもが居るべきでない状態であれば……
- ・母親と子どもで遊べない親子がいる。
- ・若い母親であれば、母親どうしの助け合いもできる。
- ・入室は、むだには入室していない。火災訓練や業者が月に一度くらいはいる。その時に部屋の状態がひどい時は母親へ言う。言うのとやってくれる。

(4) 母子世帯への援助に関する意識

1) 生活保護受給者への意識

①生活保護受給の母子世帯と受給していない母子世帯

(施設内の生活保護受給の母子世帯と受給していない母子世帯との差があるかどうか。あるとすればどんなことか。)

【差があるという意見】

- ・かなり差がある。生活保護受給……ギャンブルをしたり、外食、外出が多い。受給していない……生活を切り詰めている(食事は手作りなど)。
- ・ある。受給者は、タクシー利用、公共料金の滞納(何回も止められるケースが1~2件)。お

金の使い方が悪い。お金管理について、施設では今はしていない。母親が最初はOKだったのに、後で不満が出てきたことあり。

- 生活に対する危機感が違う。例) 体調悪い→生保もらっているお母さんは、すぐ仕事を休む。生保を受けていないお母さんは、多少体調が悪くても仕事に行く。子どもが具合悪くても同じ(病状にもよるが)。
- 仕事の仕方に差がある。生活保護受給している人: ちょっとしたことで休む。受給していない: 生活がかかっているので休めない。
- 金銭的に違う(全てではないが相対的に)。生保受給者は金銭感覚が無い。貯めるという感じが無い。贅沢。買い物もお金が入るとすごい。お金が無いと寝ている。手作りしない。買い食いが多い。
- 差があると思う。働き方が、生保を受けていない母親のほうがよく働く(子ども預けてでも)。子どもに対しても、簡単に学校を休ませるのではなく、ちょっとくらいの熱なら学校に行かせる。生保を受けている母親は子どもがちょっと頭痛いといえば学校を休ませ、自分も休む。しかも、当の子どもに聞くと「頭が痛い」などと言っていないことが発覚する場合もある。
- 学習室の使い方がちがう。学習室は、学校から帰ったら、まず学習室に来ることになっている。ただし、母親が部屋にいる場合は来なくてもいい。すると、フルタイムで働いている母親の子どもは、いつも嫌でも学童に出なきゃならないという事態が発生する。生保を受けている家族は、遅くまで仕事をする必要もないから母親が早く帰ってくる、子どもも学童に行かなくていい、これだと生保を受けている家族のいいとこどりだ。母親の帰りが仕事で遅いのために、やりたくないことをやらされるのであれば、子どもの生き方に影響がでる可能性がある。また、この決まりがあるため、子どもが連絡なしに学童に寄らずに遊びに出れば、職員から「どこに行っていたの?」ということをたずねられることになる(職員も聞かざるを得ない)。

- 差はあると思う。生活保護受給は精神的なゆとりがある。受給していない母親は精神的にゆとりがない。→子どもの対応に影響があり。
- 差はあると思う。
仕事に関して: 生活保護受給者は、すぐに休む。働く時間が短い。職員に言われて仕事を探す。生活保護者同士で情報を交換しているらしい。受給していないは、体調が悪くても、薬を飲んで仕事に行く。
子どもに対して: 生活保護受給者は、時間はあっても子どもに向き合わない。受給していない人は、短い時間でも愛情を注ごうとする(絵本を読むなど)。
物に対して: 生活保護受給者は物を大切にしない(新しい家具を買っても、大切にしない)。物をすぐを買ってくる。子どもの服もブランド品を買う。受給していない人は、洋服や物を大切に使う。
休みの日について: 生活保護受給者はダラーとしている。家事の手抜きをする。受給していない人は集中して家事に取り組む。
- 生きる真剣さが違う。生活保護受給者は、すぐに人に頼り、人のせいにしようとする。受給していないは、自分で自分の生活をやっていこうとする。回りの人に極端に甘えない。ルールを守る。社会の厳しさを知っているのだから、自分に対しても厳しい。仕事を休むと収入が減るので、必要な時は一生懸命に頼みにくる。
- お金に関してちがう。生活保護受給者は、お金に関してルーズ。お酒を飲んだり、色々なことに使う。外食が多い。受給していない人は、お金を大切に使う。手作りのおかずを作ったり工夫する。
- 受給者と非受給者との差はある。
健康: 生保受給者は、すぐに病院に行き、薬をたくさんもらう。非受給者は、医療費がかかるので健康に留意する。
預金: 生保受給者は、どこで生活保護を切るのかなど、今後の生活設計が漠然としている。あるだけ使ってしまう。自らも生活保護家庭で育っ

た人もいる。

- 生活保護の受給を停止する人と継続する人の差は？受給を停止する人は、①生活保護を受給していた自分の親を反面教師として、必死になる。②どのように生きていくかを常に意識している人は、自分を変えていける。③自分の方向性を見つけていける人。このように変わっていった人が1名いた。DVでひどい生活を送っていた母親だったが、ゴミ収集会社に入社してから、以前は病気に逃げがちだった態度が変わった。資格を取得し、子どもと生活していかないと決まると言って頑張った。町内ともコンタクトをとるようになり、給食の仕事で生計を立てて、退所する。自立に関して、母子生活支援施設の母向けに講演を行い、好評だった。
- 受給者と非受給者との差はある。受給者は、保護費が育児に使われていない。やりくりができていない。非受給者は、必死に頑張っている。
- 生保受給世帯の方がお金の遣い方が荒い。
- 受給者と非受給者との差は生活レベル。生保受給世帯の方が、就労によって生計を立てている世帯よりも生活レベルが高いと思われる。
- 生活保護が全給だとハングリーではない！甘え・依存をしちゃっている。してもらって当たり前になっている。一部受給だと働いているのでいいと思う。それまでは一生懸命働いていたけど生保をもらってから、経済的に安心しちゃって、とたんに仕事探しをやめてしまったケースもある。
- 生保なしのお母さんは、日々奮闘しているなぁと目に映る。生保受けているお母さんは、のんびり（良い意味でも、悪い意味でも）しているなぁという場面もなきにしもあらずって感じ。子どもとのんびりしている時間が多い（各家庭のその時も状態によって生保受けていたほうが良い場合もあるし、そればっかりに頼っちゃいけないというときもある）。
- 働こうという意欲、仕事を頑張らないとという気持ちが違う。もらってない人は必死。ちょっと風邪をひいても頑張っていく。もらっている

人はよく休む。

- ある。生活保護の金額が他の働いている母親に比べ高く、さらに様々な特権（町内会からのお祝い金、水道料免除、医療費無料など）がある。

【差がないという意見】

- 受給していない母子も大変だが、生保の母親も大変。差があると思わない。
- 生保を受給していないお母さんからは「絶対、仕事は休まない！」という頑張りが伝わってくる。かといって、もらっているお母さんが頑張っていないとは言えない。
- ない。
- 買い物とかをしているところを見ていると、他のお母さん達と差があるようには見えない。お金の面で差があるのはわかっているが、生保を受けているからといって贅沢しているようにはみえない。
- あまり感じない。生活保護を受けていても自分なりにパートなどで頑張っている人もいる。子どもが小さなうちは一日中働けないのでしかたがない。
- 見た目で差があるとは感じていない。どの家庭が受けているかはわかるけど、それを何に使っているかはわからない。生活保護を受け、さらに、ここの施設のお金の貸し付け（2万円まで。返さないと次は借りられない）を頻繁に借りに来る人は、必要最低限の物（子どものおしぼり等）がそろってない人。

【その他の意見】

- 生活保護受給者の中でも、全額保護を受けている人と、パートをしながら一部保護を受けている人では違う。
- 受給家庭は、多少働かなくてもお金が入る。生保の方がいいのかなと思うが、自由に使えるお金がない。
- 生活保護自体もお金を与えるだけではなく、何か別の方法（食事券、貸付制度など）がもっと使われるといい。

- ・生活保護制度自体は、お母さんをだらけさすとかそんなふうには思わない。

②貧困の原因

(貧困は個人的な原因(怠け、病気、アル中など)で起こると思うか、それとも社会的なこと(失業など)で起こると思うか、あるいは両方で起こると思うか。また、生まれ育った家族の影響は大きいかな)

【個人的な原因という意見】

- ・個人的な原因が多い。本人と相手(夫)の要因がほとんど。
- ・怠け……やろうと思えば、世の中いろいろある。やる気など、そうゆうもののせい。
- ・病気……本人には何もできないと思う←励ましてくれる人の必要性。
- ・個人的な原因の方が強いかな。
- ・生まれ育った家族の影響は、母親の母親も母子生活支援施設に入っていたとか聞くので、関係があるのかな。一方で母親の母親が来てても普通の場合もあるから、個人差があると思う。
- ・不況だから仕事に就けないというお母さんはいないと思う。(高望みしなければ……)。
- ・怠け、病気、アル中などは、原因までいなくても、これがあってリストラにつながるという、きっかけだと思う。何らかの関わりがあることは認める。また、生まれ育った家族の影響は多少なりともあると思う。親から愛情を全くうけてない人と普通に育った人とでは接し方が違って来る。一番は「人間関係から、貧困に」至ると思う。人間関係で仕事を辞めてしまう方は結構多い。ここでの生活は普通のアパート暮らしとは違う(トイレや風呂が共同)。この人間関係のなかで敏感になってしまう人は多い。職場でも敏感になってしまい、相談が多い。
- ・生まれ育った家族の影響は、関係しないと思う。頑張れば大きくなれる。でも頑張ったって頑張りきれない人がいることもわかる。
- ・個人的な原因が大きいかなと思う。何かと理由

をつけて働かない母親もいる(怠けとは言わないが)。貧困が社会的なこと(失業など)で起こると思わない。見つけてくる人はちゃんと見つけてくる。生まれ育った家族の影響もないと思う。本人の頑張り、やる気だと思う。

- ・個人的な原因は、働かないとかだらしがないとか。
- ・性格的なものもあると思うけど、一生懸命働いている人は、なんかあった時にみてもらわなきゃなんない、ここで生活していかなきゃなんないから、より職員といい関係で生活したいと思っている。だから、行事に出たり(しょうがなくとも、ちゃんとでる)、子ども達へに関わり合い方も違う。
- ・地道に働いていけば、そこそこの収入はある。
- ・家族の影響よりも、個人的な原因でおこると思う。病気は別。働きたくても働けないアクセシビリティはある。
- ・仕事も、一生懸命働く母親は、ちゃんと見つけてくる。合わないと言う母親は見つからない。
- ・自立していこうとする人は、生保使わずにやろうとする。自立しようとしらない人は、使えるものはなんでも使うタイプ。
- ・身にあった生活をしようとしらないから貧困につながるんだと思う。夫婦でいたときは、7000円の米を食べていたのかもしれないが、ここへ来たら2000円の米にして、浮いたお金でおかずを買うというくらいの気持ちで暮らしてもらわないと……。どーも、ここのお母さん達はプライドがあってそうはいかない。お母さん達から言えば、「先生は厳しい！」ということになっているが、それは違うと思う。身にあった生活というものを自分で知っていかなければならないと思う。
- ・生活保護になる要因のひとつは怠け、公共料金など全く払えない。電気止められた。それが何故かはわからないが……。

【社会的な原因という意見】

- ・社会的な事だと思う。個人的なことだとは一概には言えない。生まれ育った家族の影響は「な

い！」と言ったら嘘になると思う（自分だって頑張れたんだから、君たちももっと頑張れって思う時はある）。

- その人が過ごしてきた、周囲の環境の違い（友人・親戚）。
- 社会的なことが大きいかなと思う。
- 以前は社会問題としてとらえていた。また、社会現象も変化し、多種多様化している。だから、貧困層として一定の層がいる。
- 失業でなる場合もある。不況で、企業はパートをいように使う。入所者で正職員は一人だけ。あとはパートで時給 630~700 円くらい。長時間使ってくれない。
- 今の社会で働くのは難しい（失業している人もいる中、子どもを抱えての就職は……）。

【個人的・社会的な原因という意見】

- 貧困は、どっちで起こる場合もあると思う。生まれ育った家族の影響は多少はあると思うけど、そういう家庭に生まれたとしても自分次第だと思う。どんな状況にしろ、
- 両方あると思う。生まれ育った家族の影響はある。「お母さん、休んだらダメだ！ お金ないんでしょ、うち。」と言っている子もいれば、「市役所からお金もらうからいいんだあ」と言っている子もいる。子どもに、働かなくてもいいんだと思われたら困る。子どもは母の背中を見て育つんだから一生懸命な姿を見せなきゃ。（ちゃんとしているお母さん達に嫌な思いをさせないようにやることはやって欲しい。また、今まで働かなかった人が友達の影響をうけて働くようになったケースもある。仲良くなったお母さんが働きにいく姿を見て、自分も働きにできた。ピアカウンセリング的なものが良いのかも。職員から言われると威圧になっちゃってかえってダメになっちゃうこともある。ここは、この居室が個別で建っているから長屋意識も芽生える。）
- 両方で起こると思う。だけど、不況とか言っているけど自分には実感が無い。
- 両方。
- 両方で起こる。個人的な原因が大方だとは思いますが、今は不景気なので社会的要因もあると思う。
- うちの寮では、両方もあり。
- 半々。自分の努力も。
- 育ち、社会的影響、家族・親族の影響。両方で起こる。
- 貧困に至る原因は色々あって一言でいうことはできない。経済感覚の悪さ、病気などケースバイケースだと思う。

【家族の影響について】

- 親の影響は、そうゆう親でこうゆう親になったというのはある。
- 生育暦は大きい。生保の人は、その親も生保。（生保の子ども（中3）が「うち、生保なので、医療ただでいける。」と言っていた。親自体、生保の大変さを子どもに伝えていない）
- 家族の影響は多少あると思う。育ってきた環境については、親をみて育つので。
- 生育環境については、本人は気づいてないかもしれないが影響はあると思う。親としてのモデルが自分の親しかないので、そのモデル以外は知らないで生育することになる。親戚との付き合いがあれば、（自分の親とは異なる親としてのモデルの）選択肢は増えるが、親戚関係が希薄であれば、親以外のモデルを知らないで親になり、自分の親と同じ道を進む事になると思う。
- 家族の影響も大きい。ここに入所している人で、両親（親族）の援助がある人はいない。退所していく人は親族の援助ではなく、生活保護を受け民間のアパートに出て行く人が多い。
- 生育環境。教えられないと、周囲にそういう流れ（就職に役立つ資格を取得するなど）に乗せてくれる人がいないと、パートでしか働けなくなってしまうと思う。
- 家族の影響も大きい。代々（祖母、母、本人）生活保護の家庭だと、生活保護を受けるのを何とも思わない。けれど、親がだめでも、どこかでキーパーソンに出会うことによって、生活能

力や習慣を身につけることができる。←けれどこれも、ある程度の年齢で身に付けないと、年齢がいったからでは、親としてのプライド等があり、難しい。養護施設出身者で、身の回りのこと（ご飯作りなど）が全くできない人がいた。清潔等についても、大きくなってからでは身につかない。若い時に言うのが大切。

- 生育環境。親の姿勢を見て育つので影響は大きい。
- 生まれ育った家族の影響は大きい！親が借金を抱えていたり、浪費癖があると、小さい頃からそれを見ている子どももそういうふうになってしまうのかなと思う。一方で、親がそうだから自分はそうならない、という生き方もあると思う。結局は自分自身だと思う。
- お母さんの育ててきた家庭の影響もあると思う。「今、ダメでも、そのうちどうにかなる。」って言って暮らしてきた人って言うのは、のんき!! サラリーマンの家で、今月はこのお金で暮らしていこうという給料のやりくりのなかで育ててきた人はきちっとしている。

【その他の意見】

- みんな貧困じゃなく思える。
- はじめから、なまけるために生保を受ける人はいない。いったん受けてしまうと甘えてしまうのかも。これに対して、「生保のワーカー何をしているんだ！」というふうには思ったことがないけれど……。
- 一生懸命働いていても貧乏になる人もいるし、怠惰な生活をしていてもお金がある人もいる。入所中の母親は、子どもが幼いと働く事が難しい。また、資格の無い人も多く、パートで一生懸命働いても、お金が少ない。
- 貧困は個人的要因、社会的な要因とは考えにくい。
- 生活保護の受給世帯で失業をした人を見ると、性格的な問題で社会に不適合。また、生育家庭＝世代間連鎖の影響も。母親も人間関係が難しく失業。母とその祖母の関係もうまくいっていな

い。祖母も働いていない。

③生活保護受給者の生活水準

（生活保護受給世帯の生活水準を、施設内の受給していない他の世帯と比較して、どのくらいと思うか。また、世間一般との比較ではどうか。）

【施設内での比較】

施設内での比較においては、その比較を、日常の暮らしぶりで判断している回答と、収入金額として比較している回答と、その両方によって回答しているものがあった。意見としては、生保受給の世帯と働いている世帯とが「同じ」あるいは、「差がない」という回答と、「生活保護受給世帯の方が高い」という回答に、大きく二分した。反対に、「生活保護受給の世帯の方が低い」という回答は、最後に載せてある1名だけであった。

- 施設内での比較は変わらず、同じくらい。（全く同じ内容の回答が、他に4名あり）
- 施設では差は無い。生活保護を受けている、いないではなく、個人の差が大きい（生活保護で、生活を切り詰めている人もいれば、生活が派手な人もいる）。
- 施設内では、暮らしぶりはほぼ変わらない。
- 施設内では、生活保護世帯と受給していない世帯で生活水準に差はなく、生活水準は中くらい。表面上の生活水準は同じだが、生活保護世帯は将来を見通したお金の使い方をしていない（ブランドの子ども服の購入、光熱費に未払い、など）。
- 施設内での生活水準に差は特にない。生保受給者の1世帯のみが贅沢をしている。子どもの着る物は、生保受給世帯の方が恵まれている。差が無いのは、生活保護の人は食事を作らないので、食費にお金を使っているのでは？
- 施設内では、生保の母親が特にブランドを買っているわけでもなく、新しい服を買った様子も見られないから、差は感じないが、もらっているお金は他より高いと思う。
- 施設内では、同じくらいかちょっと高い。生保

- をもらっている人は子ども2人以上だから、金額も多くもらっている。
- 施設内の比較では、生保の方が、働いているより高い。見た目は変わらず。
 - 生活水準については、施設内では、生活保護受給世帯の方が上。(全く同じ内容の回答が他に3名あり)
 - 施設内では、生保の方が、働いている人より高い。収入は数値を見ても、高いと思う。
 - 施設内では、たぶん高い方だと思う。フルタイムで働いていてボーナスもあるお母さんも3人いるけど、その人達より多い収入(生保)の人もある。
 - 施設内では、生活保護受給者の方が生活水準は高い(もらえる金額が生活保護受給者の方が多い)。
 - 施設内比較では、高い方。持っている物、買い物物の仕方が違う。生保が入ると一気に買ってくる。何も考えずに。
 - 施設内では、生保受給の世帯の方が、働いている世帯より上。生活保護を受けている家庭は、以前よりは派手でない。けれどこれが、計画的に使っているかどうかは、わからない(隠してしまう)。お母さんの方針が見えにくい。
 - 生活保護受給者の方が低い。生活保護の基準は最低生活の基準(豊かではない)をお金で換算していると思っているから。色々なことががんじがらめ(制約)の制度で、生活保護の母親も本来は利用したくないと思っていると思う。生活保護の人だって一生懸命やっている。生活保護は受けなければ、受ければ良いと思う。

【世間一般との比較】

世間一般との比較では、その施設が置かれている地域の経済状況によっても、判断に差が出てくると思われるが、大部分が「中くらい・差がない」と回答していた。しかし、その「同等」とイメージするときの職種では、「保育士」がある一方で「銀行員」もあげられており、「中くらい」のイメージに差があると思われる。

- 世間一般との比較では、中くらい。
- 世間一般では、中くらい。職種では保育士程度。
- 世間一般とでは、中くらい(そのために受給しているはず)。
- 世間一般では、中くらいだと思うけれど、生保で月に入ってくる金額をみると「高い!」って思う。
- 世間一般では中くらい。工場で働く人と同じくらい(ここの市の所得水準は低い。なかなか正社員になれない。生保の人は家賃が出るけれど、生保をもらってない人は、ここの市は家賃が高い(家主が個人の持ち家の人が多い)から大変だと思う)。
- 世間一般との比較では、低い方ではない。
- 世間一般では、中くらい。銀行員くらい。
- 世間では、中くらい。OLさんよりいいかも。
- 世間一般との差も特に無い。母親の意識も変わっており、以前に比べて「自分は生活保護を受けているから」と言う人は減少した。

また、生活保護受給者の方が「中の下」、あるいは、世間一般の世帯よりは低いであろうという意見は、以下の通りである。

- 世間一般では、中の下くらい。工員ぐらい。
- 世間一般でも低くはないと思う。中の下くらい。仕事では、工場で働いているサラリーマンぐらいかな(現在、この市の給料はそんなに高くないので)。
- 世間については、「むずかしい質問ですが、いろんな事情を含んだ上ではなく、イメージとしては中の下」。
- 世間については、ここの市の公務員の方が、施設内の生保もらっている人より上。中小企業の人、施設内の生保もらっている人よりは上。自分自身が、かつて生保で暮らしていたので一般家庭の水準がわからない。
- 世間一般との差は、生保受給世帯は、中の下。会社員よりちょっと下ぐらい。
- 世間一般との比較では、生活保護受給者は中の下。(全く同様の回答が他に1名あり)

- ・世間一般との比較では、中の下。この市は中小企業が多く、給料も良くない。
- ・世間一般では、イメージ的にはお父さんがいた方がお金がありそう。

反対に、世間一般の中でも「生活保護受給者の方が上」であるという意見は、以下の2名である。

- ・世間一般との差でも、生活保護受給世帯の方が上。生活保護受給世帯の母親は、自分の為にお金を使っている。
- ・世間一般との差は、生保受給世帯の方がお金の使い方が派手（ブランド品、携帯電話、外食など）。表面的には生活レベルが世間一般の世帯よりも高く見える。実際は貯金も無く、また自立も含めた将来設計もない。生活保護を受給していない世帯では、家計の管理はきちんとできていて、計画的に貯金をしている人が多い。

【その他の意見】

- ・経済感覚の悪い母親は、親や親戚との関係が希薄であることが多い。親の影響が大きく、お金の使い方を学習できていない。職員はプライバシーの問題などもあってお金の使い方の指導はできない。生保受給世帯の母親は、お金があった方がいいので生保を打ち切ろうとは思わない。
- ・施設内では、難しくてわからない。

④職員自身の生活水準

職員が自分自身の生活水準は、どの程度と思うかと言う問いに対しては、「中くらい」あるいは「ふつう」と回答が16名と多かったが、生活保護受給家庭に近いかそれ以下というニュアンスもあった。

- ・実家にいるので中くらい。独り暮らしをすることを考えると低い方かもしれない。給料だけを考えると、生活保護世帯の人とはお金の使い方が異なる（生活保護世帯の人は、買い物にタクシーを利用、自転車を通勤用と買い物用の2台購入するなど遣い方が派手）。

- ・中くらい（ふつう、本当は低いかも）。
- ・中くらい。生保=自分。
- ・中くらい。自分と施設の母子を比べると、独身という事もあり、自分の方が高いと思うが、生活保護の人と比べると、どうだろうと思う。
- ・？（中くらい。それなりの水準）

さらに、「中の下」あるいは「生活保護受給家族よりも自分が低い」と回答した人は、5名であった。

- ・自分では低くなって思う。
- ・自分の家庭……低い方。
- ・生活保護受給世帯よりも低いと思う。入寮中の生活保護受給世帯の母親からブランド品の子ども服のおさがりをもらった事もある。
- ・生活保護の人の方が上だと思う。

他には、「わからない」という回答や、「中くらい」と回答したうえで、生保受給者よりは自分が上と回答したものが、それぞれ一名ずつあった。

2) 職員から見た母子世帯の「自立」

- ・母親の自立：こちらが提供するばかりではなく、母親もこちらの援助に依えてくれるといったギブアンドテイクの関係だと思う。ここに入所している母親達は、職員に頼ることが多く、退所したら通用しない（頼るだけでは生きていけない）。「してもらって当たり前」という態度がなくなるようになってほしい。

母子生活支援施設にいると自立はできないか？：知的な障害がある場合は、退所することは自立ではない。また、経済的な状況も障害になる。これらの障害がなければ、子どもの成長に合わせて、退所する時が自立。

生活保護を受けての自立はあるか？：この寮にいての自立は無い。

- ・自立とは：経済的にもゆったりできて、生き方として「家族で頑張っていこう！」という前向きな姿勢であれば。生保受けての自立はある？：ある！精神的なこ

とや、病気もあるから、生保を受けていてもいいと思う。昔は嫌だなぁって思っていたけど、世の中仕方ないこともある。

ここの施設にいての自立ってありえる？：ある。一部生保をもらっている（甲状腺の病気をもっている）けどちゃんと食事も作っていて、仕事もしている。子どもが高校生になったら、出ていく予定。）

- ・生保受けての自立はありえるか？：ここの市の方針も、生保すべてではダメ。引っ越し代くらいは自分で用意して、市営住宅へ。

ここにいての自立はありえるか？：ありうる。経済的、精神的にも自分でやっていける。

- ・自立とは：母と子がコミュニケーションが取れて、生活できれば自立。

母子生活支援施設と自立：若い母親は小さい子どもの育て方わからない。これを手助けしていくのが、私達。子育てのわからないお母さんが、どこかへ引越してしまうのは、かえって心配。

- ・何を自立と見なすかは、「ん～？」（むずかしい）
- ・自立とは？：家族で普通に生活できれば。「普通」の意味は、児童扶養手当をもらっている時点では自立しているが、生保をもらっている時点では自立してない。また、施設に居るという事自体も自立してない。
- ・自立とは？：経済的にはもちろんだけど、ここにいと職員に頼りすぎてしまうので、「外に出ても子どもとやっていくぞ！」という意気込みがあること。

ここの中にいるかぎり自立はできない？：それにむけて頑張っているお母さんもいるので「できない！」とい言いきることはできない。ここでは、ほとんどのお母さんが働いて帰ってきて家族団らんしている。自立できるんじゃないかと思うけど、外に出たら、まだ無理なのかなあ……。

- ・自立とは：社会の中で子どもを育てながら生きていこうと決心がついた時。自分で稼いで、子どもと生きていこうと決心がついた時。

母子生活支援施設と自立：ここに入所していても、自立はある。経済的、精神的に自立してい

ても、子どもの状態に応じ援助が必要な時もある（保育園の病児保育がまだ充実していないので）。

生活保護と自立：生活保護を受けている間は、自立とは思えない。病気などで生活保護を受けている人で、やれることは自分でやり、自立している人はいるかもしれないが、まだそう思える人に出会っていない。

- ・自立とは？：母子生活支援施設にいても、自分のしたいこと（将来の夢など）を見つけて、前進していれば、自立していると思うが。できれば就職して、または、小さい子どものいる母なら、育児に目を向けて欲しい。

- ・母子世帯の自立のイメージは：母子で生活していけるくらい安定した経済がないと出ていけない。身近に手伝ってくれる人がいなければ保育園の時間もあるし難しい。

ここにいて自立はありえる？：難しいですかね。お母さん自身が、芯のある人なら、できると思うけど、ずっと生活をしていくなかで、甘えてしまうことも出てくる。

生保をもらっての自立はありえるか？：イメージとしては、自立していない。

- ・自立：お母さん自身に余裕が出てきて、子どもと、ここでない場所で新しくスタートを切っていくことができるのが自立だと思う。「ここに来たことが自立の一步」だということもよくわかる。なるべく自分でやろうとしていることがよく伝わる。母親が「頑張ろう」と思ったときに自立のはじまりだと思う。

ここに長くいることは？：お母さんが病気であればここにいたほうがいいけど、そうでないなら、ずっとここにいるのは子どもにとってよくないと思う。聞かなくて良いことまで聞いてしまうから。また、子どもが中学生のうちをここを出ていくと自分が働いているときにアパートでたむろっちゃうから、もう少し（高校生くらいかな）ここに居させてもらおうと言う方もいる。

- ・自立：退所した後にしっかり生活できるようになれば「自立には成功」と言う形で考える。生

活の基盤も親子の関係も自分で作っていきける。
 ここにいて自立はありえる？：意識の持ち方次第。人によってうまくいく場合もある。
 生保をもらっての自立はありえるか？：一概には言えない。生保受けている状況でも、自分で何とかしようという気持ちがあれば、まだまだ「自立していこう」という意欲の芽生えはあると思う。

(意欲のないお母さんを見たことはある？→まだ極端なものはない。「してもらうことが当たり前」で生活されちゃうと難しい。

そうしたお母さんを自分が援助するなら？→ん〜っ??)

- ここにいての自立はありえるか？：はい。
 生保での自立は？：あり得ると思う。
- 母子の自立とは？：自分でもよくわからない。
 母子生活支援施設と自立：いる時点では、自立していない。出たからといってイコール自立ではないが、地域のお母さんは、独力でやっていること、お母さん自身でできることも頼んでいたりと、やりすぎだと思う面もある。ここにいと、全部してもらえる。
- 自立：ここを出ていこうという気持ち、とりあえず自分の力で生活していこうという気もちがあると、自立につながると思う。生保を受けた状態で、仕事をしていても、自立と考える。ここにいての自立は無い。
- 自立とは：母子生活支援施設を出て、自分たちで地域の中で生活していけるようになったら自立。
 母子生活支援施設に居ながらの自立：子どもを保育所に預け、仕事につき、蓄えができる人は自立といえるのではないか。一日のサイクルがきちんとしている人は自立に向かっていると思える。
 生活保護と自立：生活保護を受けていても、パートをやりながらきちんと生活している人は自立と言えると思う（子どもが小さなうちは生活保護を受けるのもしかたがない）。
 生活保護を受けながら、遊び歩いている人は自

立できているとは言えない。

- 自立について：生活保護を受けている、いないにかかわらず、親子関係がきちんとしていて、生活がしっかりとできていれば自立。母子関係が生活の基本になる（親がちゃんとしていないと子どももダメになる）。ここを退所することも自立のひとつ。
 - 母親たちはここに入所すれば生活保護を受けられると思っている（そういった情報を得てくる人が多い）。→入所後、生活保護を取って、民間のアパートに退所する人が多い。
 - 自立のイメージ：最初は暗い感じで悩みがいっぱい。出る時は、明るく出て行く。
 母子生活支援施設と自立は、有り得る。生保と自立も、有り得る。
 - 自立：母親が仕事を見つけて部屋を借りる。
 生活しながら自立は：母親で、給食の仕事やめて「看護学校に行きたい。」と言い、その間だけ生保。けれど、一度もらうと……。
 母子生活支援施設にいての自立：有り得る。親子関係充実が大切。ここ（母子生活支援施設）のお金の面だけで、他は自立できていることはありうる。
- 3) 母子世帯への指導・支援における困難さ
- 素直に聞いてくれる人と聞いてくれない人がいる。その人の受け取り方の違い。←これは、職員が言うからだろうか？
 - プライバシーにかかわることなので、立ち入って、その人の生活価値観までかえることになる。その辺が難しい。言いたくないこともあるし、その人をひいきすることもできないし。
 - 精神病を患っている方や、自分より年上のお母さんへの対応。
 - やる気の問題。
 - 子どもの問題については経験を生かして相談にのれると思うが、前夫との関係や金銭トラブルについては難しいと思う。
 - 母親とのコミュニケーションが取れないケースが、難しい。

- ・利用したい部分だけ利用したい、関わり持ちたくない、拒否する母親への対応困る。
- ・金銭的問題（金銭面に余裕があると気持ちにも余裕が出てくると思う）。
- ・年輩の母親は様々な経験をしており、老練（海千山千）なので対応が難しい。
- ・若い母親には「子どもを産んでいないあなたに何が分かるの」と言われたことがある。
- ・母親が障害を持っていたり、耳が聞こえない母親の対応一筆談してもわかっているかどうか。
- ・母親自身の精神病の問題が難しい。
- ・子どもに対する援助で、子どもの中には、父親に面会している子がいる。その子は父親の話する。他の子ども（父親が死んでいる場合や父親の行方不明など）に、父親の話をしづらい。子どもに「先生の親は？」と聞かれて、父親のとは答えにくい。
- ・母親に対する援助では、一人の人格として完成している。直してもらはなければならないところは、言っていかなければならないが、変えるのは難しい。
- ・関わったことはないけど、「負債」を抱えている場合は難しいと思う。
- ・子どもに問題がある場合は、報告が難しい（子ども同士の喧嘩等）。
- ・母親自身が問題を抱えている場合については、「母親の精神状態は子どもに影響する。」と思う。
- ・苦手なお母さんは、「なんでなの!!!!」ってガンって言われると何にも言えなくなる。経験だと思うので。
- ・母親自身への援助が一番難しい。こちらの考えが伝わらず、やってもらえないと事態が何にも変わらない。
- ・前夫との関係：関わりがあると、寮に頼る前に元の旦那へ相談に行く。こちらの言うことは聞かない。子どもはケロッとしている。
- ・母親の人間性：日によって気分が違う。何を考えているのかわからない（精神障害者ではない）。
- ・はずかしい話だが、人間として好きでない人は難しい。やっぱり、相性というか……。
- ・子どもをどなりつける母親。それがその家庭の躰。スタッフ何もできず。そのままでもいいのか？
- ・信頼関係がつきにくい母親は難しい。相手が心を開いてくれるのを待つより仕方が無い。無理に入ろうとしても、関係が壊れるだけ。
- ・各部屋の見回り：本当はプライバシーの問題があると思うが、以前火事になりそうになったことがあったので、行っている。入った時も最低限のチェックをして、直ぐに出てくる。母親達は様々な経験をしているので、自分の経験では対応できない。アドバイスをして「今更、何言ってんの。」と言われると、自信がない訳ではないが困惑する。人間は素直がいいと思う。人の意見を一度は受ける事が大切。アドバイスしても拒否されることがあるが、その人がその気になるような、その人の思いを引き出せるようになればいいかなと思う。
- ・施設入所していることで、施設職員がいろいろを世話を焼いてくれるので、すぐにクレームを出す。周囲への依存があると思われる。母が自発的に活動する姿勢が望まれる。
- ・退所したら生活できないのでは？と思うことがある。夕方など家庭で過ごす時間なのに、他者が家にいたり、夜でも廊下で子どもが話していたりする。子どもに注意すると母親からクレームが出るので難しい。母親のしつけが問題。
- ・お母さん自身に問題がある場合（悩みがあったり、機嫌が悪かったり）が難しい。子どものことを言うにも言葉一つで使い方を間違っていたら、こっちがこう思っている、そう伝わってなかったりする。雰囲気怖いお母さんもいる。
- ・どうしても受け入れられない人が、20人れば1人はいる。相手もわかっていると思う。どっから話していけば良いのか、どうしても理解できない人がいる。今現在も申し訳ないが1世帯いる。それっていうのは、もしかしたら、自分と似てて、似ているから気に障るのかもしれない。あんまり好き嫌いのないほうだと自分では思っているけれど、好きになるには時間がかかりそう。

- ・ケースバイケースだと思う。
- ・(母子の)抱えている課題の深さ
例：子どもが多い家庭で、生活保護を受給していた母親がいた。別居中の夫は働かずに母子の生活保護をあてにして、金を要求し、母親は渡していた。生活保護が切れたことで母親は夫にお金を渡さなくなった。その後、復縁したが、現在も夫は働いていない。
- ・職員の伝え方の難しさ
- ・職員の言葉の遣い方がうまくいかず、伝えたい事が相手に理解されない時は、最も困難を感じる。
- ・現在、入所している母親は全員、困難なケースである。
- ・子どもには援助できるが、母親に対しては自分が子育ての経験が無いのでアドバイスなど援助することができない。母親と接するためにも自分に知識と情報が欲しい。

(5) 母子生活支援施設の今後

1) 報告書についての感想・意見

- ・お母さん達のアンケートを見て、いろんな事を思っているんだなあとと思った。他の施設の所は読んでいない。
- ・お母さん達は言いたいことを言っている。私達の身になってよ。
- ・他の所も似たり寄ったり。
- ・お母さん達の意見を聞けたことは良かった。
- ・お互いに色々思っていることがあるのだと思った。
- ・自分たちも改善しなければならない面もある。勉強させられた。
- ・部屋の見回りは火について行うだけだが、入られるのが嫌な人はいる(火の元の確認、子どもの手の届くところにライターがあるときは片付け、注意するなど)。
- ・結構わがままだなあとと思った。
- ・職員は結果を吟味して受け止めていく必要がある。
- ・他施設についてはこんなものかなと思った。
- (民間の施設を見に行く機会がない。外に出られない。)
- ・調査はどんどん実行して、調査結果を行政に対してぶつけて欲しい。
- ・生活保護を受けている母親は優遇されていると思う。
- ・父子家庭や老人の方が大変だと思う(病院へ行くのも2ヶ月に1度に行っているなど)。
- ・あれ?カチン!予想した感じ。
- ・他の施設についての意見は、「この施設だけではなかったんだ。」
- ・他の施設は、すごいな。一概に言えない。
- ・そう思う人もいるのか←思わせないようにすることも大切。
- ・言われるのは、それなりに問題あると思う。
- ・職員側としては、10を知ってから(の方がいいと考えて)援助した人や、1~2程度で(の方がいいと考えて)援助した人がいたが、母親には伝わっていない。
- ・母親の立場に立って援助したつもりだったが、受け取られ方が違った。
- ・母親たちが直接、間接的(アンケート)に意見を言えることが大切だと思う。
- ・ドキッとしたり。
- ・他の施設の情報は入ってこない(ので、勉強になった)。
- ・もっと母親たちが何を求めているのかストレートに言って欲しいし、知りたい。
- ・自分は直接言われたことがある(サンダル音がうるさい。部屋はノックして、一呼吸置いてから開けて欲しいなど)。
- ・当然だと思う。お母さんの立場としては当たり前前と思う。気をつけてあげられるところは吸い上げていく(理解してあげられる気持ちがあれば……)。
- ・他の施設の部分を見ても、どこも同じだなと思う。
- ・読んで、怒ったところもあるが、立場が違えば自分もそう思うかもしれない。
- ・お母さん達の不満、色々あるんだなと思ったが、

ある程度予想できる範囲での調査結果だった。他の施設も同じようにお母さん達、不満あるんだなぁと思った。

- ・プライバシーどうこう言う人は、確かにきちっとしてる人。でも他のお母さんは、ボイラーつけっぱなしとか。ここは共同だから、ひとつでも危ないところがあれば全部見回しなきゃならない。
- ・他の施設で、ちょっとどこ行くのか聞いただけで監視しているっていわれてて、難しいなと思った。
- ・建物のこと言われてもどうしようもないなと思う。
- ・職員の支援援助については、こういうふうには(利用者が)考えているんだったら、(私たちも)考えていかなきゃなって思った。
- ・受け手の拡張解釈があるから、言葉をきちんと選んでその人に伝えないと誤解されるんだと思った。
- ・自分達の支援が伝わっていない。
- ・プロに徹していかなければと思う。
- ・せっかく接していても、誤解されると残念。伝え方の問題や信頼関係も関わってくる。
- ・母親の“声”を聴けた事はよかった。日頃から、意見は言って欲しいと母親に伝えているが、言えない母親もいるので、アンケートを通して意見が聴けた事は良かった。
- ・調査結果見て、どこも大変なんだなって思った。ある程度、どう言われるかはわかっていた。
- ・ま、勝手に言ってくれ!
- ・他施設についてもびっくりするほどではない。
- ・部屋点検について：自分が点検されたら嫌なやなこと！理解できるが、嫌なら出ていってもらうしかない。
- ・母親、職員、両方から光を当てて欲しい。
- ・正直な意見だと思う。
- ・わかる部分、すごくある。でもそれはできない。ホテルみたいに、サービスが足りないみたいと言っている
- ・全ての施設を見た(研修で)私としては、ここ

で不満あるのかな？

- ・痛いところをついている。痛かった(部屋のこと、子どものこと)。
- ・20世帯に同じサービスできていない。(同じ寮に住んでいるが……。)
- ・積極的な母親や子どもには、サービスも届きやすい。
- ・他の施設については、思った以上にプライバシーの問題がある。うちの寮は恵まれているが、それなのに不満が出ている。

2) 施設利用者に向けて

- ・ここに関しては、共同で使う部分を各部屋で使えるようにしたい(当番制でトラブルも起きる、トラブル起きないように母親同士で調整できれば一番いいけど)。一間なのでせめてもう一つ部屋があればいい。
- ・市でやっている所は少ないが、民間とは違うことができるのではないかと思う。
- ・施設が古いので時代のニーズに合っていない(若い人には耐えられない)。
- ・若い人が離婚し乳児を抱え、母子生活支援施設を希望する人も多くなっている。こういった施設は必要だと思う。
- ・道立の女性センターのようなものが、この市にも市立でできれば良いと思う(市の上層部は母子生活支援施設に見学にも来ない)。
- ・もう少し各家庭で独立できればいいと思う(各部屋にトイレもお風呂もついて)。共同の部分があるだけでトラブルになる。うちはまだ全部をかえることはできないので、「少しずつ」と思っている。ウォシュレットをつけたことで、生理の時や便秘気味の人にいい評判をもらっている。
- ・一番は本人のやる気。職員にできることは、仕事に対する不満を聞いたり、愚痴を聞き、助言をすること。また仕事の無いときは一緒にさがすこと。私達はお手伝い的なことをしていくしかない。
- ・ここのウリは、お母さん同士でコミュニケーション

- ンがとれているところにある。
- 毎日同じ繰り返しの中で、仕事で面白くないことこともあるだろうし、そのストレスを私達に話してくれればいい。人間関係で仕事をやめちゃう人もいるから。
 - 母子支援施設はあった方がいい。集団生活なので、心強い。同じ立場の母親が一人じゃないって思える。特に、若い母親で親戚ネットワークがない人。
 - 今後、施設は若い母親には絶対必要。子ども小さいし。若い母親は、親類の援助もない。話し相手も必要。
 - 図書館を地域に開放してあげたい。昔買いそろえた物がたくさんある。
 - 施設の今後の形としては、地域型と住宅型の両方のがあっていいと思う。
 - 最初、自分はここで働いていて良いのかと思った。自分は男だから。でも、一步外に出れば男の人もたくさんいる。母子生活支援施設だからって女性ばかりのところで暮らしていることが必ずしも良いとは限らない。
 - 母親との関係を密にする。母親が何でも相談できる状況を！
 - 個人面談をすればよい。
 - 援助の統一。東京と札幌の差。
 - ハード面（建物）の改善。
 - 施設長の面接をきちんとアセスメントして行ってほしい。
 - もっと仕事の面で、幅広い支援を（ただハローワークいってらっしゃいではなく）。
 - 母子は、お金の面で大変。家賃かからず、こうゆう施設は大切。
 - 母親の就労中に、保育に関しては、ナイトケアとか病児保育とかを行っていて、過ごしやすいと思う。
 - 「ここはこうして欲しい（風呂の時間、保育のこと等）！」と言われたら、その都度、対応してきた。
 - 職員が少ないから職員を増やしたい。
 - ベビーシッターや、清掃員等ちょっと大変なときに来てくれるような制度があれば良いなと思う（そういう予算がつけばいいな）。臨時で職員を雇っても正職員が入れば辞めもらわなければならなくなる。老人ならヘルパーを出せるみたいなので、母子にもヘルパー出せるようにして欲しい。
 - 自立への援助：母親の意識を自立へ向けるために、どのように援助したらいいか考えていく必要がある。
 - ニーズに合わせて、母子生活支援センターも変化していくべきである。
 - 母子生活支援施設ではない方法で対応すべき。＝お金の無い人は市営住宅に入りやすくする。保育園の病児教育を充実させる。DVなどで逃げてくる人のシェルター充実。→母子生活支援施設というより、別に全てのスタッフがそろった施設を作ったらよい。ただ、母子生活支援施設で対応したらいい事例としては、10代、20代で家事等のダメな人には、そばで教えてくれる人が必要。
 - 母親達は、子育てをしたくない。子どもよりも自分が一番。「何、言ってるの！」と思う反面、母が一人になれる時間、ボーっとできる空間が必要だと思う。
 - 施設内に就労の場があるといい。外で働くまでのつなぎとしての役割を果たし、収入があるといい。
 - 退所後も心配なケースも有り、フォローアップが必要だと思うが時間確保が難しい。本当は電話で様子を伺うといいと思う。今年は退所者からの連絡が多い。
 - 子どもに対して：子どもが色々な経験ができればいいなと思う。いろんなところに連れて行っているお母さんもいるけど、中には忙しくて連れていけないお母さんもいる。子どもが自分に経験がなければ友達と同じ話題が無くなる。話題一つ多いだけで、そこから友達が増えるかもしれない。もっと子どもが色々な経験を積みめればいいと思う。
 - もっと、施設職員が、プロにならなきゃダメだ

と思う。

- こっちらから、何でも援助するのではなく、相談を重ね、理解しながらその人を見守り、向こうが援助を求めてきた時に、いつでもすぐに対応できるようにしていければいい。
- どっちかという、今のところは、おせっかい、「こちらがやってあげてる」という気質がある。
- プロとしての意識、技術を全員が持っていれば、もっともっと入居者と職員の関係が明確になると思う。今は人情タイプの仕事をしている方だと思う。人情が絡むと先が見えなくなることもあるから割り切るとは割り切ることも必要。
- 保育支援の必要性。
- 子育ての中で保育支援は必要。親としての役割の教育も重要。子どものモデルは親であることを伝え、少しでもそのことに気づいて欲しい。
- 子育て支援：母親にとって一番つらいのは、就労よりも子育てであると思う。仕事は辞められるが、母親はやめられないし、子どもも親を選べない。一時的に子どもを看ってくれる人があることで、母親が精神的に安定する。
(例：子どもの宿題の指導は母子生活支援施設でできる。それによって母親には子どもと楽しい話をする余裕が生まれる。)
- 母子生活支援施設の必要性については、必要性を感じていない。
- トイレ、風呂が共同だと何かとトラブルが発生する。一つひとつの部屋にトイレ・風呂をつけることで今までの苦情が減る。6畳一間だったり、8畳一間という狭い空間の中で子どもと一緒に暮らすのは窮屈。最低限2間は欲しい(子どももいるから)。中には工夫している母親もいて、カーテンで仕切って子どものスペースを作ってあげている。「部屋って大切なものだな。」と感じる。
- この施設で、若い母親だと子どもが小さく(幼児、乳児)お風呂がないのは不便。最低でも湯沸器は必要。
- 地域センター方式も良いが、DVや借金で追われてくる人もいるので、緊急避難場所、保護す

るところ(入居の施設)も必要だと思う。

- 母子生活支援施設は、今後、増えていっても良いが、どこまで援助するのかの基準があるならOK。母子は、児童扶養手当などで援助されている。父母子世帯でも大変な家庭はある。
- 長期入所者もいるので、常に自立を促す。新たな入居者を受け入れて、循環させていく必要性を感じる。母子生活支援施設が必要な人が多いと思うので。
- 寮という形態については、もう少しプライバシーが守られる造りだとい。門限を廃止するなど人間的な扱いをされるべきだと思う。グループホームや職員が家庭訪問するなどといった形態が望ましい。ピアカウンセリング的な要素もあるので、寮という形態が良いという母親もいる。
- 行事については、昔は行事が多く、特に食事を伴う行事を実施していたが、多すぎると不評でやめた。今は月に1回、子どものおやつ作り教室を実施している。

3) 地域の母子世帯に向けて

- 地域のお母さんから突然電話が来ることは今のところ無い。
- 地域の母子も利用できるようにしたい。
- 夜間職員が居ないことが心配。何か電話があれば(職員が)とんで行くし、心配な時は警察も付けているけど。
- 学童や病児の保育の必要性は、地域のセンター方式などで、もっとたくさんの人に保育提供できる方がいいのでは。母子世帯であるということは、ハンディキャップにならないのではないかと思う。
- ここの施設の存在は、ここの市でもよく知られていないと思う。しかも下手に知らせられない。
- この中で生活しているお母さんがもっと、個人的であっても、地域とつながりをむすんでいったほうが良い。自分は、保育所に子どもを行かせていないお母さん達と0歳~6歳までの子が一緒に来る場面で月に2回ボランティアをしていた。

- 母子の生活を支援してるっていう意味では、こういう施設はいいかなって思う。自分自身、小さい頃こういう施設を利用していたが覚えていない。
- 母子生活支援施設を増やす。
- 地域にオープンにしていくことで、母子生活支援施設に入っていることの偏見を無くして欲しい。母子生活支援施設=生保と思われている。
- 地域センター方式：親密感が無くなる。事務的になるのでは？ 主旨が見えない。
- 地域に暮らす人たちは、母子生活支援施設について知らないと思う。プライバシーを強調し、保護しすぎてはいけないと思う。
- 今（一つ屋根の下）のメリットは、緊急の場合（具合悪くして、動けない時等）にすぐ見に行ける。
- 地域で暮らす母子世帯への援助は、余裕がない。学童保育を行っており、外部には喜ばれているが……
- 内部で一緒にいると「干渉レベル」で取られてしまうから、地域にサービスを展開していった方がいいのでは？
- センター方式にすると、本当に困りもののお母さんって来ない気がする。
- 他でやっているように、地域の児童会館のように寮外の学童を！子どもにとっても、寮内だけだと我が道を行く感じになってしまう。
- 地域センター方式：よいと思う。理想。段階（施設→センター→地域）があるといい。
- ここは母子支援施設だけど、周囲からはここが施設と感じられていないと思う。
- アピールしたら、DVの人が守れない。けれど一方で、子どもが自由に出入りできるいいな。
- トイレ、風呂共同は、思った以上にプライバシーの問題。
- 4月からのトワイライトステイをどんどん広げていったらいいと思う。
- 昨年試しにやった地域サービスは、施設外から来た人にも受け入れられていた様子だった。寮内のお母さん達の中には、寮内の人達のことを手厚くして欲しいという気持ちがあったようで、職員もそこに気を付けるようにしている。
- 24時間体制で保育できるように。
- 地域のシングルマザーとの交流については、寮内のお母さん達は寮内のことを知られるのを拒否する。外部のお母さん達との交流はあえて持たなくてもいいと思う。
- 学童保育（地域の母子世帯とか）の人からも相談を受けている。
- もっと気軽に相談されるような、いろんな事を言しやすい施設になればいい。
- 地域に開かれる方がいい。現在は施設で行事が催されても、近所の子ども（入所している児童と同じ学校に通っている子どもでもある）の参加は許可していない。
- 退所していった人に対しては、いつでも遊びに来て欲しいし、来られるような環境作りや、母が相談できるような環境作りが必要。
- 地域のシングルマザーとの交流は、ない方がいいのでは。母親たちが嫌がるのでは。
- 地域で暮らす中のお母さんの同意が得づらい（いい迷惑かも）。反対に、ここにいることを隠している母親もいる。トラブルが多くなるかも……。
- 公立の施設は、行政としてセンター（女性援助センター）化して欲しい。そこでは、様々な専門家をそろえる（メンタルヘルス、職業相談員など）。広く市内の母親の相談を受けられるセンターとする。24時間体制など、行政として責任をもってやって欲しい。母親の代弁機能（母親が何をなぜ困っているのか代弁していかなければならない）。他の専門機関との連携（職員も勉強していく）。
- 母子生活支援センターの入居者だけが優遇されるのはおかしい。地域の母親も同じサービスが受けられた方がよい。
- 地域の母親と接することで、入居者も学ぶことが多い。施設の中だけだと、「もっとやって欲しい」と要求だけになりがちだが、地域の人たちの「そんなこともやってもらえるの!!」と言う反応を、ここの母親たちが聞き考え直す。

- 母子生活支援施設の家族は、自分達は母子世帯である意識する事があるが、地域で生活している母子世帯の人たちはどうなのか、交流できるといと思う。
- 退所した人と入所者の交流があるといい。
- トワイライトなど。今新しい一年生が2人来ています。いまは人数が少ないから対応できているが人数が増えたら「なんでこんなことしてるんだらう」って思うかも。世間にもっとアピールしたいけど自分の仕事が増えると思うと……。でも、やっぱり、もっと母子生活支援施設を知って欲しい。どこにも頼るところが無い時こういうところがある、「行くところがある」ってことを知って欲しい。助けてくれる人がいることを知って欲しい。世間に自分の仕事知られていないのも……。 (自分の仕事、少年指導員の話をしたら「少年院で働いているの？」と勘違いされた)。
- 母子・寡婦の会は地域生活の支えにはなっていない。
- もっと地域に出て、関わる方がいい。退所した人とのコンタクトは必要。アウトリーチが必要であり、大切。地域支援センター的なものになって、活動したい。
- 母子生活支援施設自体が少ないので、地域の理解や認知を広めていきたい。学校で周囲からの偏見を感じる母親もいる。
- 地域に住んでいるお母さんの子は、誰もいない家にカギを持って一人で帰ることになる。学童保育が増えればいいと思う。ここにも3~4人は地域の子が来るし、夏になれば、庭が広いのでけっこうたくさん遊びに連れてくる。
- 地域に開けていくのは良いことだけど、もしその子の親が外の人だったら、ここの職員は夜7時までの勤務だから、それから地域に子どもを帰すのは夜も遅いし……。ここの親の場合は、家は2階だし、隣の家とも仲がいいから、そこに子どもがいることもできる。
- ここの母子生活支援施設に入居している世帯は恵まれていると思う。地域のシングルマザーも気軽に利用できるといい。
- うちのお母さん達は地域のお母さん達が入ってくることに抵抗する。見せ物ではないという意識がある。
- 生活保護を受けながら、地域のアパートで生活している人もいますので、ここの人は甘えの部分もあるのでは。
- DVとか色々あるから、そこを考えて地域に開かれていけるようにしなければ。
- 今現在、地域に施設を開放している。
- 民間ならば、24時間で指導も援助もできるが、ここではやってやりたいたいと思ってもできない事もある。
- 施設を集会所として使ってもらえるといいとも思う。特別行事を用意するのではなく、おばあさんが孫も連れてきて良いような。そうして、自然にここと利用者の家族が結びついて行ければいいと思う。
- 施設長は将来的にはセンター方式で地域に支援していく形も考えている。
- むこうが望むサービスだけを提供する施設であれば、ここはいらぬ。ここが必要だからここにいる人たちがいる。センター方式をやるなら、誰がどの職員につくのか等の問題も出てくる。
- 退所者に対して、電話や本人の来所で近況を確認する必要がある。行事のある時は、こちらから電話連絡して話すこともある。もっと連絡の機会を増やす方がいい。地域で生活している母子もあるので、通所のセンターも必要。
- シングルマザーの増加にともなって、地域のシングルマザーが気軽に利用できる母子生活支援施設の在り方が必要。
- アウトリーチの必要性：施設にアクセスすることが難しい母親には、アウトリーチが必要。そのためにはマンパワーの充実が望まれる。
- 実際に地域から来る人は、いないが、電話がくることはある。
- 入所者の、外部の母親の受け入れはとても良好である。緊急入所した人が、母子生活支援施設の児童室を見ることで、自分と同じ問題を抱えた母子が生き生きと生活しているのを知り、自

分の未来が明るくなる。「勇気をもたらした」と言って退所していく母親は何人もいる。反対に、入所者が緊急で入所した母親を援助してくれる場合もある。

(6) その他

- ・ワーカーとして“あきらめない”
- ・ワーカーは元気を与える人
- ・福祉が好き、人間が好き。
- ・人間はいつまでも色々な人から学べる。
- ・人間は捨てたものではない。
- ・こちらが裏切らない。捨てない。
- ・ワーカーとしての役割・立場（自分は何のためにここに居るのか）を母親が納得しなければならない。そのために、タイミングよく援助する（自分の役割）。母親の様子を良く見る。
- ・「少年指導員」という仕事自体に「何なのか？」と思う。とにかく聞き役で、見たこととかをサラッとと言う感じ。母子指導員は見てて格好いいなと思う。すごくかかわっていたり、まかされていたり信頼してもらって、その仕事やれてうらやましく思う。やりがいをもってやれているんじゃないかと思う。自分がやめたときに「自分はそこに必要だったのか」「どういう仕事をしてきて、どういうことをしたかったのか」ってことを言えないかも知れない。
- ・よけいな言葉をかけるのではなく、効果的な言葉は何かを考える。
- ・まだ信頼関係が築けていないので、ちょっとした愚痴でもお母さん達が気軽に言ってくれるような職員になりたい。
- ・親子ともに、たくましく生きてほしい。がんばって、たくましく。
- ・お母さんに言ってあげたことは、言い合える友人ができれば、強くなれるよ。
- ・ワーカーは自分自身へのサポートが必要
- ・職員関係は大切。以前は職員同士がぶつかることがあり、本音を言えない人間関係だった。職員の意思統一ができず、対応もバラバラで、結果的に母親達との信頼ができにくかった。

- ・質の向上を図りたい。
- ・もうやめたくなることもある！
- ・他の施設の職員と支援方法について話し合ったりする。すっきりする。

5 外から見た母子生活支援施設

(1) 地域に暮らす母子からみた母子生活支援施設

あらかじめ、この第5章1で用いるデータ（地域の保育園・幼稚園に子どもを通わせている15名）の基本的属性について述べる。家族構成は「母+子」が10名、「母+子+祖父・母」が3名、「母+子+祖・父母+その他の家族員」2名であった。さらに、「母+子」の家族構成のうち、「両親や親戚が市内に住んでいる」者が6名、「日帰りで行けるとところに住んでいる」者が2名、「もっと遠いところに住んでいる」が2名であった。

1) 母子生活支援施設の認知と今後の利用

「母子生活支援施設（旧・母子寮）」について、「名前も聞いたことがない」者は4名（26.7%）、「名前だけ聞いたことがある」者は8名（53.3%）、「名前も施設の内容も知っている」者は3名（20.0%）であり、施設の内容も伴った認知度はかなり低い。

また、そのイメージについて記してもらったところ、以下のような回答が得られた。

- ・名前だけ聞いたことあるだけで、どんなところでどんなことをしているのかわからない。
- ・なんとなく差別されているみたいで嫌だ。
- ・イメージとして“かわいそうな家庭”の集合。
- ・必要最低限度の設備しかない。
- ・知らないので、わかりませんが、母子家庭だけの寮ってことですか？
- ・母親同士が協力して働くことを支え合っていくコミュニケーションがとれるというイメージ。
- ・一部の施設を見学したことがある。雰囲気的によほどのことがない限り住みたい、利用したいとは思わなかった。共同生活風？としても、

(見学する前は)もう少しきれいなイメージがあったのに……。

- ・ ?
- ・特になし
- ・孤立しているイメージがあります。
- ・よくわからない。利用してみたいと思ったことはあるが、実状は件数が少なくなかなか入居できないと聞いた。
- ・かけこみ寺のようなイメージを持っています。なにか、人目をさけて暮らしていくような感じを持っています。
- ・限られた場所にしかない、数が少ない。家賃は安い、子ども1人と母親が住む広さ。
- ・母子家庭の生活が安定するまで住居等を提供してくれる施設。
- ・母と子だけで本当に生活するのが大変な人達が、身を寄せ合って暮らしているイメージがある。

さらに、今後の利用についての希望をたずねると、「利用してみたい」が2名(13.3%)、「利用したいとは思わない」が6名(40.0%)、「わからない」が7名(46.7%)であった。それらの理由としては、まず「利用したいと思わない」母親たちの回答では、

- ・上に書いた(母子生活支援施設のイメージ)理由と同じ
- ・門限もあるようなことを聞いた。
- ・今のところ近くに友人や親(両親)、姉妹がいるので、利用はしなくてもやっていけるかな……と思っています。
- ・同上(母子生活支援施設のイメージ)でお話したように、自分の生活の事だけで、いっぱい、他人の気をつかってまで生活していく精神はないと思うから。視野が狭くなる気もするし……。母子でも他の人とかわらない生活をしていきたいと思っています。
- ・詳しく調べなかったが区役所で聞いた際、3人の子どものみでは狭すぎる。
- ・希望した地域ではない(祖父母の近く)。かな

り造りが古い。

- ・規則が厳しいと聞いたことがあるので。といった、母子生活支援施設全体へのイメージの悪さとともに、建物の古さや狭さという設備面、あるいは門限といった規則への抵抗感をあげていた。

さらに、「わからない」と回答した母親たちは、7人中5人が「その施設が、どのようなものかわからないので」、「どんな所か知らないから」というように施設について知らないことを理由としてあげていた。

一方、「利用してみたい」母親の理由は、

- ・家賃が安いと聞いた。
- ・今は利用しなくても良い状況なので、考えてはいますが、何らかの原因で住むところがなくなることがあれば、心強いし利用したいと思います。

というように、母子生活支援施設における、まさに「支援」の内容を把握している上での回答であった。因みに、「利用してみたい」とう2名の基本属性で言えば、2名ともに保育所を利用している母親であり、家族構成は「母+子」であり、親族との距離では、1名が市内、もう一名が日帰りで行けるとところに住んでいた。

2) 地域に暮らすことの困難さと要望

母子生活支援施設を利用せずに、地域で母子世帯が暮らしていくときの困難さにはどのようなものがあり、また、社会資源のひとつとしての母子生活支援施設は、何を期待されているのだろうか。以下には、地域母子世帯の困難さ、地域母子世帯に対して行ってほしい母子生活支援施設のサービス、社会一般に対しての要望について列挙する。

①地域母子世帯の困難さ

- ・今のところなし
- ・夫と別居の状態では、何の支援も受けられないこと(市が変わったが児童手当も夫でないと受

けられない)。

- ・特にありませんが、これからはどうか？と心配です。
- ・空巢に入られたり、ストーカーにあったりした。子どもと母親だけで暮らす厳しさを痛感した。
- ・よく意味がわかりませんが、困っていると言うより現状維持で精一杯です。
- ・贅沢かと思いますが、保育時間がもう少し長ければ……。
- ・学区内に児童会館がない。
- ・仕事が無いこと。
- ・まだ困ったことがない。
- ・特にありませんが、子どもが保育所に通っている内はいいのですが、小学校に入ってから放課後に安心してあずける施設がない。あってもお金がかかったり、施設が不衛生だという話を聞いたりして、母子家庭以外の家庭でも困っている人達がたくさんいます。
- ・特にありません。
- ・ちょっと、あまみられているかな？何か相談する事があっても、まわりにそういう(相談する)人がいないこと。
- ・仕事が決まるまですごく大変だった。住宅の家賃が高い。
- ・今のところ困ったことはありません。
- ・今は実の親と一緒に暮らしているのであまり不自由はないけれど、自分の仕事が夜6時30分～7時くらいまでなので保育園の延長のお迎えに間に合わないので、自分でお迎えができないことが困る。

②母子生活支援施設に行ってもほしいサービス

- ・安価での託児サービス(自宅にて)。幼稚園では長期休み期間の保育がないので仕事の時間が限られる。
- ・わかりません。
- ・色々どこみいった事情や追われる(?!)イメージがあるので、オープンな感じがないので、他施設のようなサービスを求めるっていうのはできない(イメージがどうしてもできない)です。

- ・子どもの保育。
- ・母子生活支援施設でどんなサービスをしているかわからないから、何を書けばいいかわかりません。
- ・どこに母子生活支援施設があるのか、まずわかりません。(一ヶ所中央区にあるのは知っているが……)あまり考えたことがないので、今のところサービスについては思いつきません。
- ・子どもが病気の時あずけられる、又は介護人の派遣(仕事が休めない)。
- ・何か用事ができたときなど、子どもを預かってくれる場所が欲しい!!(手続きが面倒なのはダメ)すぐ対応してくれるところ。
- ・デイサービスがもっと近くにほしい!!
- ・住宅(ある程度の広さ、設備のあるもの)
- ・日曜、祝日も子どもをみてくれる施設や、保育園を増やして欲しいです。
- ・子どもが病気になっても仕事を休めないときに預かってもらえるサービスがあるととても助かる。

③社会一般に対して

- ・働いていて、子どもの学校や体の具合が悪く会社を休まざるをえないとき、嫌な顔をせずに休ませてほしい。
- ・仕事をして、収入は十分とはいえない状態なので助成制度を広げてほしい(期間、金額ともに)。
- ・離婚していなくても、別々に生活している場合の助成があるといい(離婚調停中など)。
- ・母子家庭でもいろいろあるけど、子どもが小さい、体が弱いで、仕事がなかなかない!!採用されない!きついですね!
- ・働く条件が厳しい。子どもがいることで働き先が限られてしまう。
- ・安心して子どもを預けられる所。また保育所(認可園)をもっと便利にして欲しい。時間の延長、日曜祝日の保育など。もっともっと増やして欲しい。(でない、働きたくても思うように働かず、イコール収入、自立、安定です。)

- ・自立するまで支えになるものがあるといい。
例) 生保の見直し：身近でもなかなか生保を受けられず、その日暮らしの仕事をして、将来への不安を抱えている人が多い。「一時、何かを収得するまで……」と。
- ・特になし
- ・今、自分達の生活を考えるだけで精一杯で、あまり考えたことがありませんが、遊園地などの施設の入園料が高くて子ども達を連れて行くことがあまりできないのが残念です。
- ・母子生活支援施設入居者数を増やす（入りたくても入れないのが現状）。児童扶養手当の引き上げ（限度枠が少なすぎる）。病気の子どもの預け先を市内全域に増す（現在は市内の2つの区の病院のみで、利用したくてもできない）。母子家庭の母の医療費を無料にしてほしい（他の政令指定都市と同じく）。
- ・やはり生活面で、仕事がスムーズにできることだと思います。生活するのに必要なお金が稼げれば精神的にも安定できる（母親のストレスも解消）。
- ・同じ母子世帯でも、生活保護世帯との差が大きい。生保の人の方が生活にゆとりがあると思う（病気の人ではない人）。
- ・一生懸命働いている「母親」の医療費もかからないようにしてほしい（生保の人は無料と聞いています）。自分が具合悪い場合でも、なかなか病院にかかれない!!
- ・就業に対する援助。住宅の確保（離婚の場合すぐ住むところが必要）。子どもの学費に対する援助
- ・難しい事ですが、差別意識が少なくなると良いと思います。片親だから、しつけが悪いと言われてたりすること。私は心の成長も大切にしたいのに、片親だから仕方ないみたいに言われる事がありました。
- ・今の仕事では、子どもを育てていくのはとても大変なので、子どもがいても融通のきく仕事に変えなければいけないといつも思っている。人にばかりたよっているのも嫌なので、なんとか

自立はしたい。

3) 地域に暮らす母子世帯の「自立」

母子生活支援施設を利用せずに地域で暮らしている母子世帯にとっての「自立」は、どのように考えられているのだろうか。経済的な自立を中心に以下のような回答が出ていた。

- ・普通の家庭並みに生活ができ貯金ができること
- ・仕事を持ち、子どもを育てていけるだけの収入を得る。しかし、母子だけの世帯だと、子どもの育児に対する援助はそれなりに必要だと思う（特に小さい子の場合）。
- ・一般的に普通に生活していくこと。
- ・経済的に国からの援助なくして生活してゆける事。
- ・子どもがいても「稼げる」ことではないでしょうか。手に職をつけてもまともに働けないのなら一生自立は無理だと思う。
- ・母親が、社会的・経済的に自立し、心身共にゆとりをもって子どもと生活できる。
- ・できれば、お父さんがいたほうが良い。
- ・?（わからない）
- ・生計が一定していることだと思います。パートで働いている人が多いのでは?（うちもそうですが、パート収入と両親と一緒に家にいるというだけで、児童扶養手当の手続きがとて面倒。正社員で働きたいです。やっぱりお金がないと親とかに協力してもらわなくてはならないですし、精神的に嫌ですね（老いた親に申し訳ない）。
- ・金銭的に一般的なレベルを維持。働いて子どもに食べさせる。
- ・父母がそろっている家庭のように、同じ境遇で暮らしていけること。
- ・母親の仕事+親子（母子）のきずなを深める。精一杯努力して生きる。
- ・誰にも迷惑をかけないで生活していけることだと思いますが、私は周囲の人に支えられているので自立がどこまでなのか、わかりません。
- ・今は親と一緒に暮らしているが、いずれは子ども

もと2人で部屋を借りて自立したいと思っているが、男性と違い給料も安く生計を立てるのがとても難しいので自立するためにはそれなりの給料がなくてはとても無理だと思う。

(2) 利用者と退所者の比較からみる母子生活支援施設の評価

ここでは、A市における母子生活支援施設利用者と同施設退所者の比較を通して、施設評価を考える。

1) 施設利用者の評価と要望

最初に、今現在、施設を利用している母親の声を拾っていくと、これらは第2章でふれたように、報告書に出ている道内全体の施設利用者の評価や要望と重なる部分が多い。A市において肯定的な評価がされている点は以下の通りである。

- いつも守られている感じがして、安心して暮らせる。
- 家賃がかからず、水道代と電気代だけなので金銭的に助かる（同様の内容で全世帯）。
- 他の子どもや職員がいるので、子どもが淋しい思いをしない。安心して働くことができる。
- 子どもの面倒を見てくれる。子どもが小さいのでなにかと手がかかるが、ちょっと手を借りたいときに助けてもらえるので助かる。
- 相談に乗ってもらえる。職員が親身になって相談に乗ってくれるのがよい。相談できる人がそばにいるのは、とても心強い。

一方で不満や要望は、規則・子どもの保育・設備面・職員の対応など、多岐に渡って多くの意見が出ていた。

- ハローワークのような仕事の紹介があればよい。子どもを抱えての就業はもちろん、理解のある職場を探すのはとても困難。
- 門限をもう少し遅くして欲しい。大人なのだから、門限は必要ないと思う。

- 子ども1人でも部屋に入れるようにして欲しい。親が帰るまで学習室にいと、子どもの自分の時間がなくなってしまう。自分で予定を立てて行動することができないように育ってしまう気がする。
- 延長保育・休日の保育を充実させて欲しい。残業や休日出勤ができないと就業が困難だし、職場で肩身が狭い。
- 部屋を広くして欲しい。一部屋だけだと辛い。異性の子どもが成長したとき、生活していけないと思う。
- 風呂、トイレは各居室に設置して欲しい。小さい子どもがいると共同ではとても不便。入浴時間が制限されたり、朝の忙しい時間にトイレに並んだり、とても大変。
- プライバシーの確保。いない間に、部屋を見回るのはやめて欲しい。
- 当番を減らす。風呂やトイレの掃除当番、ゴミ当番、鍵当番など、当番が多すぎる。時間が決まっているものが多いのも大変。
- 個別対応の必要性。子どものしつけに関して、母親の育て方を尊重して個別に対応して欲しい。
- 行事の強制参加をやめる。子どもを遊びに連れて行ってくれるのはよいが、休みの日は必ず行事があったり、強制参加だったりするのは困る。用意のためにお金が必要になるときもあるので大変。
- ボランティアの充実。子どもに習い事をさせる余裕がないので、ボランティアでピアノや英会話などを教えてくれると助かる。
- 団体生活がもっと円滑に行えるよう配慮。利用者同士が仲良く生活できるように職員が間に入ったり、規則・マナーを守らせたりするなど配慮して欲しい。
- 職員の資質向上。若い職員だけでなく、経験豊富な年輩の職員がいると相談しやすい。利用者の心理的なサポートができるように、勉強して欲しい。女性ばかりなので男性の職員もいるとよい。子どもの父親代わりとして、また、男の子の相談相手として必要だと思う。

- ・子育て情報の提供。子育てに役立つ情報を提供してくれると助かる。

2) 退所してからみる母子生活支援施設

では、施設生活を経験し地域で暮らしている母子世帯にとって、母子生活支援施設は、どのように評価されるのであろうか。

- ・家賃がかからないので金銭的に困った人には必要なところ。施設にいたときにある程度貯金できたので、地域で暮らすことができた。
- ・DVなどで逃げている人にはとても大切なところ。
- ・地域にいる母子家族とも交流があればよい。
- ・自立のためのステップになる。離婚して、いきなりアパートを借りたりして地域で暮らすよりも、母子生活支援施設を利用して、お金を貯めたり、仕事を安定させたり、生活リズムを身につけたりして生活力をつけた方がよい。地域で暮らす上で、施設での生活は役立っている。
- ・小さい子どもがいるときは家族代わりになってよいが、大きくなると設備的にも環境的にもあまりよくないと思う。
- ・学童保育、仕事の紹介など地域にいる母子家族が利用できるサービスが充実するとよい。子どもの学校が終わってからが心配で、安心して仕事ができないので遅くまで子どもを見てくれるところが欲しい。情報提供もしていれば助かる。
- ・母子生活支援施設は必要だとは思いますが、違う形態の方が良いのではないか。母子世帯専用のアパートなどで、地域で生活しているのと同じような状況になればよいと思う。

3) 比較を通してみえる施設の評価

両者の意見を比較するに先だって、ここでの「施設退所の母子世帯」が、今でも施設からの調査の協力に応諾できる関係にある母子世帯、すなわち、施設にいる間にはトラブルがあったにせよなかったにせよ、今は、施設との一定の良好な関係を維持しているというバイアスがあることを押

さえておかなければならない。その上で、両者を比較してみると、施設利用者からは肯定的な評価よりも要望や不満が多くあげられたことに比べ、退所した母親からは主に肯定的な評価の回答があげられていた。退所母子世帯は、今現在は施設で生活をしていないということから客観的に、あるいは総体的に施設を評価しており、そのことは「施設にいた頃はいろいろ不満もあったが、今はとてもよかったと思っている。」という回答からも読みとることができる。

さらに詳しくみていくと、施設利用者の評価で、ほぼ全員からあげられたのは、「家賃がかからないので金銭的な負担が軽い。」という経済的な面での評価である。その他の評価は、主に職員が近くにいることで得られる子育ての援助や相談、安心感などである。しかし、「良い」という評価ではあるが、さらなる改善の要望があげられることも多く、現状に満足している印象はない。また、施設利用者の要望は大きく「生活環境を向上させるための要望」と「今後の自立のための要望」との2種類に分けることができる。

一つ目は、今の「生活環境を向上させるための要望」である。部屋の広さや数、風呂・トイレの各居室設置など施設の設備、すなわち設備面に対する要望がある。さらに、職員の対応や、当番制度、行事などのプログラムなど、ソフト面に対する要望も含まれている。設備面に対する要望は、利用者の被調査者全員からあがっていた。確かに8畳一間では、親子が生活するには狭く、子どもの人数や性別・年齢などによって、さらに困難になるであろう。風呂・トイレに関しても、風呂は夕食後・就寝前、トイレは出勤・登校前など利用する時間が集中しやすいことから、各居室に設置することが望まれる。小さい子どもがいる場合には特に、共同では不便さを感じると思われる。

ソフト面に関する不満・要望では、同様の事柄について、一方では「良い」という意見もあり、簡単に是非が言えるものではない。例えば当番制度に関しては「集団生活なので仕方のないこと、あたりまえのことだと思っている。」という回答

もあれば、「風呂・トイレが各居室に設置されれば、当番から解放される。」という回答もある。行事などのプログラムに関して、同一被調査者から良いという評価と同時に不満・要望の回答があがる場合もあり、「行事自体は嬉しいが……」回数や参加の強制、行事に係る金銭的負担に関する不満があげられている。

二つ目は、「今後の自立のための要望」である。仕事の紹介や保育の充実に関する要望がこれに当てはまる。仕事に就き収入を得ることは生活を支える上で重要であるし、安心して仕事を行うためにも延長保育や休日の保育は必要である。このことは母子世帯に限らず、共働き世帯などにも必要なことであるが、施設利用者は経済的な問題から、外の延長保育や休日保育といったサービスを購入することができず、それを施設に求めるのは当然の流れであろう。

退所母子世帯の意見は、施設利用者 비해、「自立のため」の視点に立った回答が多いようである。母子生活支援施設の利用を、地域で生活を始める前のひとつのステップとしてとらえている母親もおり、施設利用時に地域での生活のために貯蓄をしていたという母親が多い。また現在地域で生活しているという立場から、地域の母子世帯も利用できるサービスを充実させて欲しいという要望があげられていた。特に、学童保育を中心とする保育サービスを求めるものが多かった。就業に伴って通常の保育に加えて延長保育や休日保育を必要とする場合、また就学後も小学校低・中学年までは一人で家に残すのは心配であるということから学童保育を必要とする場合がある。しかし、そのようなサービスを利用すると、金銭的にかなりの負担となる。そのため、無料または低額な料金でサービスを充実させて欲しいという要望が多くあげられていた。

さらには、母子生活支援施設自体が、もっとプライバシーを保護し、それぞれの家族の生活を尊重するために、母子世帯専用のアパートなど、地域で生活しているのと同様の形態になればよいという回答もあげられた。

6 まとめと考察

(1) 施設利用者への調査を振り返って

母子生活支援施設の施設長や施設職員が、利用者である母親たちの声を受けて、どのような感想を抱いたのかについては、施設長・職員ともに、多少の反発をもって受け止めてしまうものから真摯に受け止めるものまで、かなりの個人差が見られた。さらに、それを今後に向けて、どのように反映していくかという点においては、施設によって「取り組めるところからひとつずつ」といった展開であるが、なかでも公立においては、予算の制約からか明快な回答はできにくい状況であった。今日、様々な領域において、「第三者」による評価を受け自らの実践を吟味していくなかにおいて、「母子生活支援施設」も当然その流れを受けるものであるし、受けるべきものであろう。特に、後述の調査結果からも明らかのように、「何をしている施設かわからない」という認知度の低い施設の特徴からしても、こうした「外」からの声を聞く機会を積極的に取り入れ、反対に外に発信していく必要がある。今回の一連の調査は、単発的に、調査の結果を受けて施設の設備面や対人援助を改善していくといったものに留まらず、母子生活支援施設が外に向けて、自らの存在価値を発信していく契機となることも問われているのである。

ところで、この公立と私立という対比は、施設職員の対人援助に関する意識や態度においては一概には当てはまらない。私立施設における職員が、その意識と技術にかなりの温度差があるのと同様に、公立であっても援助に対する高い意識と技術を有している者から、その対極に位置している者も存在している。

そもそも、職員の就職の時の感想にあるように、多くの職員が、母子生活支援施設に就職する時点では、「母子生活支援施設とは何か？」についてほとんど知らずに就職しているのである。それは、多くの母子生活支援施設が保育所を併設していることから、保育所の延長や何かの関連施設という押さえで就職し、子どもに対する援助は想像でき

ても、母親への援助については十分に理解せず仕事スタートさせている現状がある。

そのためか、就職してからの援助の大変さとしてあげられているものには「母親への対応」という回答が多く、さらに言えば、母親との間に生じる「信頼関係」や「共感」や「相手の立場の理解」といったものに難しさを感じているのである。これらはまた、職員の日々の仕事での困難さであると同時に、母子生活支援施設での職員として大切なこと・心がけていることとしても回答されている内容である。一般に、ソーシャルワーカーに求められる要因として、「価値・倫理、知識、技術」が言われているが、今回の調査においては、この三要素の中でも、施設職員の「価値観」が問われる回答が多かった。利用者である母親の価値観や行動が、援助者である職員の価値観に照らし合わせたときに、矛盾や疑問、さらには反感となって生じている様子が浮き彫りとなり、そこで援助者としての職員は苦悩しているのである。

(2) 母子生活支援施設で働くということ

施設職員の価値観に関わって、回答に差が見られたものは、「就職の支援」や「生活保護受給者の母子世帯」、あるいは「貧困の原因」といった項目である。

母親への就職支援は、母子世帯の自立へ向けての支援策のひとつであり、母親自身のみならず職員からも、祝祭日の保育を含めた融通性のある保育対応の必要性が、多くの意見として述べられていた。その上で、具体的に母親を就職へ結びつけていくときの要因として、資格取得の問題があげられていた。すなわち、高学歴ではない母親たちに何らかの資格を取らせることが、就職へと導く支援という意見である。中には、「単に資格であればいいというものではなく、確実に就職につながるような強い資格は何かを職員も調べて、母親へアドバイスすべき」といった、確実に積極的な回答もあった。

しかし一方で、就職へつながるか否かは、資格云々の問題ではなく、母親の個人的資質の問題で

あるという回答もあった。「資格はなくても、就職する人は、すぐに就職を決めてくる」、「資格以前の問題」というように、「母親のがんばり」によって就職へのアクセスが規定されているという見方である。

同様の意見の対立は、施設内の生活保護受給の母子世帯と就労している母子世帯との対比においても見られる。両者における生活の「差」は、大部分の職員が「ある」と回答し、それらは、勤勉なワーキングマザーに対して、金銭感覚の鈍い（金遣いが荒い）ルーズな生活保護受給の母親として描かれる。さらに、生活保護を利用するに至った貧困の原因についても、「母親の生まれ育った家族の影響」の大きさを認めつつも、貧困の原因が「社会的要因」であるのか「個人的要因」であるのかに意見が分かれ、後者の意見を支持する回答が多かった。そこにはやはり、個人（母親自身）のがんばりの欠如という視点が含まれているのである。

しかもこうした「利用者への厳しい視点」というものが、新人ワーカーの方に多い回答であるとは言えなかった。むしろ新人ワーカーの方が、素朴な感想から、「(よりいいかもしれないので) 資格取得の必要性」を述べていたり、「(ニュースなどで失業の話聞いたから) 貧困が社会的な要因」、 「困っているから生活保護が当たり前」という発言も見られた。ソーシャルワーカーとして経験を積んでいく中で、価値・知識・技術の面において、研鑽を重ねて得ていくものがあるのと同時に、特に「価値」の側面では、日々の実践をこなし、援助の壁にぶつかっていく中で、失われていくものもあるであろう。すなわち、職員が一生懸命に取り組みば取り組むほど、利用者との軋轢や裏切りに会い、最後は母親個人の問題にせざるを得ないという、援助者の辛さが存在しているのである。

実際、こうしたある意味の「母子世帯への厳しい」価値観を抱きつつも、職員は様々なレベルの、きめ細やかな実践を展開している。そうした職員の「がんばり」が、ソーシャルワーカーとしての「やりがい」に結びついていかないことの積み重

ねが、上述のような、母親自身の「がんばり」度で母親を評価してしまうといった、利用者への厳しい視点として生じてくるのである。そのことを裏付けるように、反対に、仕事をしていく中でうれしさを感じる時は、何気なく母親や子どもたちから感謝のこぼをかけられたときや、母子世帯が自立していくときなど、ワーカーとしてのやりがいを感じる時のことを述べている回答が多い。

こうした職員の「やりがい」をいかに支えていくか、さらには、ソーシャルワーカーとしての力量をいかにつけていくかという課題については、様々な研修が答えていくのであろうが、そこにも施設間で一定の差が生じていた。すなわち、施設から派遣される形で参加する施設外研修には各施設とも職員を順番に参加させていたが、施設内研修については、施設（法人）内で定期的に研修会を設けているところから、処遇会議（事例会議）をもって研修会としているところ、さらには事例会議自体も定期的にもたれていないという施設も存在していた。その会議の内容にしても、様々な職種や立場の職員が、自由に事例に対する見解を述べるのが保障されている会議から、単に上から下への申し送りや、少年指導員から母子指導員への情報提供で終わってしまっているものもある。母子指導員は母親対応をするということから、母子指導員は本来の「母子生活支援施設」の仕事を担っていて、少年指導員は後方支援のような印象を抱かせていることについても、事例会議の持ち方の問題や、少年指導員が少年指導員としての専門性を確立できるような研修会がもたれていないためであると思われる。

たとえ施設として施設外研修に職員を出席させていたとしても、施設外研修の開かれる頻度からして、また、それに参加することができるのは、施設内での順番に依っていることからしても、職員一人あたりが年に参加する研修の数は、かなり限られたものとなり、やはり継続的な施設内あるいは施設間の研修は必須のものであろう。

さらに、職員に対して研修の機会を増やしてい

くことは、職場の雰囲気を変えていくという上でも重要である。外からは何の問題のないように見える施設であっても、職員へのインタビューでは、「職場の人間関係の気まずさから辞めたくなることがある。」「辛い」という回答が出ており、施設長をはじめ施設を管理する者は、もっと、職員の職場環境に配慮することが求められているのである。それは、職員に対して「利用者を理解しなさい」と言ったり、あるいは「利用者への共感が必要」といった力量を求めるのと同様に、施設長に対して求められる感受性なのである。

（3）母子世帯にとっての「自立」とは？

ところで、母子生活支援施設の法的根拠でもある児童福祉法 38 条にも掲げているが、「自立」の促進と言ったときの、母子世帯の「自立」とは、いったいどのようにとらえられているのだろうか。

施設長・施設職員ともに、経済的な自立を多くあげているのと同時に、精神的なものや親子関係といった経済的な要因以外の生活の立て直しができた時点で、「自立」としている回答が見られた。

しかしこれが、母子生活支援施設利用との関連で、また、生活保護受給との関連で見たときには、施設長・職員ともかなり意見が分かれた。母子生活支援施設に関わってみれば、施設長は「施設利用の自立はあり得る」と言う意見が比較的多いのに対して、施設職員は、「施設を利用しながらの自立はあり得ない」という回答と、「〇〇ができていれば、」というように他の要件がクリアできていれば、すなわち条件付きの自立を述べている回答とに意見が分かれた。

さらに、生活保護受給をしながらの自立では、施設長が「あり得ない」という回答が多かったのに比べ、職員では、「あり得ない」と「(生活保護が)一部支給ならあり得る」と「あり得る」とに分かれていた。

一方、施設長や職員から見ると「一定の自立」をしていることとなる、地域に暮らす母子世帯からみると、どのような回答が得られるのであろうか。保育園・幼稚園の母子世帯へのアンケートで

は、やはり経済的な自立を中心に、「普通の」「一般的な」「父母のいる」生活をもって自立と見ている意見が多かった。

施設にいる間は、施設の外へ出ることが「自立」へのステップであり、いざ施設の外へ出てみると、今度は父母子家庭に近づくことが「自立」へのステップととらえられているようである。

(4) 母子生活支援施設の今後

最後に、母子生活支援施設が今後どのように展開していくべきかを考える際には、外から見た施設の評価が参考になる。第4章で見てきたように、地域における母子生活支援施設の認知はきわめて低い。母親たちは、訳のわからない施設だからこそ、施設に対しての要望をあげることもなく、そこは「特別な人に対する特別なところ」というイメージでとらえられている。このことは、施設の職員ですら就職するまでにその内容をほとんど知らないという現状からしても、十分に推測できる結果である。

しかし少数ではあったが、地域で暮らしていても、一度、施設の援助の内容を知ったならば、あるいは母子生活支援施設というものを経験した(現に入所している)という母親たちにとっては、母子生活支援施設は多くの利用者・地域母子に必要なところであると認識され、より良い施設設備やサービスの改善という要望や、将来的な施設利用を希望する回答も見られる。

母子生活支援施設の今後を考えていくには、まず、この「施設を知ってもらう」という一歩から歩み出さなければならない。ところで、周囲に対してこの施設を知ってもらうときには、「どのような特色の」施設として認知してもらう(広報していく)こととなるのであろうか。

施設内の母親たちの要望からは、親子が暮らしていくための設備面の改善や保育援助をはじめとしたサービスの展開、さらには対人援助としてのソーシャルワークの力量が求められているが、それらの向上は自明のこととして、将来的な施設の方向性が問われているのである。すなわち、地域

に暮らす母親たちのイメージや、「自立」をめぐる意見にもあったように、母子生活支援施設が「特別な人たちが自立前に利用する特別なところ」として、自立に向けた短期・一時的な施設として展開していくのか、あるいは、夫婦での子育ても困難な時代にあって、ひとり親で子育てをしている母親が援助を必要とすることはむしろ当然なことであり、母親の必要があれば子どもを育て上げるまで援助が継続されてもいいのだという考え方で展開していくかである。

母子生活支援施設が行う援助全体としては、後者の流れの中で地域支援も展開されて来ているが、「施設内」に限ってみると、前者の特徴を有しているといえよう。

いずれにしても、こうした議論は、いまだ緒に就いたばかりであり、第一線で母親とその問題に向き合っているソーシャルワーカーとともに考え、実践を積み上げながら新しい母子生活支援施設の形態を模索していかなければならないだろう。それが正しい・正しくないといった安易な判断ではなく、重要なことは利用者がサービスを選択できる選択肢がたくさんあること、そして、どの家族にも子どもが健やかに育つ環境が整えられているということである。そこにこそ、母子福祉施設ではなく、児童福祉施設としての母子生活支援施設のアイデンティティがあり、また、ソーシャルワークの原点ともいえるべき、「個人」ではなく「家族」を対象としている母子生活支援施設のソーシャルワークのおもしろさと難しさが存在しているのである。

資料1：「母子生活支援施設に対する調査(施設長に対するの質問事項)」

I. 施設のアウトライン(確認事項)

1. 設立年はいつですか
2. 公立ですか私立ですか?
3. 定員数(世帯数)と充足数(世帯と子ども数)
4. 職員について:各職員の職種と年齢・性別、常勤・非常勤の別

5. DV 法対応について
6. 実施している保育サービス：ナイトケア・病児保育など
7. その他、施設で行っているサービス

II. 前回の調査を受けて

1. 調査結果に対する感想
→なかでも、施設への要望についての感想は？
2. (個々の施設への不満や要望を提示して) 改善、あるいは変化のあった点
3. 変化のない場合についての説明・回答など
4. 今後へ向けて
→施設内では？
→施設の外へ向けては？

III. (一部の施設長に対して) 母子世帯の自立について

1. 母子世帯の自立とは？
2. 母子生活支援施設にいての自立はあり得るか？
3. 生活保護受給を品柄の自立はあり得るか？

資料2：「母子生活支援施設に対しての調査（職員に対しての質問事項：主任レベル・新人各1名づつに）」

I. フェイスシート

1. 性別
2. 年齢
3. この施設での経歴年数
4. それまでの簡単な職歴
5. 学歴

II. 母子生活支援施設の職員となって

1. はじめてこの仕事に就いたときは、どう思ったか？
2. この仕事で大変だと感じたとき（こと）は？
3. この仕事でうれしさを感じたとき（こと）は？
4. この施設の職員になってからの研修経験
→施設外研修
→施設内研修
→個人的に参加している研修
5. 現在、母子生活支援施設の職員となって大

切なことは何だと思うか？

III. 自立助長への成功例について

1. 自分が関わったケースの中で「自立」援助がうまく行ったと思う例を挙げてもらう。
(新人の場合には、自分が関わったケースでなくとも、印象に残っているケースを挙げてもらう。それも難しい場合には、自分が考える「成功」例とは何かについて話してもらう。)
- ①家族構成
- ②母子世帯、および入所に至った経緯
- ③援助を必要とした課題と、それに向けての援助内容
→母親に対して：
→子どもに対して：
→その他、親戚や関連機関などに対して
- ④事例の予後
- ⑤自分が「うまく行ったと思う」理由

IV. 自立助長への失敗例について

1. 自分が関わったケースの中で「自立」援助がうまく行かなかった（行かない）と思う例を挙げてもらう。
(新人の場合には、自分が関わったケースでなくとも、印象に残っているケースを挙げてもらう。それも難しい場合には、自分が考える「失敗」例とは何かについて話してもらう。)
- ①家族構成
- ②母子世帯、および入所に至った経緯
- ③援助を必要とした課題と、それに向けての援助内容
→母親に対して：
→子どもに対して：
→その他、親戚や関連機関などに対して
- ④事例の予後
- ⑤自分が「うまく行かなかったと思う」理由

V. 生活保護とそれ以外の母子家族に対する感じ方と意見（一般論として）

1. 生活保護を受給している母子家族と、受給していない母子家族との差はあると思いますか。あるとすればどんなことですか。
2. 一般に、貧困は個人的な原因（例：怠け、

病気、アル中など)で起こると思いますか、社会的なこと(失業など)で起こると思いますか、あるいは両方で起こると思いますか。また、生まれ育った家族の影響は大きいと思いますか。

3. 生活保護受給世帯の生活水準を、施設内の受給していない他の世帯と比較して、どのくらいだと思いますか(高い方、中くらい、低い方)。また、世間一般との比較ではどう思われますか(高い方、中くらい、低い方)。

4. ところで、あなたの家庭の生活水準をあなたはどのように思われますか(高い方、中くらい、低い方)。

VI. 一般的に、母子家族の指導や支援にとって何が必要だと考えますか。(特に、就労支援をめぐって)

1. 就労のための職業訓練
2. 就労先の問題
3. 就労中の子どもの保育
4. しつけ、家庭生活等
5. 就労問題以外で、母子家族の指導・支援をする上で、もっとも難しいと思われる課題、問題は何ですか(前夫との関係、負債を抱えている場合、子どもに問題がある場合、母親自身が問題を抱えている場合など)。

VII. 母子生活支援施設の今後

1. 母子生活支援施設は、今後どうあるべきだと思いますか。施設利用者に対しての改善が必要だとと思われることを教えてください。
2. 母子生活支援施設は、今後どうあるべきだと思いますか。地域で暮らす母子家族も含めて施設の外へ向けての改善が必要だとと思われることを教えてください。

資料3：「地域で暮らす母子世帯から見た母子生活支援施設に関するアンケート」

質問紙項目

I. あなたのご家族についておしえてください。

1. あなたのご家族は次のどれに近いですか。

- ①母+子 ②母+子+祖父母 ③母+子+祖

父母+そのほかの家族員

④その他()

2. 問1で、①とお答えになった方におたずねします。あなたのご両親や親戚は、近くにすんでいらっしゃるでしょうか。

①市内に住んでいる

②日帰りで行けるところに住んでいる

③もっと遠いところに住んでいる

II. 母子生活支援施設についてご意見をお聞かせください。

1. 「母子生活支援施設(旧・母子寮)」をご存じですか。

①名前も聞いたことがない

②名前だけ聞いたことがある

③名前も施設の内容も知っている

④以前に利用したことがある

2. 「母子生活支援施設(旧・母子寮)」に対して、どのようなイメージや感想をもたれますか。ご自由にお書きください。

3. 今後、母子生活支援施設を利用したいと思えますか。

①利用してみたい

②利用したいと思わない

③わからない

→それはなぜですか。

4. では、これまでに、地域で暮らしていくうえで、何か困ったことがありますか。

5. 地域に暮らしている母子世帯に対して、母子生活支援施設が行ってほしいサービスには、どのようなものがありますか。

6. あなたにとって、母子世帯が「自立」するということは、どのようなことだと思いますか?

7. 最後に、あなたは母子世帯の状況をよりよい方向へと変える場合、どんなことをもっとも変えたい・変えて欲しいと思えますか。あるいはこれまでの経験から、これだけはいいたいということがありましたら、具体的に教えてください。

(北海道医療大学看護福祉学部助教授)